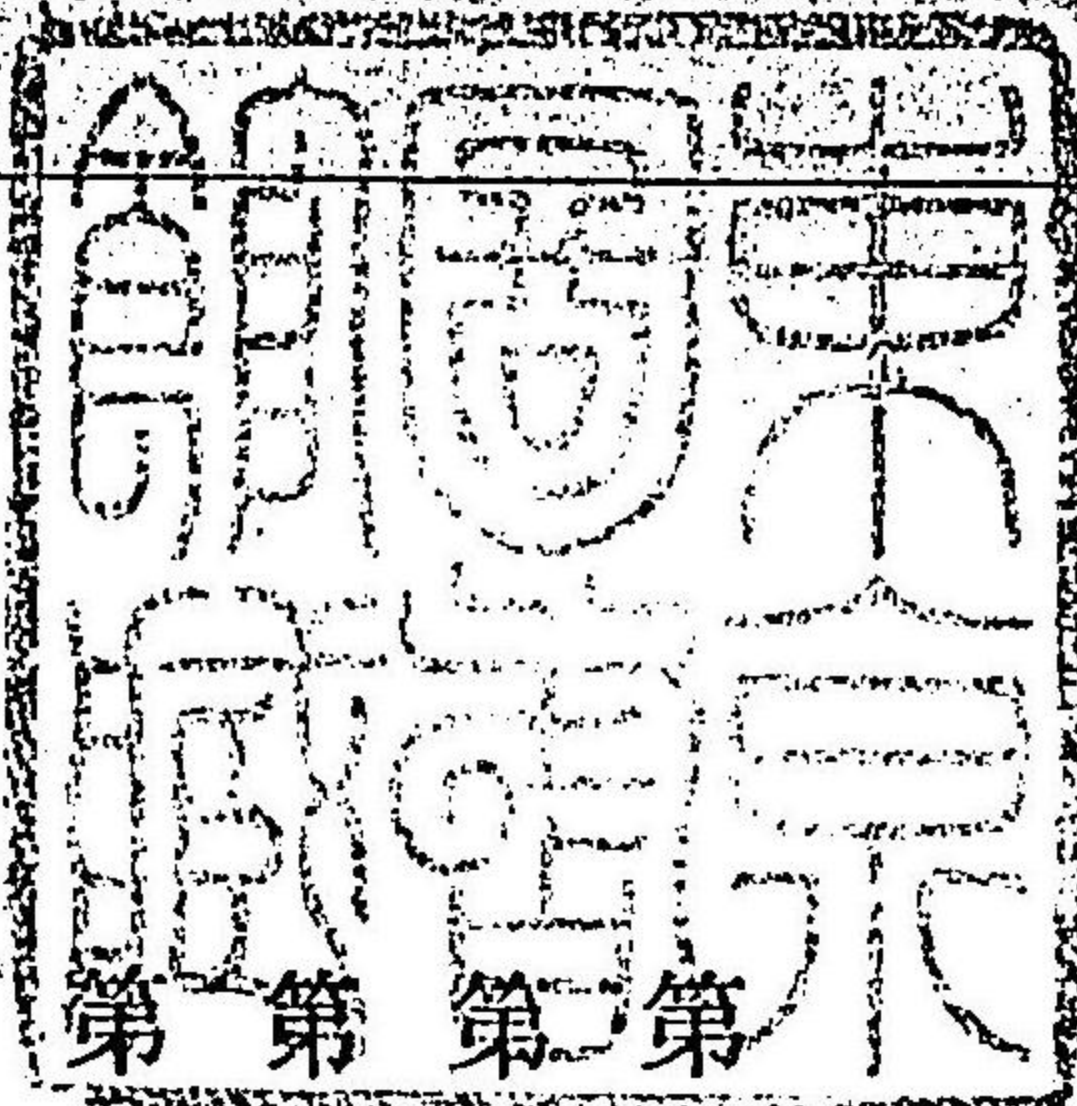


No 330/XIV



帝國憲法目次

緒論

第一章	天皇	公法	一
第二章	臣民ノ權利義務	六	二
第三章	帝國議會	七	九
第四章	國務大臣及樞密顧問	七	二
第五章	司法	一〇	二
第六章	會計	一〇	六
第七章	補則	一四	四

帝國憲法目次



031750-000-7

14-249口

帝國憲法講義

穂積 八束ノ述

M24?

BBE-0377



帝國憲法目次終

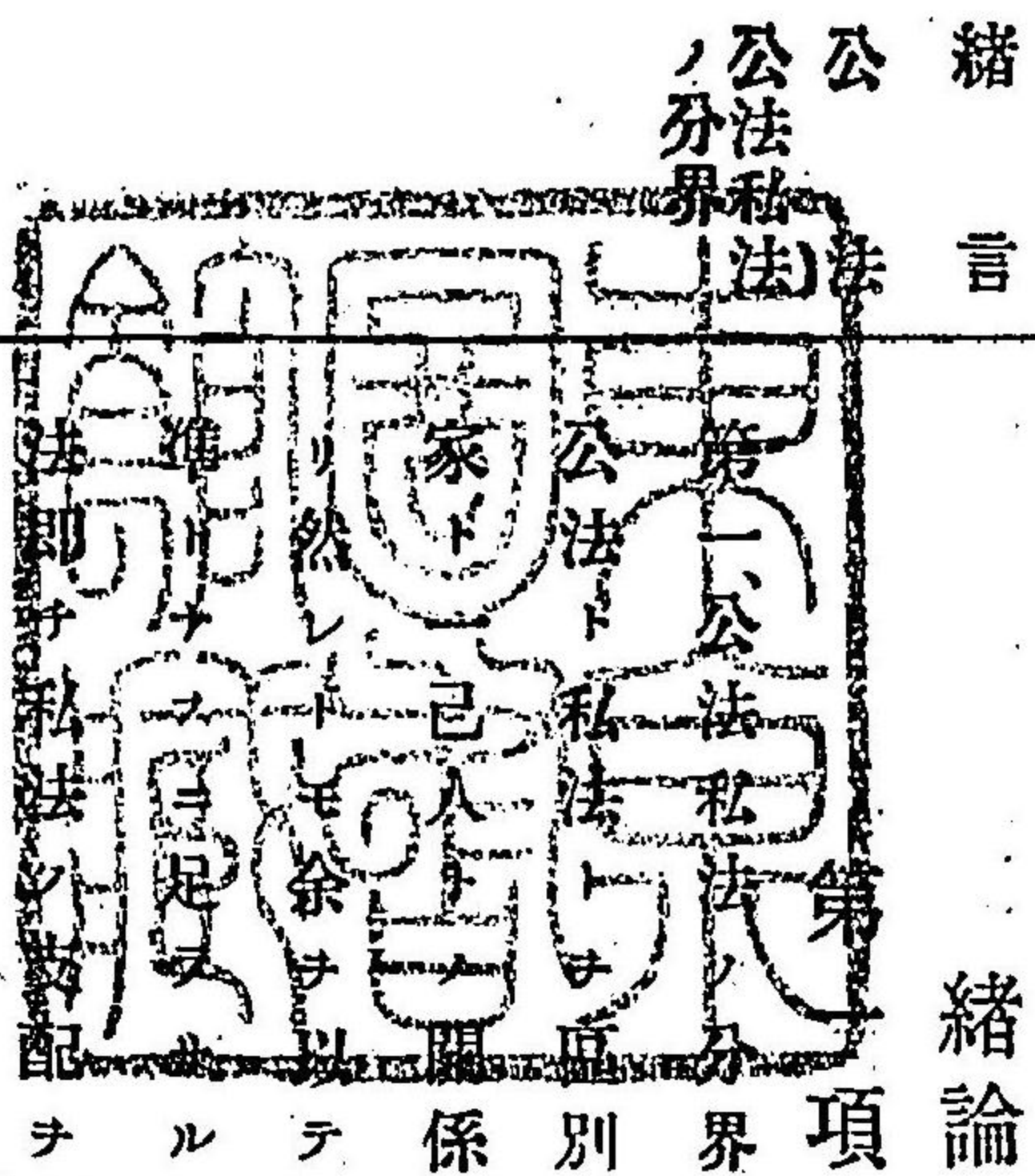
帝國憲法講義

文學士 穗積 八束 講述
校 友 荒井 操 編輯

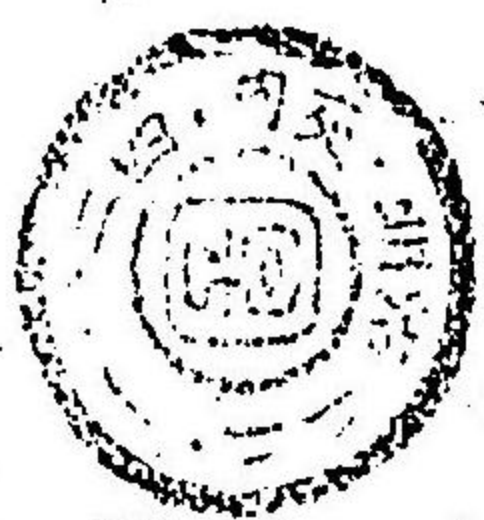
第一回

緒論

公法



別スルニ凡三種ノ學說アリ而シテ其第一種ノ說ハ公法トハ國
 家ト關係ヲ規定スル所ノ法律ナリト云フニア
 テ之ヲ見レハ此說タル決シテ公法私法ノ分界ヲ劃定スルノ標
 ルナリ何トナレハ國家ト一己人トノ關係ト雖モ往々ニシテ民
 ナ受クヘキモノアレハナリ而シテ其國家ト國家トノ關係ニ於
 ケルモ尙且全一ニシテ民法即チ私法ノ支配ヲ受クヘキモノ誠ニ鮮シトナサ
 ナリ故ニ此說ハ到底今日ノ學說トシテ尊崇スヘキモノニアラス然ラハ其第三種



ノ説ハ如何ト云フニ今其唱道スル所ヲ要言スレハ公法ハ公益ヲ目的トシテ定メ
タル所ノ法規ニシテ私法ハ一己人各箇ノ私益ヲ目的トシテ定メタル所ノ法規ナ
リト云フニアリ然レトモ此説ヲ難スルモノハ曰ク凡テ法律ハ公益ノ爲メニ設ケ
タルモノニシテ決シテ一己人ノ私益ノ爲メニ設ケタルモノニアラス且夫法律
規則ノ目的トスル所ハ其法律規則ニ依リテ公益ヲ保護スルニアルカ又ハ私益ヲ
保護スルニアルカト云ヘル區別ヲシテ判然明確ナラシムルニアレハ今論者ノ説
ノ如ク利益ノ公私ヲ以テ法律ノ公私ヲ區別セントスルハ頗ル正鵠ヲ誤ルモノト
云ハサルヘカラス余モ又甚々難者ノ説ヲ贊スルモノナリ而シテ余ハ獨リ第三種
ノ説ヲ以テ最モ近世ノ學理ニ合シ法理上大ニ價值アルモノト信スルナリ蓋第三
種ノ説ハ公法ハ權力ノ關係ヲ規定スルモノニシテ私法ハ財産上ノ關係ヲ規定ス
ルモノナリト云フニアリ而シテ此説タル未ダ一般ニ學術社會ニ普及セスト雖ト
專ラ近世ノ發達ニ係リ羅馬法ノ大家カ噴々トシテ主張スル所ナリ實ニ此説タル
一見甚々簡單ナルカ如シト雖モ能ク其意義ノ幽微ヲ分析シ仔細ニ之カ要領ヲ玩
味スルトキハ其思想ノ基ク所ハ頗ル學術的ニシテ尋常一樣ノ俗説ト其科ナリ同フ

公法ノ特
性

セサルヲ見ルナリ
第二公法ノ特性
余ハ之ヨリ第三種ノ説ニヨリテ公法ノ特別ナル性質ヲ説明セントス
公法ハ人身ノ自由ヲ制限セルコトヲ目的トスルモノナリ凡テ法律ナルモノハ權
力アル者ヨリ權力ナキ者ニ對シテ其自己カ欲スル所ヲ強行スルノ性質ヲ帶フル
モノニシテ實ニ他人ノ自由ヲ制限スルハ法律ノ精神ナリトス若シ夫レ一己人ニ
シテ他ノ一己人ニ對シテ自由ヲ制限スルコトアラシカ國家ノ秩序ハ夫レ何ヲ
以テ立タンヤ是ヲ以テ法律ハ一己人カ一己人ニ對シテ直接ニ其自由ヲ制限スル
コトヲ許サスシテ之カ特權ヲ以テ主權者一人ノ手ニ專有セシメタリ是故ニ諸君
ハ一己人ト一己人トノ間ニハ權利義務ノ關係起リ主權者ト一己人トノ間ニハ命
令ト服従トノ關係起ルコトヲ記慮セラレサルヘカラス故ニ例ヘハ甲者カ乙者ヨ
リ金錢ヲ借入レ之ヲ返濟セサルコトアリトセハ乙者ハ主權者ノ力ヲ借りテ其自
由ヲ制限シテ之カ義務ヲ果サシムルコトヲ得レトモ乙者自ラ直接ニ甲者ニ迫リ
テ之ヲ取立ルコトヲ得サルナリ否ナ如此ハ主權者ノ斷シテ許サ、ル所ナリ何ト

持たぬは...
許さぬは...
三

ナレハ甲乙各箇人ノ間ニハ權利義務ノ關係起ルモ命令ト服従トノ關係ハ國家ト一己人トノ間ニアラサレハ起ラサルヲ以テナリ是等ノ理由ヨリシテ所謂民法ノ目的トスル所ハ各箇人ノ間ニ直接ニ他ノ自由ヲ制限スルコトヲ爲サスシテ單ニ財産上ノ關係ヲ規定スルニ止ルモノナルコト明白ナリ然レトモ民法ヨリ生スル關係ト雖モ其權力ノ問題ニ推移リ命令ヲナシ強迫ヲナシ身代限處分ヲナシ之カ義務ヲ果サシムル場合ニ立至ルトキハ公法ノ部類ニ屬スヘキコト素ヨリ多言ヲ待タサルナリ

別公法ノ種

第三、公法ノ種別

公法ハ命令ト服従トノ關係ヲ規定スル法律ニシテ普通之ヲ分テ憲法、行政法、刑法、治罪法及ヒ訴訟法ノ五種トナス然レトモ是等ノ區別タル素ト研究ノ便宜ノ爲メニ設ケタルモノニシテ決シテ學術的ノ主義ニ基キタルモノニハアラサルナリ今夫レ純然タル學理ニ依リテ區別ヲナストキハ公法ハ之ヲ分テ二種ニ區別スルコトヲ得ヘシ即チ第一ノ區別ハ法律規則ハ何等ノ事柄ヲ規定シタルモノナリヤト云ヘル所謂物質的(マテリアル)ノ區別ニシテ第二ノ區別ハ法力即チ檢束力ノ條規

ニシテ所謂形式上(ホームメル)ノ區別ナリトス

今其第一ノ物質上ヨリ區別ヲナストキハ之ヲ分テ國法及ヒ行政法ノ二種トセサルヘカラス而シテ此ニ所謂國法トハ國家主權ノ作用ニ於ケル規則ニシテ政權ノ組織ヲ規定スルノ法規ナリトス故ニ普通ニ憲法ト稱スルモノ、國法ノ中ニ屬スヘキハ勿論其他裁判所ノ構成法ト云ヒ行政官府ノ官制ト云ヒ自治体ノ組織ト云ヒ苟クモ政權ノ組織ヲ定メタル所ノ法律ハ湊合一括シテ國法ノ中ニ包羅含蓄セラルヘキコト元ヨリ多辯ヲ待タサルナリ而シテ行政法ハ主權ト一己人トノ命令服従ノ關係ヲ定メタルモノニシテ已ニ國法ヲ以テ組織サレタル國權ノ凡テノ機關カ一己人ニ觸レテ法律上ノ關係ヲ惹起スニ及ヒ其之カ關係ヲ規定スル所ノ法律ナリ然レトモ此ニ注意スヘキハ普通ニ行政法ト稱スル所ノモノハ行政ノ組織及ヒ一個人ト行政官トノ關係ヲ規定スル所ノモノヲ指スモノナレトモ茲ニ所謂行政法トハ普通ニ行政法ト稱スルモノヨリハ大ニ其趣ヲ異ニセルコト是ナリ諸君中或ハ已上ノ國法及行政法ノ區別ヲ以テ新奇ニ失スルノ思想ナリト難セラル、モノアラシク然レトモ是レ決シテ余カ恣ニ立テタル區別ニアラス實ニ近世大家ノ

定説ニ係ルモノナリ而シテ又其第二ノ形式上ヨリ區別ヲナストキハ之ヲ分テ四種トナスコトヲ得ヘシ即チ第一憲法、第二法律、第三敕令、第四行政命令即チ是ナリ而シテ此四種ノ區別ハ專ラ法力上ヨリ看察ヲ下シタルモノニシテ憲法ハ實ニ法力ノ最モ強キモノナリトス故ニ法力ノ最モ強キ法規ヲ稱シテ憲法トハ名ケタルナリ左レハ憲法ト云ヒ法律ト云ヒ敕令ト云フノ區別ハ其含蓄スル所ノ材料ノ異ナルアルカ爲メニアラステ二法ノ相衝突シタルトキハ何レノ法力カ尤モ強キヤト云ヘル點ヨリ定メタル所ノ區別ナリト知ルヘシ

國家

第二項 國家

國家ノ本義ハ憲法學ノ中ニ於テ研究スヘキ問題ニアラスシテ國家學ノ上ニ於テ論定スヘキ問題ナリ而シテ國家ト云ヘル觀念ハ法律上ニテハ究メテ濳泊ナル觀念ニシテ別ニ攻究ヲ要スヘキ程ノ價值アルモノニハアラス故ニ殊更ニ國家ト云ヘル文字ヲ用ヒサルモ法理ノ研究ハ十分爲シ遂ケラル、モノナリ借テ民法上ニ於テ財產ヲ有スル主体ヲ認メテ人ト云ヒ物件ト相對峙セシムルカ如ク公法上ニ於テモ命令ノ主体タルモノヲ認メテ公法上ノ人ト名ケ服從者即チ統御ノ客体ト

ラビシド
ノ
ニ
ニ

相對峙セシムルモノトス而シテ所謂國家トハ此命令ヲ發スル人ニシテ之ヲ稱シテ主權ト云フ蓋シ主權トハ最上ノ命令權ト云フノ義ナリ故ニ余ハ主權ナクシテ命令ヲ發スル所ノ機關ハ之ヲ稱シテ國家ト云ハス單ニ地方自治体ト名ケントス國家ト自治体トハ共ニ公法上ニ於テ人ト云ヘル資格ヲ有シナカラニハ自己固有ノ命令權ヲ有シ一ハ他ノ讓與若クハ委託ニヨリテ命令權ヲ宣行シ得ルニ過キサルナリ而シテ其自己固有ノ權利ニヨリテ命令ヲ發スル所ノ体ヲ名ケテ國家トハ云フナリ然ルニ或者ハ國家ヲ以テ主權者ト國土ト臣民トニヨリテ成立スル所ノ集合体ナリト云ヒ又或者ハ國家ヲ以テ人民ノ幸福ノ爲メニ一ケノ組合体ヲナシタルモノナリト云ヒ又或者ハ國家ヲ以テ有機体ノ作用ヲ保ツ所ノ生物ナリト云ヘリ夫レ如此種々ノ觀念ハ皆歷史上若クハ政治學上ニ基キタルモノニシテ頗フ爽利ナル思想ナリ而シテ余カスル爽利ニシテ且有益ナル思想ヲ理用シテ法理ヲ說シコト能ハサルハ法律上、國家ト云ヘル觀念ノ極メテ濳泊ナルカ故ナリ

憲法

第三項 憲法

余ハ前ニ憲法トハ法律ノ上ニ聳立スル所ノ規則ナリトノ定義ヲ與ヘタリ然ルニ

普通ニ憲法ヲ定義スルモノニハ物質的ノ思想若クハ形式的ノ思想ヨリ之カ斷案
 ナ下スモノ多シ例ヘハ憲法トハ主權ト臣民トノ間ニ於ケル關係ヲ規定スル所ノ
 法律ナリト云ヘル定義ナ下スモノ、如キ即是ナリ然レトモ是等ノ定義ハ或ハ適
 當ナル場合モアルヘシト雖モ又或ハ不適當ナル場合モ之ナキニアラサルヘシ何
 トナレハ主權者カ憲法トシテ布告シタル法律ニシテ主權者ト臣民トノ關係ヲソ
 ミ規定シタルモノナラシメハ此ノ定義ハ誠ニ適當ニシテ且正確ナルモノナルヘ
 シト雖モ其然ラサル場合ニハ大ニ不適當ニシテ且正確タルヲ免レサレハナリ
 試ニ我帝國憲法ヲ繙テ見ルニ其規定スル所ハ各種ノコトニ涉リ或ハ臣民ノ權利
 義務アリ或ハ財政ノコトアリ或ハ兵馬ノコトアリ或ハ皇室一家ノ私事ニ涉ルコ
 トアリ故ニ若シ吾人ニシテ憲法ヲ物質的即チ其包含スル所ノ材料ヨリシテ定義
 ナ下サント欲セハ憲法夫レ自身ヲ開卷ノ始メヨリ大尾ニ至ルマテ朗讀スルノ外
 アルヘカラス然レトモ如此定義ノ仕方ハ畢竟立法的ノ觀念ナリ憲法改正ノ立案
 ナリ既ニ制定セラレタル法典ヲ法理的ニ解剖スルトキハ專ラ眼ヲ法力ノ一點ニ
 注キ法律ヲ以テ變更シ得ヘカラサル一種ノ命令ナリト云ヘル定義ヲ與ヘサルヘ

カラサルナリ尤モ此憲法中ニ包含スル材料如何ニ至リテハ以下着々講述スル所
 ナ以テ了解セラル可シ

第二一回

憲法ナル語ニ二様ノ意味アリ第一種ハ其包含スル所ノ事柄ニ就テ定義ナ下シタ
 ルモノニシテ或ハ之ヲ稱シテ國家ノ組織法ト謂ヘリ今夫レ憲法ト行政法ト相
 對峙セシメテ之ヲ謂フトキハ憲法ナル語ハ專ラ此意味ニ於テ用ヰラル、モノナ
 リ普通ニ憲法ヲ註解シテ政府ト人民トノ權利義務ノ關係ヲ規定スルモノナリト
 云ヒ或ハ之ヲ稱シテ政府ノ組織ヲ論スル法ナリト云ヘルハ全ク其包含スル所ノ
 材料ヲ指シテ定義ヲ與ヘタルモノナリ此定義ニ從フトキハ憲法トハ憲法ト名ケ
 テ布告サレタル法典ハ勿論法律ニマレ勅令ニマレ或ハ歷史上ノ習慣法ニマレ悉
 テ皆ナ其一部ヲ組成セルモノト云ハサル可カラス蓋シ憲法ヲ如此解釋スルノ主
 義ハ一般ノ國法論ニ於テハ通常用ユヘキコトナレトモ我帝國憲法ノ正條ヲ解釋
 スルニ方リテハ決シテ此主義ニ從フコトヲ得サルナリ何トナレハ帝國憲法ノ箇
 條中ニハ其性質ニ於テ行政法ノ規定ニ屬スヘキ事柄アリ又民法刑法又ハ治罪法

ノ原則ニ屬スヘキ事柄アレハナリ而シテ又憲法ノ一部ヲナスヘキ法律ニシテ勅令ヲ以テ布告サレタルモノアリ例ヘハ貴族院組織法ノ如キ是ナリ故ニ余輩ハ到底此第一種ノ定義ニ從テ帝國憲法ノ譚廷ヲ張ルコトヲ得サルナリ即チ余輩ハ斷然第一種ノ定義ヲ捨テ、專ラ第二種即法力ノ上ヨリシテ之カ定義ヲ與ヘ之ニ依テ我帝國憲法ノ譚義ヲナサンコトヲ主張スルモノナリ余輩カ此ニ所謂憲法トハ一種ノ成文法典ニシテ其法力尋常法律ノ上ニ聳立スル所ノモノヲ指シ普通立法ノ手續ヲ以テ變更シ得ヘカラサルモノヲ云フナリ而シテ我帝國憲法ハ實ニ此種ノ法律ニ屬セリ今諸君ノ參考ニ供センカ爲メニ外國ノ憲法ノコトヲ一言ス可シ

歐洲ニテハ所謂立憲政体ト稱スルモノニ種々ノ區別アリ英國ノ如キハ憲法ヲ以テ全ク國家ノ組織ニ關スル成文及不文ノ法ヲ指シタルモノトナシ別ニ尋常ノ法律ト効力ヲ異ニセル所ノモノニアラストセリ然レトモ佛國ノ憲法ハ全ク之ニ反シ尋常ノ法律トハ其起源ヲ異ニシ之ヲ制定シ之ヲ改正スルニ當リテハ大統領及國會ノ立法權ニヨラスシテ別ニ國會ナルモノヲ組織シテ臨時ノ會議ヲ開キ此會議即チ主權ノ代表者トナリテ憲法ヲ規定スルヲ常トス故ニ佛國ニアリテハ憲法

ハ大統領ハ無論國會ノ立法權ヲモ檢束スル所ノ主權者ノ命令ナリト云ハサルヘカラス又獨乙諸邦ノ法律ニヨレハ憲法ハ欽定ナルヲ以テ之ヲ制定スル所ノ人ト尋常ノ立法權ヲ有スル所ノ人トハ全ク同一ノ人ニシテ二者皆君主ノ命令ニ出サルハナシ唯君主自身ニ於テ其自己ノ命令ニ効力ノ差ヲ設ケタルニ過キサルノミ但憲法ハ濫リニ之ヲ改正スルヲ欲セサルカ故ニ其改正ハ尋常立法ノ手續ヨリハ一層鄭重ナラサルヘカラストノ主義ニ至リテハ各國其軌ヲ一ニセリ

大日本帝國トハ日本帝國ヲ統御スル所ノ主体ヲ指スニアラストシテ主權者及臣民國土ヨリ成立スル所ノ一ノ國体ヲ指シタルモノナリ故ニ帝國即チ主權者ナリト解釋スルハ大ニ其意ヲ誤ルモノナリ蓋シ帝國ト國家トハ共ニ國法學上ノ技術語ナレトモ全ク別種ノ意味ヲ有シ國家トハ實ニ主權者ノコトヲ指稱スルモノニシテ學理上ヨリ之カ斷案ヲ下ストキハ國權ト云ヘル語ハ恰モ國家ト云ヘル語ト同一ノ意義ヲ含蓄セリ然ルニ人往々ニシテ之ヲ誤解シ國家ヲ指シテ人民ト國土ヨリ成立スル所ノ一ノ國体ナリト云ヘリ是レ蓋シ有形的ナル帝國ト云ヘル觀念ト無形的ナル國家ト云ヘル觀念トヲ混一シタルモノニシテ素ヨリ探ルニ足ラサ

第一章 天皇

本章ニ於テ規定セラル、所ノ事柄ハ専ラ天皇ノ大權ニ屬スルモノナリ然レトモ此ニ注意スヘキハ歐洲各國ノ憲法ニ於テ天皇ノ大權ト稱スルモノト我帝國憲法ニ於テ天皇ノ大權ト稱スルモノトハ法理上自ラ其意義ヲ異ニセルコト是ナリ天皇ハ主權者ナリ主權者トハ最高ノ命令權ヲ掌握セル所ノ人ナリ蓋シ主權ト云ヘル意義ヲ消極的ニ觀察テ下ストキハ他ヨリ毫モ制限ヲ受ケサルコトヲ意味シ又之ヲ積極的ニ觀察テ下ストキハ其臣民ニ向テ無制限ナル命令權ヲ有スルコトヲ意味スルモノナリ若シ夫レ主權ニシテ右二個ノ要件ヲ具備セサルトキハ其物タル必ス主權ニアラスシテ主權ノ機關ナルカ又ハ之カ代表者タラサルヘカラス而シテ若シ君主ニ完全ナル主權ナシトスルトキハ其他ノモノニ向テ主權ノ所在ヲ求メサル可カラス歐洲各國ノ憲法ハ實ニ主權ヲ君主ノ外ニ置ケルモノ多シ例ヘハ歐洲大陸ニ於ケル立憲制度ノ模範トナレル白耳義ノ國憲ノ如キ即是ナリ而シテ白耳義ノ國憲ハ佛國ノ王朝ニ於ケル國憲ヲ移植シタルモノニシテ獨乙殊ニ

普魯西ノ國憲ハ白耳義ノ國憲ヲ模倣シタルモノナリ故ニ其法理ノ基ク所ヲ論ゼンニハ專ラ之ヲ白耳義ノ憲法ニ遡リテ研究セサルヘカラス白耳義ノ憲法ヲ註釋シタル有名ナルトミサン氏ノ說ニヨレハ白耳義國ハ法理上ヨリ見レハ民主ノ國ニシテ國王ハ最高ナル官吏ナリ而シテ其世襲繼承ヲ許シタルハ國王ノ地位ヲ爭フカ爲メニ國內ニ擾亂ノ生センコトヲ恐レタルカ故ナリ故ニ我輩ハ國王ニ尊敬ノ意ヲ至スニ吝ナラズト雖モ憲法第五十二條及其他ノ明文ニ於テ凡テ國憲ハ國民ヨリ出ルモノナリト明言シタル所以ナリト云ヘリ然ルニ今此法理ヲ普魯西ニ適用スルトキハ一千八百四十三年ノ憲法會議ニテ此條ヲ翻譯シタルトキヨリ普魯西ノ國體ハ爲メニ之ヲ變換セサルヘカラスナルニ至ル可シ故ニ普魯西ニテハ殊更ニ此箇條ヲ棄却シタリ(此事ハ當時ノ憲法會議錄ニ詳ナリ)獨乙ノ國法ニ於テハ憲法ハ君主ノ命令ニシテ君主即主權者ナリ君主ハ國民ノ委託ヲ受ケテ國民ノ權利ヲ執行スルモノニハアラサルナリ故ニ憲法ヲ作りテ主權ノ作用ヲ規定スルハ恰モ裁判所ノ構成法ヲ設ケテ主權ノ作用ヲ規定シ行政官衙ノ官制ヲ設ケテ主權ノ作用ヲ規定スルト同一ノ法理ニ則ルモノナリトノ原則ヨリ出テタルモノナリ

而シテ我帝國憲法ノ法理ニ於テハ天皇已外ニ最高ノ權力ヲ置カサルヲ以テ天皇即チ主權者タルノ原則ハ少シモ損スル所アラサルナリ然レトモ英國ノ君主ハ議院ト相竣テ一ノ團體ヲ爲スモノニシテ獨立シテ主權ヲ掌握セルモノニアラサレハ同國ノ憲法上ニアリテハ君主即チ主權者タルノ原則ハ到底採用セラルヘキニアラサルナリ

天皇ノ大權ナル意義ハ各國言語同一ニシテ意味頗ル錯綜セリ白耳義獨乙及佛國ニ於ケル王朝時代ノ憲法ヲ見ルニ君主ハ行法ノ權ヲ有ストアリ乃チ君主ハ法律ノ定メタル範圍内ニ於テ法律ヲ執行スル權力ヲ有スルナリ蓋シ右等各國ノ國體ニ於テ天皇ノ大權ト云ヘルハ憲法上ニ於テ君主ニ許與シタル所ノ權力ヲ指シタルモノナリ然レトモ反之主權者即チ天皇ニシテ憲法ハ他ノ官制法律ト同シク天皇ノ命令ナリトノ原則行ハル、國體ニアリテハ天皇ノ大權ト云ヘル語ニ二様ノ原素ヲ含蓄セリ即チ憲法ノ文面ニ於テ天皇ノ特權ト認メタル箇條其一ニシテ法律ニ觸辰スルコトヲナサス法律ノ範圍内ニ於テ勅令ヲ發スル所ノ大權其二ナリ是即チ帝國憲法第九條ノ規定ニヨリ天皇ニ歸スル所ノ大權ニシテ歐洲各國ノ憲

法上稱シテ天皇ノ大權若クハ君主ノ特權トナス所ノモノナリ而シテ我帝國憲法ハ法律ト相對スル全等ナルコト或ハ法律ノ上ニアル天皇ノ大權ヲモ認識セリ一例ヲ示サハ皇室典範ノ如キ是ナリ歐洲各國ノ例ニ依レハ皇室典範ノ如キモノハ憲法ノ一部分ナルカ若クハ法律ノ一部分ナルカ二者中其一ニ居ラサルヘカラス然ルニ我帝國憲法ニ於テハ其第二條ニ於テ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承スト明記シ皇位繼承ハ一ニ皇室典範ノ定ムル所ニ任セ法律ヲ以テ變更シ得サルモノトナセリ故ニ若シ國會ニシテ假リニ皇室典範ノ規定ニ抵觸スル所ノ法律案ヲ議決シタリトセンカ是レ取リモ直サス憲法ニ抵觸シタル議決ナリト謂ハサルヘカラス若シ夫レ皇室典範ハ法律ヲ變更スルコトヲ得サルモノナレハ法律モ亦皇室典範ヲ犯スコトヲ得サルヤ論ヲ竣タサルナリ然レトモ二者ノ間決シテ法力ノ上下ヲ爭フニアラス只其規定スヘキ所ノ區域ヲ異ニセルノミ而シテ又我帝國憲法ハ天皇ノ兵馬ノ權ト云ヒ宣戰講和及條約ノ權ト云ヒ凡ソ是等各種ノ國家重要ナル事柄ハ之ヲ尋常法律ヲ以テ現定スルコトヲ禁止シ總テ主權者ト法律ト相對セル命令ニ一任セリ是等ノ場合ヨリ推察スルトキハ我帝國憲

法ハ法律ヲ執行シ又ハ法律ノ足ラサル所ヲ補フヲ以テ天皇大權ノ制限トナサス
シテ明ニ法律ト相並ヒ合ヒタル所ノ大權ヲ認メ居ルモノナリ余輩歐洲各國ノ憲
法ト我帝國憲法トヲ比較評論セントスルモノハ須ラク注意セサルヘカラサルナ
リ

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

本條ハ我日本ノ國體ノ純然タル君主國タルコトヲ宣言シタルモノナリ而シテ今
本條ヲ分疏講明セントスルニハ外國ノ國體ヲ比照セサル可カラズ
夫レ國民ト主權者ト同一ノモノニシテ國民カ代議士ヲ撰舉シテ代議ノ區ヲ構成
シ而シテ自ラ之ニ服從シテ國家ノ秩序ヲ保維スルノ國柄ニアリテハ良シヤ君主
ト名ケラレタルモノカ國中第一ノ榮譽ノ地位ヲ占ムルコトアルモ學理ハ之ヲ以
テ共和ノ政体ト見做スモトス例ヘハ白耳義ノ國體ノ如キ又獨乙帝國ノ國體ノ
如キ是ナリ蓋獨乙皇帝ノ名稱ハ一ノ榮譽ノ稱號タルニ止リ彼レハ決シテ主權ヲ
掌握セル所ノ人ニアラス反之普魯西國王ハ臣民ヲ統御スルノ權力ヲ有シ普魯西
人ハ完全ナル服從ノ義務ヲ負ヘリ故ニ自ラ代表人ヲ出シテ其制定シタル所ノ法

律ニアラサレハ服從セスト云ヘル法理ニハ則ラサルモノナリ左レハ普魯西ノ國
會ハ君主カ一國ヲ統御スル一ノ便利ナル機關タルニ過キサルナリ反之英國ノ國
會夫レ自身ト帝王トハ常ニ相提携シテ一國ヲ經倫スルノ政体ヲ執レリ法理學上
ニテハ之ヲ稱シテ議院制ノ君主國ト云ヒ純然タル君主國トハ云ハサルナリ然リ
而シテ我帝國憲法ノ規定ハ天皇及ヒ國會カ統御スト云ハスシテ明ニ日本帝國ヲ
統御スルモノハ唯リ天皇一人ナリト明言セリ果シテ然ラハ我帝國ニ於ケル政府
及ヒ國會ナルモノハ皆是唯一ナル統御者ノ統御ヲシテ其實アラシムル所ノ一ノ
機關タルニ過キサル耳

第三回

今回ハ尙第一條ノ續講ヲ爲スヘシ
本條ニ所謂統治トハ命令ト服從トノ間ニ於ケル關係ヲ指シタルモノニシテ即チ
之ヲ命令スト稱セスシテ統治スト云フトキハ法律規則ニヨリテ命令スト云マノ
意味ヲ含マサルナリ純然タル大權ニヨリテ下サレタル所ノ命令ハ凡テ無條件ニ
服從スヘシトノ意ナリト知ルヘシ然レトモ法理上ノ見解ヲ以テ之ヲ攻究スルト

キハ統治トハ最モ廣ク且最モ強キ所ノ命令權ヲ意味スルモノト解シテ大過ナカ
 ルヘシ
 統治權ハ最高ノ權力ナリ蓋最高ノ權力トハ他ノモノヨリ獲得シタル權力ニアラ
 スシテ自己獨立ニ享有スル所ノ命令權ト云ヘル意ナリ我帝國ノ如キ主權ト國權
 トカ各々同一體ヲ爲ス國ニアリテハ主權ト云ヒ統治權ト云ヒ國權ト云ヒ皆全一
 ノ意味ヲ有スルモノナレトモ然レトモ民主國ニアリテハ主權ト統治權トハ互ニ
 相離隔セルモノナルヲ以テ一國ヲ統治スル所ノ政府ハ自己獨立ノ最高權力ニヨ
 ラスシテ主權者ノ意向ヲ享受シ其委託ニヨリテ國土臣民ヲ統治スルモノタルニ
 過キサルナリ夫レ如此民主共和國ニアリテハ名實共ニ明ナルコトナレトモ稱シ
 テ君主政ト名クル國ニアリテハ到底概論スヘカラサルモノアリ例ヘハ白耳義ノ
 如キ獨乙ノ如キハ共ニ帝國タルニ相違ナキモ其君主ハ最高ノ權力ヲ握ラスシテ
 僅ニ主權者ノ委託ノ下ニアリテ一國ヲ統治經綸スルモノタルニ外ナラサルナリ
 抑モ統治權ナルモノハ法律ニ基カサル所ノ權力ニシテ所謂法律ナルモノハ統治
 權ノ作用ニヨリテ始メテ生ズル所ノモノナリ若シ法律ニ基キタル命令權ナラシ

ニハ之ヲ勅令ノ權ト云ヒ又行政命令ヲ發スルノ權ト云フヘシ要スルニ諸君ハ十
 分ニ法律ハ統治權ヲ規定シタルモノニアラスシテ統治權ヨリ法律ノ生ズルモノ
 ナルコトヲ記憶セサルヘカラス已ニ講述シタル如ク帝國ト云ヘル意味ハ國土臣
 民ノ統治權ノ下ニ立ツ所ノ區域ヲ示シタルモノニ過キス歐洲ニ於ケル立憲政体
 國ノ憲法ニ國土ヲ變換スルニ必ス法律ニ依ルヘシトノ規定アリ而シテ我帝國ノ
 憲法ニ於テ此規定ヲ設ケサル所以ノモノハ帝國ノ主權ハ全ク君主ノ掌中ニ歸シ
 凡ソ一國ノ統治經綸ハ國會ノ協賛ヲ待テ始メテ起ルヘキモノニアラスト云ヘル
 主義ニ則レルカ爲メナリ蓋主權カ其權力ノ及フ所ノ區域ヲ規定スルハ是乃チ主
 權其者ノ成立スル所以ニシテ元來主權ナルモノハ別ニ法律ノ規定アルヲ待テ始
 テ其權力ノ及フモノニハ非ルナリ故ニ我國ニアリテハ國土乃チ國境ノコトハ之
 ナ事實ノ問題ニ屬セシメタルニ止メ決シテ憲法中ノ規定ニ基テ主權作用ノ區域
 ナ定ムルコトヲ爲サシメサルナリ

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニヨリ皇男子孫之ヲ繼承ス

一、皇室範典ノ効力ハ皇室典範ハ我帝國憲法ニアリテハ之ヲ別種法律ト認メテ

憲法ノ一部ト爲サズ然ルニ外國ノ憲法ヲ參照スルニ皇室典範ハ乃チ憲法ノ一部
 ナラスモノタルコト明ナリ是レ蓋シ歷史上ノ沿革ニ基ケルナリ往古君主獨裁ノ
 國体ニ於テハ別ニ憲法ヲ作りテ國体ヲ定ムルノ必要ヲ見サルモ主權者ハ只其主
 權者タル所ノ地位ヲ自己ノ子孫ニ繼承セシメサルヲ恐レタルノミ故ニ國土ヲ以
 テ君主ノ私有地ナリト見做シ之ヲ失ハサランカ爲メニ皇室典範ナル家法ヲ設ケ
 恰モ親族法ニ於ケル相續ノ如ク之ヲ繼承シ之ヲ支配スルノ事柄ヲ規定セリ然ル
 ニ近來立憲ノ政ヲ行フニ當リ皇室家法ノ規定ヲ憲法ノ正文ニ記載シタル國甚
 多シ而シテ其之ヲ記載セサルモノハ憲法ヲ以テ從來發布シタル所ノ皇室ノ家法
 ハ憲法タルノ効力ヲ有ストノ規定ヲ爲サ、ルモノ殆ント稀ナリ例ハ獨逸各國
 ノ憲法ノ如キ是ナリ我國ニ於テハ皇位ノ繼承法ハ之ヲ別種ノ法規ニ譲リ直接ニ
 憲法ヲ以テ之ヲ規定セス蓋其然ル所以ノモノハ皇室ノ家法ハ法律ニアラスト云
 ヘル理論ニ則ルニアラストシテ全ク皇位繼承法ノ事柄ハ之ヲ法律或ハ勅令等ノ手
 續ヲ以テ變更セサランカ爲メナリ而シテ純然タル大權ノ君主ニ存在スル以上
 ハ君主ノ命令ハ其何等ノ形式ニ則ルニ拘ラス苟クモ前後相抵觸セサル以上ハ

國內ニ對シテ法令タルノ効力アルコト論ヲ待タズ此第二條ニ於テ明カニ皇室典
 範ノ範圍ヲ定メアル上ハ皇室典範乃チ國法ノ一部ヲナシテ皇位繼承ト云ヘルコ
 トハ之ニ依テノミ規定シ得ヘク他ノ手續ニヨリテハ之ヲ規定スルコトヲ得サル
 モノナリ

二、皇位繼承ノ法理 皇位トハ天皇一身ノ肉体ニ伴フ所ノ資格ヲ指シタルモノ
 ニアラストシテ主權者タル所ノ資格ヲ指シタルモノナリ故ニ皇位ハ空虛ヲ見スト云
 ヘル法律上ノ原則ヲ生スル所以ナリ國家ノ法人ナルコトハ緒論ニ於テ既ニ述ヘ
 タリ而シテ法人トハ肉体ニ伴フテ生死セサル所ノ權力ノ主体ト云ヘル意味ヲ包
 含セルモノナリ若シ夫レ皇位ハ凡テ君主タル人ノ生死ニ拘ハラストシテ法律ノ効
 力ヲ繼承スルモノナルコト論ヲ俟タズ從前ノ憲法學ニテハ皇位繼承ノコトハ之
 ナ相續法ノ法理ヲ以テ説明セリ蓋歐洲ニ在テハ中古以來封建ノ制度盛ニ行ハレ
 凡ソ國土ヲ支配スルノ權力ハ其土地ヲ所有スルニ伴フノ權力ナリト解シタルモ
 ノナルカ故ニ遂ニ領地ノ讓渡ト皇位ノ繼承トヲ混一タラシメタルモノナリ近來
 ノ法理上ニテハ皇位トハ全ク純粹ナル權力ノ主体ヲ指シタルモノナルコトヲ明

ニシ私法的ニ財産ニ伴フノ權利ノ讓與ニアラサルコトヲ詳ニセリ然ルニ學者中
 今尙民法的ノ相續ノ法理ヲ以テ皇位ノ繼承ヲ論スルモノアリ實例ニ於テモハノ
 一ブルノ君主カ父ノ發布シタル所ノ憲法ハ其後ヲ襲キタル新國主ニ於テ之ヲ奉
 スルノ義務ナシト主張シタルコトアリ又イデンブルクノ國王モ右ト同一ノ理由
 ナ主張シテ憲法ヲ破ラントシタリ然レトモ主權ノ本体ハ法人ナリト云ヘル原則
 ニ基クトキハ主權ハ君主ニ屬セル私權ニアラスシテ公權タルコト明ナルヲ以テ
 此原理ヨリシテ新ニ後ヲ襲キタル君主ハ先帝ト同一ノ人ナシ凡テ其間ニ責任
 ナ改ムルコトナキ所以ハ彰々乎トシテ明ナリ故ニ新ニ憲法ヲ發布スルコトアル
 モ必スシモ之ヲシテ後世子孫ニ守ラシムルト云ヘルコトヲ明言スルヲ要セス乃
 ナ此明言ノ有無ニ拘ハララス先帝ノ爲シタル事柄ハ凡テ之ヲ繼承相傳シタルモノ
 ニ於テ其責ニ任セサルヘカラサルナリ

第二條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

此條ハ近來ノ歐洲各國ノ憲法ニ於テ普通ニ規定セラル、所以モノナリ法理上ヨ
 リ云フトキハ君主乃チ主權者タルノ國ニ於テハ別ニ此條ヲ設クルノ必要ナカル

ヘシ乃チ此條ヲ設クスシテ法律上ノ意義ハ十分ニ透徹シ得ラル、ナリ神聖ニシ
 テ侵スヘカラスト云ヘル法律上ノ意味ヲ澹泊ニ解スルトキハ君主ハ臣民ニアラ
 スト云ヘルコトナリ蓋君主ト臣民トノ區別ノ明ニ存スル國体ヲ稱シテ純粹ナル
 君主國トハ云フナリ若シ夫レ法律ニ服從スベキ義務アル臣民ノ一人カ主權者ノ
 委托ヲ受ケテ國政ヲ執ルトキニ於テハ縱令其人ハ君主ノ尊敬ヲ受クルニモセヨ
 之ヲ以テ純粹ナル君主トハ認メサルナリ然レトモ是等ノ場合ニ於テモ政界上ノ
 關係ヨリシテ君主或ハ大統領ハ責任ヲ有セスト云ヘルコトヲ明言シタル憲法モ
 又甚タ少ナカラス抑モ此條ハ決シテ君主ヲ認メテ例外トシテ法律ニ對スル責任
 ナ免除シタル一ノ恩典ヲ示シタルモノニアラサルナリ只タ法律ニ服從シテ法律
 ノ爲メニ其行爲ヲ問ハル、モノアランニハ是レ其人ハ臣民ナリ反之主權者ハ常
 ニ法律ノ上ニアルモノナレハ法律ハ乃チ主權者ノ命令ナリト云ヘル法理ヲ明ニ
 シタルニ過キサルナリ

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

本條ハ天皇ノ大權ノ作用ヲ定メタルモノナリ茲ニ國ノ元首ト明言シタルハ一國

チ一ノ團體ト見做シ君主ハ乃チ之ヲ統治スルノ人ナル所以チ國家學上又ハ政治學上ノ意味ヨリ發揮シタルニ止リ國法學上ニ於テ國家ト指稱セルモノ、元首ト云ヘル意味ニハアラサルナリ法理學上國家ト云フトキハ主權ヲ指セルノ語ナリ故ニ若シ君主ニシテ國家ノ元首ナラズニハ主權ノ一部分ヲ握ルモノナラサルヘカラス依テ茲ニ國ノ元首ト云ヘルハ帝國ノ元首ト云ヘル意味ヲ包含スルニ止リ國權ノ元首ト云ヘル意味ニアラサルコト明瞭ナリ

又憲法ノ條規ニヨリテ統治權ヲ行フトノコトハ立憲國ニ於テ始メテ認めラレタル原則ナルカ如ク説明スルモノアレトモ之レ蓋シ法理ヲ誤レルノ甚シキモノナリ凡テ法律ニヨリ事ヲ行フハ憲法制定ノ前後ヲ問ハス一般普通ニ行ハルヘキ主義ナリ唯君主專制ノ國ニ於テハ法律ヲ變更スルコトハ君主ノ隨意ナレトモ立憲國ニ在リテハ國會ノ協賛ヲ經過セサルヘカラサルノ點ニ於テ之カ差異アルノミ蓋シ一國ヲ統治スルニハ憲法ニ據ラサルヘカラサルコトハ敢テ言テ竣タサル所ニシテ凡テノ法律命令其他ノ行政規則ニモ遵據セサルヘカラサルコトモ亦知者ノ言ヲ要セサル所ナリ

主權ハ最高ノ力ヲ有スルカ故ニ自ラ憲法ヲ制定スルコトヲ得ヘク從テ又其憲法ニヨリテ事ヲ行フコトヲ得ヘキモノニシテ決シテ主權其者カ他ノ爲メニ制限セラルヘキモノニハアラサルナリ今參考ノ爲メ歐羅巴ニ於テ君主權ノ發達シタル由來ヲ概論セン

古代ニ於ケル歐洲各國ハ共和ノ政体ナリ古昔ギリコン人ト唱ヘタル人種カ羅馬人ノ侵襲ヲ受ケスシテ一ノ部落ナシ依テ以テ生活ナシタル時代ニアリテハ決シテ君主ナルモノアルコトナシ蓋シ君主ナルモノ、生出シタルハ之ヨリ遙ニ後世ニ屬シ所謂君主ナル語ハ其初ハ軍隊ヲ率ヒテ外國ト戰爭スル人ト云ヘル意味ニ用サレタルモノナリ而シテ羅馬人カ中央歐羅巴ニ攻入り此政体(共和政体)ヲ打破シテ其跡ニ始メテ建テタル國ハ即チカロリソングルト名ケタル邦國ニシテ是レゾ即チ君主ハ主權者ナリトノ原則ニ基キ建國チナシタル濫觴トハ知ラレタリ然ルニ此時代ニ在リテハ社會ノ組織未タ完成セサルヲ以テ主權者ノ命令ヲシテ充分ニ廣大ナル範圍ニ宣行セシムルコト能ハサリシ如此事情ヨリシテ遂ニ分裂シテ中古ノ封建時代トナレリ而シテ中央歐羅巴ヨリ又分レテ英國及佛國ニ

渡リタル所ノ人種ハ早ク已ニ中央集權ノ組織ヲ形造リ此ニ初メテ主權國即チ君主全權ノ國ヲ創生セリ然ルニ其後ニ至リ中央歐羅巴ニ於テ君主權ノ衰フルヤ此ニ又諸侯割據ノ世ヲ掀起シ諸侯即チ其領地内ノ主權タルノ地位ヲ占ムルニ至レリ而シテ近來ニ至リ主權民ニ在リト云ヘル説ノ行ハレタルハ專ラ佛國ノルソー氏及ヒ獨國ノウルフ氏ノ説ニ基キタルモノナリ今其之カ極意ヲ尋ヌルニ主權ニ勢力ヲ加増シテ天下無敵ノ力ヲ與ヘ以テ法律命令ノ効力ヲ強固ナラシメントノ考ニ出タルモノナリ其主權在民ノ主義ヲ以テ君主權ヲ殺クニアリト云ヘル説ハ後世ニ至リテ迂回シタルノ謬説ナリ而シテ佛國ノ大革命以來歐羅巴ニ於テハ頻ニ憲法ト名ケタル成典ヲ設ケ之ヲ以テ政治ノ原則トナスノ風流行シ來レリ蓋シ憲法ヲ設ケテ君主ノ統治權ヲ支配スルト云ヘルカ如キ考ハ極メテ近世ニ至リテ發達シタルモノニ係レリ英國及佛國ヲ除キ歐洲諸國ニハ立憲政ノ邦國誠ニ少カラス然トモ其斯ル考ノ浮ヒ出タルハ僅ニ今チ距ル三十年若クハ四十年前タルニ過キサルナリ而シテ其憲法ニヨリテ統治權ヲ行フトノコトヲ規定シタル邦國中ニ於テ之ヲ解シテ君主ノ權ヲ制限シタリト見做シタルモノハ實ニ白耳

義及希臘ノ三國ニ過キサルナリ今之ヲ法理上ノ性質ヨリ論スルトキハ豫メ彼輩カ期シタル所ノ立憲ノ主義ヲ捨テ、民主ノ主義ニ據リタルモノト云ハサルヘカラス獨乙ニテハ憲法上明ニ右等ニ關スル個條ヲ掲ケ置キ而シテ統治權ハ全然主權者ノ掌中ニアルヘキモノトシ憲法ハ統治權ヲ主權者ニ讓渡スヘカラストノ法理ヲ明ニセリ蓋シ帝國憲法ノ法理モ憲法發布前ニヨリ君主ニ主權ノ存在セルコトヲ認メ居ル以上ハ憲法ノ明文ニ於テ之ヲ奪却スルノ意ナキコト明ナレハ此條ヲ解シテ主權ヲ分割シタルモノトハ見做サレサルナリ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

帝國議會ノ法理上ノ性質ハ第三章ニ説明スヘキヲ以テ茲ニハ之ヲ省畧シ單ニ立法權ノコトノミヲ説明スヘシ
抑モ立法トハ法律規則ヲ發布スルト云フノ意味ニアラスシテ法律ト名ケタル命令ヲ發布スルトノ意ナリ而シテ法律ヲ勅令ヨリ分ナタル所以ノモノハ法力上ノ區別ニ基キタルモノニアラサルナリ何トナレハ臣民各個ヨリ之ヲ見ルトキハ法律ト云ヒ又勅令ト云ヒ皆主權者ノ命令ナレハナリ又帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ

發スルト云ヘル條件ハ恰モ勅令ハ之ヲ國務大臣ニ副署セシメテ發スルト云フト
 同一ノ條件ナリ蓋シ協賛ヲ經サルモノハ法律ニアラスト云ヘルハ猶副署ナキモ
 ノハ勅令タルノ効力ナシト云ヘルト同一理ナリ若シ夫レ帝國議會ヲ以テ權利義
 務ヲ有スル所ノ一ノ法人ナリトセハ協賛ハ恰モ私法上ニ於ケル甲乙二人間ノ合意
 タルニ過キス然トモ帝國議會ハ獨立シタル命令權ヲ有スルモノニアラサレハ權
 利義務ノ主体タル資格ナキモノナリ故ニ君主ト議會トノ合意ト云ヘルコトアラ
 ハトテ之ヲ以テ直ニ協賛ノ意義ヲ説明セントスルハ頗ル其當ヲ失シタルモノト
 謂フ可シ協賛トハ政府ノ内部ニ對シテ効力アル議決ニシテ法律ヲ作り又ハ政府
 カ臣民ニ對シテ處分スルニ於テ其効力ヲ全カラシムルノ要件ナリ畢竟協賛トハ議
 會ノ議決ヲ經テ法律ヲ發布スルトノ意ナリト知ルヘシ

第四回

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其執行及公布ヲ命ス

本條ハ法律ヲ裁可スルノ權力ノ天皇ニ在ルコトヲ明カニシ併セテ公布及ヒ執行
 ナ命令スルハ勅令ニヨルトノ主義ヲ發表シタルモノナリ抑モ帝國議會ノ職掌ハ

單ニ法律案ヲ議定スルニ止マリテ法律ヲ裁可スルノ權力ヲ有セサルナリ而シテ
 法理上ヨリ之カ斷案ヲ下ストキハ法律案ヲ議定スルコトハ立法ニアラスシテ法
 律ヲ裁可スルコトハ立法ナリトス何トナレハ法律ノ效力即強迫力ヲ以
 テ之レヲ執行スル權力ハ裁可ニヨリ初メテ生スルモノナレハナリ故ニ假令議會
 ノ議決シタルモノト雖モ裁可セラレサル以上ハ法律タルコトヲ得サルナリ
 又假令裁可サレタル法律ニテモ執行ノ命令ニシテ之ニ隨伴セサルトキハ之ニ依
 リテ以テ處分スルヲ得サルモノトス
 以上ノ主意ヲ布衍セシカ爲メ左ニ裁可公布并ニ執行ノ意義ヲ説明ス可シ
 第一 裁可トハ法律ヲシテ充分ナル効力ヲ有セシムルトノ義ナリ即裁可ノミチ
 以テ法律ヲ作ルコトヲ得サルモ裁可ナリシテ法律ノ成立スルコトアラサルナリ
 裁可ヲ國權外部ノ働ヨリ見ルトキハ立法ト同一体ヲナスト雖モ國權内部ノ働ヨ
 リ云フトキハ法律案ヲ議定スルノ職ト分離シタルモノナリ故ニ裁可ヲ通常ノ意
 味ニ從ヒ解釋スルトキハ既ニ法律案トナリテ國會ノ議決ヲ經タルモノニ向テ其
 全部ヲ可否スルノ力ニシテ之ヲ修正スルトノ力ニアラサルナリ故ニ法律案ニシ

テ修正ヲ要ス可キモノアルトキハ直ニ之ヲ修正シテ裁可シ以テ布告スルコトヲ得
 サルナリ必ラスヤ再ヒ法律案ヲ議定スルノ手續ニ依ラサルヘカラサルモノトス
 茲ニ裁可ストノミアリテ裁可ヲ拒ミ得ルヤ否ヤヲ明言セスト雖モ凡テ裁可スル
 ノ權ト謂フトキハ裁可ヲ拒絕シ得ヘキコトヲモ包含スルモノナリ
 第二 公布トハ臣民ニ向テ法律ヲ遵奉セシムルノ義務ヲ負ハシムル標準ナリ即
 チ單ニ臣民ニ告知スルトノ意味ニ止マラスシテ法律ノ効力ヲ生スル標
 準ナリ故ニ別ニ規定ナキトキハ公布ヲ以テ直ニ執行ノ効力ヲ生スルモノトス
 第三 執行トハ行政官カ一人ニ向テ法律ヲ處分スルノ謂ヒナリ世上論者或ハ
 公布ト執行トヲ混同スルモノアリ故ニ左ニ二者ノ差異ヲ明ニス可シ
 抑モ法力ハ公布ヲ竣テ全キモノニシテ執行命令ヲ以テ初メテ法力ヲ全フス可キ
 モノニアラサルナリ然レトモ行政官カ憲法及ヒ勅令ノ下ニ立チ一人ニ向テ處分
 スルトキニ當リ別ニ立法官カ法律ニヨリ其執行期限ヲ命令セサルトキハ直ニ之
 ニヨリテ處分ヲナスコトヲ得サルナリ假令ハ徵兵令ヲ發布セラレタル場合ニ於
 テ既ニ裁可シ公布セラレタルトキハ該法律ヲ充分ナル法力ヲ有スルモノナレハ

臣民ハ之レニ服従ス可キ義務生スルモノナレトモ所謂執行命令ヲ發シテ中央政
 府并ニ地方廳ノ行政官ニ對シ兵卒募集ヲ命セサル以上ハ行政官ハ官報ニヨリ該
 法律ノ發布セラレタルコトヲ知リタルノミニテハ直ニ徵兵ノ事務ヲ執行スルコ
 トヲ得サルナリ是執行ト公布トノ區別アル所ナリ

**第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及衆議院ノ
 解散ヲ命ス**

帝國議會ハ自治體ニアラスシテ政府ノ一機關ナリ故ニ自ラ集會ヲ開キ事ヲ議ス
 ルコトヲ得スシテ一ニ主權者ノ命令ヲ竣テ初メテ集會シ議事ヲ得ルモノナリ此
 議會ヲ招集スルノ權ハ天皇カ直接ニ行ハセラル、所ノ大權ニ屬シ法律ヲ以テ之
 チ他ニ委託スルコトヲ得サルモノナリ而シテ憲法ニ此條項ヲ掲ケシ所以ノモノ
 ハ法律ノ爲メニ此大權ヲ左右セラレサランコトヲ欲スルカ故ナリ故ニ假令議會
 ニ於テ議案ヲ發シ以テ法律ヲ作り議會ハ毎年何月ヨリ集會ス下議定スルモ無効
 ニ屬スルモノトス何トナレハ天皇ノ招集ヲ竣タスシハ議會ハ何等ノ法律ヲ作り
 決議シ集會スルノ權アラサレハナリ開會閉會及停會ノ定義ハ第三章ニ於テ詳述

ス可シ
 衆議院ヲ解散ストハ之ヲ組成セル議員各個ノ資格ヲ短縮スルノ謂ヒナリ即チ未
 タ満期ニ至ラサル議員ニ向テ議員タルノ資格ヲ剝奪スルモノナリ此議員タルノ
 資格ヲ解除スルハ凡テ天皇ノ大權ニ在テ存シ天皇ハ勅令ヲ以テ之ヲ行フモノト
 ス故ニ議會ハ自ラ議定權ヲ拋棄シテ解散スルヲ得サルナリ何トナレハ議會ハ政
 府ノ爲メニ政務ヲ行フノ義務ヲ有スル統治ノ一官府ナレハナリ
 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ其災厄ヲ避クル爲メ緊急
 ノ必要ニヨリ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令
 ヲ發ス

此勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ
 承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其効ヲ失フコトヲ公布ス可シ
 本條ニ規定スル命令ノ詞ヲ名ケテ法律ニ代ハルル勅令若シハ緊急勅令ト云フ蓋
 法律ニ重テ置キテ勅令ヲ以テ法律ヲ變更セズトス主義ニ則ルルキハ普通憲法ノ
 精神トス然レトモ此主義ハ歐州立憲政体國ニ於テ全然適用スルヲ得ルモ我帝國ニ

於テハ或ハ適用スヘカラサルモノアリ若シ夫レ君主ノ大權カ憲法ノ明文外ニ出
 サルモノトモハ勅令ナルモノハ法律ヲ執行スルノ區域ヲ止リテ或ハ法律ヲ變更シ
 或ハ法律以外ノ事項ヲ規定スルコトヲ得サルナリ彼ノ白耳義ノ憲法普魯西ノ憲
 法ノ如キハ皆此法理ニ則レルモノナリ之ニ反シ獨リ我帝國ノ憲法ハ主權者ハ即
 チ天皇ナリトノ原則ニ準據シ憲法ハ天皇ノ命令ナリ憲法ニ掲ケタル事項ハ天皇
 カ帝國議會政府ノ諸官府及臣民一般ニ對シテ命令シタルモノナレハ天皇ハ憲法
 ノ明文以外ニ於テ命令ヲ發スルコトヲ得ヘク又其命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコ
 トヲ得ヘシ故ニ主權者ハ國家非常ノ境遇ニ際會シ到底議會ヲ召集スルニ違ラ
 サル緊急ノ場合ニ在リテハ法律ニ代ハル可キ効力ヲ有スル勅令ヲ發シ得ヘキハ
 勿論ナリトス蓋本條ハ此法理ヲ明ニシタルモノナリ
 緊急勅令ヲ組成スル原素三アリ即チ左ノ如シ

第一、帝國議會閉會中ナルコト、若シ夫レ帝國議會ニシテ開會中ナルトキハ宜
 シク之カ協賛ヲ經テ純然タル法律ヲ發セサルヘカラス故ニ緊急勅令ヲ發スル
 ハ必ス議會ノ集會シ居ラサルトキナラサル可カラス然レトモ此場合ニ於テハ必

スシモ臨時會ヲ開キ以テ此法律ニ代ルヘキ敕令ヲ議セシムルヲ要セサルモ
トス

第二、此敕令ヲ發スルノ目的公共ノ安寧ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メナルコ

ト、之ヲ要言セハ防禦的ノ目的ニアラサルヘカラス而シテ何チカ公共ノ安寧

ト謂フヤ又何チカ其災厄ト謂フヤ、事實ノ判定ニ至リテハ一ニ天皇ノ大權ニ

在テ存シ帝國議會ハ之ニ對シ毫モ啄ヲ容ル、能ハサルモノトス

第三、此敕令ハ現行法律ヲ變更シ若クハ法律ヲ以テノミ規定スヘキ事項ニ立入

可キモノナルコト、蓋シ法律ニ抵觸セサル命令ヲ發シ法律ト同等ノ効力ヲ與

フルモノ、規定ニ就テハ別ニ明文ノアルアリテ本條ノ認ムル所ニアラサルナ

リ

如斯敕令ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ議會ニ提出シ之カ承諾ヲ經由スルヲ要ス若シ夫

レ議會ニ於テ此敕令ヲ承諾センカ即チ純然タル法律ノ効力ヲ有シ會テ此敕令ニ

ヨリ効力ヲ停止セラレタル法律アルトキハ茲ニ全ク其法律タルノ効力ヲ消滅ス

ルモノトス然レトモ若シ議會ニ於テ此敕令ヲ承諾セザランカ即チ該命令ハ將來ニ

向テ全ク其効力ヲ失フモノトス但シ此場合ニ於テハ必ス其承諾ヲ拒ミタルコト
ヲ公布スルヲ要ス故ニ苟モ之カ公布アラサル時ハ假令議會ニ於テ之カ承諾ヲ拒
ムト雖モ該敕令ハ依然トシテ其効力ヲ失ハサルナリ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保

持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發

セシム

但命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

本條ハ行政權ノ範圍ヲ確定シタルモノニシテ天皇ノ大權ニ伴フ所ノ命令ハ盡ク

此條ノ規定ニ據ル可シトノ謂ヒニアラサルナリ學術上行政敕令ノ種類ニニアリ

第一、法律執行ノ敕令、法律カ特ニ原則ヲ設ケ而シテ其原則ヲ實際ニ適用スルコ

トチ敕令ニ讓ル場合アリ又法律ハ夫レ自ラ執行スル手續ヲ定メスシテ其執行ノ

規定ヲ敕令ニ讓ルコトアリ又法律ハ一般ノ規則ヲ掲ケ其法意ノ解釋ヲ敕令ニ讓

ル場合アリ凡ソ此等ノ場合ニ於テ發スル敕令ハ已ニ法律其モノニ含蓄スル材料

ヲ布術スルニ過キサレハ之ヲ法律執行ノ敕令ト云

第二、法律ノ欠點ヲ補フ敕令ニ法律ヲ或ル規定ヲ爲スニ當テハ其規定ハ必スシモ一般ノコトニ普及スルモノニアラス斯ル場合ニ於テ行政政府ハ法律一般ノ精神ヲ見テ其法律ノ欠點ヲ補フカ爲メ之ニ伴フタル命令ヲ發スルコトヲ得ルシ以上二種ノ命令ハ法律ノ下ニ立ツモノナリ故ニ之ヲ行政命令ト云フ而シテ法律ト併行スル所ノ敕令即チ第一章ニ掲ケタル天皇大權ヲ執行スル敕令ハ本條ノ規定ニヨラサルモノナリ是本條ニ於テ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ストノ原則ヲ掲ケタル所以ナリ

第五回

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス

但此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ依ル本條以下ハ天皇ノ大權ヲ掲ケタルモノナリ特ニ之ヲ天皇ノ大權ト稱スル所以ノモノハ其規定ノ事項タル專ラ勅令ノ範圍ニ屬シ立法手續ニヨリテ之ヲ侵犯スルヲ得サルコトヲ發表シタルニ出タルモノナリ然リ而シテ君主ノ大權ハ茲ニ列

舉シタルモノ、ミニ止マルト云フ法意ニアラスシテ勅令固有ノ範圍ヲ規定スルコトヲ目的トシタルモノナリ故ニ茲ニ明言セサル所ノモノハ或ハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ勅令ニヨリ之ヲ定ムルモノナリ

天皇ハ行政各部ノ官制ヲ規定スル權アリト云フハ法律案ヲシテ此等行政事項ニ向テ規定ヲナスコトヲ得ストノ禁止ノ明文ナリ行政各部トハ主權者ノ委託ヲ受ケ政務ヲ處置スル所ノ凡テノ官府ヲ總稱シタルモノナリ文字上ヨリ之ヲ論スルトキハ立法各部ヲ除キタルモノト云フヘシ而シテ立法ノ機關即チ帝國議會ノ如キハ憲法ニ明文アリテ而シテ後存スルモノニシテ實ニ勅令ヲ以テ之ヲ存廢シ得サルノミナラス法律ヲ以テ之モ尙且之ヲ左右スルコトヲ得サルナリ然ラハ即チ茲ニ行政各部ト云フ廣シ政府ノ組織ト解スルモ事實上穩當ナリト謂フ可シ但司法權ヲ作用スル所ノ裁判所ノ構成及其他此憲法ニ於テ殊ニ法律ヲ以テ構成スルコトヲ明言シタルモノハ此限ニアラサルナリ

本條明文ニ此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ云々トアリ世上論者或ハ之ヲ誤解シテ法律ヲ以テ本條ノ取除ヲ爲スコトヲ得ルシト謂フモノアリトモ

是文字ニ拘泥シテ法理ヲ誤リタルモノナリ蓋シ君主カ行政各部ノ組織ヲ隨意ニ變更シ得ルコトハ憲法上ノ大權ナリ然ルニ今茲ニ法律ヲ發シテ大藏省ノ官制ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト云カ如キ法律案ヲ國會ニ於テ議決スルトキハ是憲法ニ違反シタル議決ナリ故ニ其議決ハ無効ナリトス抑モ茲ニ他ノ法律ニ云々トアルハ既ニ憲法發布以前ニ法律トシテ定メテレタルモノハ其法律ニ依ルトノ意味ニシテ決シテ新ニ法律ヲ作リテ本條ノ例外ヲナスコトヲ許サ、ルナリ

文武官ノ俸給ヲ定ムルコトハ官制ヲ左右スル權ト共ニ君主ノ大權ニ屬ス此俸給ノ法理上ノ性質ハ國務ヲ所分スルカ爲メニ或ハ家屋ヲ使用シ或ハ筆紙等ノ使用ヨリ生シタル費用ト同一ノモノニシテ凡テ政務ヲ所辨スルニ必要ナル造營物ノ費用ト見做スモノナリ法律上所謂造營物トハ物件ト人トニヨリテ政務執行ノ機關トナルモノヲ云フ故ニ殊更ニ茲ニ明文ヲ掲ケサルモ官制ヲ定ムル權ニ隨伴スルヤ明ナリ

又文武官ノ任命ハ一ノ行政所分ニヨリテ之ヲ爲スモノナリ凡ソ造營物ニ必要ナル物件ヲ獲得スルニハ普通民法ノ規定ニヨリテ賣買讓與シ或ハ命令權ノ作用ニ

ヨリテ所有者ノ意思ニ反シ強制手段ヲ以テ所有スルコトアリ而シテ一個人ヲ文武官ニ任スルハ猶之ト同一ノ法理ニ則ルモノナリ

抑モ國家カ一私人ニ向テ其役務ニ就カシムル方法ニ三種アリ即チ(一)民法ノ規定ニヨリテ雇人ト被雇人トノ關係ヲ以テ國家ノ役ニ服セシムルコトアリ(二)命令權ノ作用ニヨリテ各個人ノ意思ニ反スルモ強テ國務ニ服セシムルコトアリ即チ徵兵令ニヨリ兵役ニ就カシムルカ如キ是ナリ(三)命令權ノ作用ニヨリ行政處分トシテ先ツ一個人ニ職務ヲ命シ而シテ之ニ應スルト否トハ之カ任意ニ委スルコトアリ即チ之ヲ任官ト云フ右第一ノ雇主被雇人ノ關係ニヨリ國務ニ就カシムルハ法律ノ明文ヲ跋タスシテ何人タリトモ之ヲ爲シ得ルモノナリ而シテ第二ノ強迫ニヨリ國役ニ就カシムルハ法律ニヨリテ之ヲ爲シ得ルモノナリ而シテ第三ノ文武官ニ任スルコトハ敕令ノ特權ニ在テ存スルモノトス

第十一條 天皇ハ海陸軍ヲ統帥ス

海陸軍ハ凡テ勅令ノ下ニ運動スルモノニシテ法律直接ノ結果ヲ以テ之ヲ指揮シ得ヘキモノニアラサルナリ然レトモ海陸軍ニ關スル事柄ヲ法律ニテ規定スルモ

敢テ妨ナキモノトス蓋本條ハ兵馬ニ關スル事項ハ凡テ勅令ニヨルトモ精神ニアラヌシテ海陸軍ヲ指揮スル權ハ君主直接ノ命令ニヨルトモコトヲ規定シ該ルモノナリ

統帥トハ最高ノ命令權トノ意ニシテ軍人ニ對スル命令權ヲ指スモノナリ海陸軍ニ關スル事項ナリト雖モ憲法ノ他條項ニヨリ法律ヲ以テ規定スルコトヲ必要トスル場合アリ假令ハ兵役ノ如キ海陸軍裁判所及其刑法ノ如キ是ナリ而シテ海陸軍ノ行政ヲ執行スルハ通常内務ノ事務ニ屬ス茲ニ單ニ海陸軍ト稱シ海陸軍ノ行政ト謂ハサル以上ハ兵隊ヲ指揮スルノ權ニ止マリテ軍事行政ヲ全体ヲ含蓄スルモノニアラサルナリ

本條存スルカ爲メ軍人ノ遵奉ス可キ所ハ勅令ヲ以テ最高等ノモノト定メ若シ勅令ニシテ法律ト抵觸スルト雖モ之ヲ以テ勅令ニ不服ヲ唱フルヲ得サルナリ之ニ反シ軍人ニアラサル一個人ニ對スル海陸軍ノ行政事務ヲ命令ハ法律ト抵觸スルトキハ法律ニ違フコトヲ口實トシテ該命令ニ不服ヲ唱フルコトヲ得ヘシ

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ編制及常備兵額ヲ定ム

本條ハ前條ノ規定ト其趣ヲ異ニシ專ラ軍隊ノ編制ニ關スル事項ヲ規定シタルモノニシテ前條ハ已ニ編制セラレタル軍隊ノ指揮ニ關スル規定ナリ

軍隊ノ編制トハ番ニ現役軍人ノ組織團體ノ行政ニ止マラスシテ凡テ國內ニ於テ兵力ヲ編制スル所ノ大權ヲ云フ常備兵額ヲ定ムルコトニ就テハ從來憲法上ノ一大疑問トシテ歐洲各國ニ於テ屢々其國ノ不幸ヲ招キタルコトアリ大陸諸國ノ憲法ニ於テ常備兵額ヲ定ムルコトハ毎年豫算表ト共ニ國會ノ協賛ヲ要スルモノトス故ニ歐洲各國ノ兵力ハ憲法ノ文面ニヨレハ一年限リノモノナレハ若シ國會ニ於テ其兵額ヲ否決シタルトキハ其極政府ハ凡テノ軍人ヲ解放セサルヘカラサルナリ然レトモ現今實際ニ於テハ常備兵額ヲ定ムルハ一ニ君主ノ大權ニ屬セリ之ニ反シ帝國憲法ハ明ニ之ヲ天皇ノ大權ト認メタルカ故ニ兵力ノ強弱ハ國會ノ議決ニヨリ左右セラレサルナリ即チ軍事行政ノ基礎ハ專ラ勅令ニヨリテ定メラレタルモノトス

第十二條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

宣戰講和ノ大權ハ兵力ヲ指揮スルノ權ニ隨伴シタルモノニシテ各國普通ニ之ヲ

君主權ト稱セリ然レトモ歐洲憲法ノ多クハ國會ノ議決ヲ經テ而シテ後宣戰講和ヲ
 布告ヲ爲シ得ルトノ規定アリ何トナレハ彼ノ憲法ニ在リテハ主權者ハ無形人ニ
 シテ君主ハ其代理人ナリ故ニ明ニ國家ノ委托ヲ受ケサル以上ハ外國ニ對シ代理
 人ノ資格ヲ以テ締結シタル條約ニ充分ナル効力ヲ與フルヲ得サレハナリ反之帝
 國憲法ノ法理ハ君主ハ即チ主權者ナリ故ニ自己ノ權力ヲ以テ充分ニ効力アル所
 ノ條約ヲ外國ニ對シ締結スルヲ得ヘシ此ヲ以テ本條ニ明ニ各種ノ條約締結權ハ
 凡テ君主ノ大權ニ屬スト特書シタル所以ナリ
 歐洲諸國ニ於テハ君主ノ條約締結權ニ二種ノ區別アリ
 第一我邦ノ如ク全ク君主ノ大權ニ屬シ國會ノ協贊ヲ經ルヲ要セサルモノ
 第二凡テ國會ノ協贊ヲ經サルトキハ條約ヲ締結スルコトヲ得サルモノ
 假令ハ獨乙帝國憲法ニヨレハ通商貿易ニ關スル條約ハ國會ノ協贊ヲ竣テ其効力
 ナ全クスルモノトセリ反之英國憲法ニヨレハ外國ニ對スル條約ハ君主唯獨ニ特
 權ヲ以テ締結スルコトヲ得ヘシ而シテ之ヲ執行スルニ必要ナル法律ハ國會ノ議
 決ヲ經テ初メテ國內ニ有効ノモノトス以上二國憲法ニ形式上異テリト雖モ事

實ノ歸着スル所ハ同一ナリ何トナレハ現行ノ法律ヲ變更セサル條約又ハ新ニ國
 家ノ負担ヲ増サ、ル條約ハ其君主ノ大權ニ委スト否トナ問ハス利益ノ點ニ關シ
 テハ同一ナリ而シテ又條約締結權君主ニ在リト雖モ其條約ニヨリ現行法律ヲ變
 更シ又ハ新ニ國家ノ負担ヲ増スモノナルトキハ國會ノ議決ヲ竣タサレハ國內ニ
 効力ヲ生セサルモノナリ故ニ實際ニ於テハ君主ノ條約權ハ法律ノ範圍内ニ制限
 サレ居ルモノナリ

第六回

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

戒嚴トハ警察權ヲ行政部内ヨリ移シテ軍事處分ニ一任スルヲ謂フ蓋シ斯ル特例
 ナ設タル所以ノモノハ國家非常ノ境遇ニ臨ミ非常ノ處置ヲ爲サンカ爲メ一度之
 ナ宣告スルトキハ法律ニ依リテ効力ヲ停止セシムルモノナレハ此戒嚴ヲ宣告スル
 ノ權ハ一ニ天皇ノ掌握セラル、所ニシテ決シテ之ヲ行政權若クハ國會ニ委スル
 ナ得サルモノトス

平時ニ於テハ一地方ノ警察權ハ行政官ノ手裡ニ在テ存シ軍人ハ唯リ國家ヲ防禦
 守衛スルノ責務アルモニシテ敢テ一個人ニ對シテ處分ヲ得ルノ權力ヲ有ス
 ルモノニアラサルナリ加~~テ~~假令軍事上必要ナル處分ト雖モ夫ノ兵員ヲ徵集スル
 カ如キ行軍ノ爲メニ民力ヲ使用スルカ如キ凡テ軍事ニ關スル事項タリト雖モ普
 通行政官吏ノ手ヲ經由スルニアラサレハ決シテ直ニ一個人ニ對シ之カ處分ヲ爲
 スヲ得サルナリ然ルニ一旦戰時ニ際シ一地方ヲ開戰ノ地ト布告サレタルトキハ
 茲ニ戒嚴ヲ宣告スルノ必要生ス即チ此場合ニ於テハ警察權ノ一部ハ行政官ノ手
 裡ヲ脫離シ軍人ノ手ニ移ルモノナリ然レトモ其警察事務ヲ掌トル官吏ハ尙且通
 常行政官吏ニシテ只其行政官吏ヲ指揮スルノ權ノミ軍人ニ移轉スルモノトス
 今ヤ一步ヲ進メテ其地方ヲ合圍ノ地ナリト布告シタルトキハ其地方ノ警察權ハ
 全ク軍人ノ手裡ニ歸シ軍隊ノ指揮長官ハ行政官吏ニ命令シテ戰器ニ必要ナル警
 察令ヲ發セシムルノミナラス又兵士ニ命シテ其地方ノ警察權ヲ實行セシムルモ
 ノナリ是戒嚴ノ尤モ銳利ナル形体ナリトス~~...~~
 如何ナル場合及如何ナル程度迄戒嚴ノ効力ノ及~~...~~モナルヤハ法律ヲ以テ之ヲ

規定スヘキモノトス而シテ法律ハ絶對的ニ戒嚴ノ要件ヲ指示スルニ止リ其事實
 ノ認定ニ至リテハ一ニ君主ノ大權ニ屬スルハ恰モ緊急ノ場合ニ臨ミ君主カ法律
 ヲ變更スルノ敕令ヲ發シ得ルカ如シ蓋戒嚴ノ要件トハ戒嚴ヲ執行スル所ノ手續
 及順序ヲ定メタルモノニシテ効力トハ之ヲ執行シタルヨリ一個人ノ負債ニ對シ
 果シテ如何ナル法力ヲ有セシムルモノナルヤヲ定メタルモノナリ

第五條 天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス

君主ハ榮譽ヲ授與スルノ特權ヲ有スルト云フハ他ヲ拒絕シタル意味ニアラスシ
 テ君主以外ノモノハ榮譽ヲ與フルノ權ヲ有セサルモノナルコトヲ發表シタルモ
 ノナリ故ニ若シ君主ノ許可ヲ經タル場合ニ於テハ國內ノ或ル團體カ榮譽ヲ臣民
 ニ與ヘ得ヘシト雖モ然レトモ是皆間接ニ君主ノ命令ニ基クモノナリ例ハ地方
 自治体カ榮譽公民權ヲ自治体外ノ人ニ贈與スルカ如キ大學ニ於テ學者ニ學位ヲ
 贈ルカ如キ外國政府ヨ~~リ~~受領シタル勳章榮譽ヲ國內ニ佩用スルカ如キ皆チ君主
 ノ許可ヲ俟テ而シテ後之ヲ爲シ得キモノナリ夫レ斯ノ如ク榮譽ノ授與ハ君主ノ
 特權ニ在テ存スルモノナレハ國會ニ於テ法律ヲ作り立法權ノ作用ニヨリテ榮典

ヲ授與シ又ハ已ニ與ヘラレタル榮譽ヲ剝奪スルコトヲ得サルナリ例ヘハ國會カ
 新ニ法律案ヲ提起シテ貴族ヲ廢スルカ如キ議決ヲナストキハ君主ノ大權ニ侵入
 シタルモノナレハ其議決無効トス
 榮典ノ重ナルモノハ臣民ノ階級即チ貴族平民ノ別及勳章ヲ以テ其尤モ著シキ
 モノトス臣民ニ階級ヲ付スルコトハ古來ノ歷史上ニ基キタルモノニシテ今尙ホ存
 スル所ナリ然レトモ法律ヲ適用スルニハ臣民ヲ平等ニ見做シ別ニ貴族又ハ平民
 タルノ故ヲ以テ之ニ伯仲アラサルナリ近代ノ法理ニ據レハ方今貴族ト稱スル所
 ノモノ、法理上ノ性質ハ夫ノ勳章ト同一ノモノニシテ法律上臣民ノ價值ニ等差
 ナ附シタルモノニアラサルナリ之ニ反シ我國古昔并ニ歐洲中古ニ於テハ國民ノ
 階級ヲ二別シテ通常人民ノ外ニ奴隸ナルモノヲ認メリ如斯自由民ト奴隸ノ區別
 ナ立タルハ實ニ法律上ノ差異ヲ設ケタルモノナリ何トナレハ奴隸ハ法律上一ノ
 物權ニシテ權利義務ヲ有スル主体ト見做サレハナリ若シ夫レ本條規定ノ特權ニ
 ヨリテ假リニ奴隸ノ如キ種類ノモノヲ設クルコトヲ得ヘシトスルモノアレハ大
 ニ本條ノ精神ヲ誤解シタルモノト謂フヘシ故ニ余輩ハ茲ニ諸君ニ向テ榮典ナル

モノハ法律上ノ臣民ノ價值ヲ定メタルモノニアラサルコトヲ注意セント欲スル
 ノモノナリ

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

本條ニ規定スル所ノモノハ刑法ノ一部ニ屬ス而シテ之ヲ憲法ニ掲グル所以ノモ
 ノハ立法上技術ノ便宜ニ出タルモノナリ即チ此等ノ事柄ハ天皇直接ノ大權執行
 ニシテ之ヲ裁判所ノ權限ニ屬セシメサルカ故ナリ蓋刑法ハ不完全ニシテ裁判官
 モ亦錯誤ナキヲ保シ難シ如斯刑法ニヨリ如斯裁判官ニヨリテ以テ言渡サレタル
 裁判ナルカ故ニ或ハ無辜ヲ罰シ或ハ冤罪ニ苦ムモノナキニシモアラサルナリ斯
 ル場合ニ於テハ之カ弊ヲ妨カンカ爲メ減刑ノ主義ニ基キ特別ノ例外ヲ設クルハ
 實ニ法理ニ適中シタルモノト謂フヘシ是ハ大赦特赦減刑及復權ノ依テ生スル所以
 ナリ *（大赦トハ罪ノ種類ニヨリ一般ノ罪人ヲ赦免スルモノニシテ特赦トハ罪人其モ
 大赦トハ罪ノ種類ニヨリ一般ノ罪人ヲ赦免スルモノニシテ特赦トハ罪人其モ
 ノニ對シ其罪ヲ赦免スルヲ云ヒ減刑トハ刑法明文ノ外ニ於テ本條ニヨリテ刑ヲ
 ス減輕ルヲ云ヒ復權トハ已ニ剝奪サレタル公私ノ權利ヲ將來ニ回復スルヲ云フ*

詳細ハ刑法ノ講義ニ就テ之ヲ知ル可シ
 世上或ハ此大權ヲ以テ法權作用以外ノコト、シ天皇ハ此大權ヲ作用シテ司法裁判權ニ侵入シ得ルノ權力アルモノナリト註疏スルモノアレトモ是蓋其當ヲ失シタルモノナリ何トナレハ天皇ノ大赦特赦等ヲナス所以ノモノハ全ク最高司法權ノ作用ニ出ツルモノナレハナリ

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

攝政トハ統治ノ大權作用ノ全部ヲ主トルモノナリ君主ハ即チ主權者ナル國體ニ於テハ主權ノ作用ト其本体トハ相互一致分離セサルモノナリ若シ此二者ニシテ分離スルアラシク其國ノ主權者ハ君主ニアラスシテ別種ノ無形人ナリトス蓋攝政ヲ置ク所以ノモノハ統治權ノ本体ト作用トヲ分割セシメスシテ之ヲ君主唯一ノ權力ニ保存セシメノカ爲メナリ
 茲ニ皇室典範ノ規ヲ案スルニ天皇カ未タ成年ニ達セラレサルトキ若クハ久シク故障ノアルアリテ爲メニ主權ノ本体ヲ有スル君主ニシテ統治權ヲ作用スルコト

能ハサル場合ニ於テハ皇位繼承ノ順序ニ基キ皇族中ノ一人ニ指命シテ統治權ノ作用ヲ主ラシム此統治權ノ作用ヲ主トルモノヲ稱シテ攝政ト云フ然ルトキハ天皇カ攝政ニ對シ統治權ヲ委托スルニアラスシテ天皇ト攝政トハ法律上同一體ヲナシ同一人ノ行爲ト認ムヘキ性質ヲ有スルモノナリ是憲法ハ特ニ明文ヲ以テ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フト規定スル所以ナリ人或ハ此大權ヲ行フトアルヲ指シテ大權ノ一部ヲ行フト云フハ攝政ノ主義ヲ誤解シタルモノナリ何トナレハ大權ノ全部ヲ行フ場合ニ於テ始メテ攝政ヲ置クノ必要ヲ生スルモノナレハナリ

第七回

第二章 臣民ノ權利義務

臣民トハ主權者ニ對シテ無制限ナル服從ノ義務ヲ有スルモノヲ云フ故ニ完然ナル服從ヲ爲サ、ルモノハ以テ臣民ト稱スルヲ得サルナリ彼ノ國內ニ居住スル外國人ノ如キ素ヨリ其國ノ主權ニ服從ス可キハ敢テ論ヲ俟クスト雖モ然レトモ是單ニ國內ニ居住スルカ故ニ服從ノ義務ヲ有スルモノナレハ主權ニ對スル直接ノ關係ニアラスシテ居住スル所ノ土地ニ對スル權力ノ餘響タルニ過キサルナリ故

ニ外國人ニシテ一度國境ヲ離ル、トキハ主權ノ作用ヲ候タスシテ服從ノ義務ヲ
 脫離スルヲ得ヘシ之ニ反シ臣民ハ國境ニ對スル權力ノ外ニ於テ完全ナル服從ノ
 義務ヲ有スルカ故ニ**仮令**國外ニ居住スル場合ニ於テモ尙ホ主權ニ服從スヘキ義
 務ヲ有ス論者或ハ主權ト臣民トノ關係ヲ誤解シテ臣民ハ法律ニヨリテ主權ニ服
 從スルノ義務アルモ法律ニヨラサレハ服從スルノ義務ナシト論スルモノアリ蓋
 シ此說タル專ラ法治國ヲ以テ完全ナル國體ト見做ス所ノ一種學派ノ主張スル所
 ナリ而シテ此說ノ當否ハ一ニ法律テフ辭ノ解釋如何ニ在リ若シ夫レ主權者ノ命
 令ニシテ法律ト名ケラレタル明文ニヨルニ有ラスンハ臣民ハ主權ニ服從スルノ
 義務ナシトセン乎是法理ヲ誤リタルモノト謂フ可シ何トナレハ臣民カ主權ニ服
 從スルハ法律現定ニ先キ業已ニ具ハリタル義務アレハナリ即チ法律ニ服從ス可
 キ義務アルハ主權ニ對シ服從ス可キ義務アルカ故ニシテ主權者ノ命令タル所ノ
 法律ニヨリテ始メテ服從ノ義務ヲ生スルモノニアラサルナリ而シテ其法律ニヨ
 リ生スル服從義務ハ所謂行政官ノ處分ニ對スル義務ナリ即チ行政官ノ處分ニ對
 シテハ法律ニ許サレタル場合ニアラサレハ臣民ハ之ニ服從スルヲ要セス故ニ行

政官ノ權力ハ單ニ法律ノ範圍内ニ於テ臣民ニ對シ服從ヲ命シ得ヘキモノナレハ
 法律外ニ於テ服從ヲ命スヘキ行政官ノ權力ヲ認めサルモノトス

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

日本臣民タルノ要件トハ臣民籍ヲ獲得スルニ必要ナル箇條ヲ云フ而シテ一度臣
 民籍ヲ賦與スルトキハ之ニ伴フテ一種ノ權利義務ヲ與フルモノナリ臣民ニアラ
 サルモノニシテ臣民籍ヲ得ントセハ須ラキ法律ニヨリ若クハ主權者ノ特許ヲ經
 スンハアル可カラス故ニ各個人ニ對シテ臣民タルノ資格ヲ賦與スルヲ行政官ノ
 裁量ニ任スルコトハ各國ノ共ニ爲サル所ナリ然レトモ其臣民籍ヲ得ル手續
 ハ之ヲ行政官ニ委任シ行政官ハ法律ノ規定内ニ於テ果シテ法律ノ要スル所ノ要
 件ヲ具フルモノナルヤ否ヤヲ判定スルノ職權ヲ有スルモノトス
 法律ヲ以テ之ヲ定ムトハ國會ノ協賛ヲ經由シ發スル所ノ命令ニ準據スルトノ謂
 ヒナリ然ルニ人或ハ之ヲ誤解シテ民籍ノコトハ民法規定ノ一部ニシテ民法ヲ以
 テ規定スヘキモノナリト云フモノアリ是蓋シ解釋ノ狹隘ニ失シタルモノナリ素
 ヨリ民法ハ法律ノ一部ナル以上ハ之ヲ掲クルコトハ敢テ妨ケナシト雖モ然レト

モ民籍ヲ獲得スルノ規定ハ唯ニ民法ノミノ占有スヘキモノニアラサルナリ
臣民籍ヲ得ル重ナル要件ヲ指示セハ

第一、親族法ノ規定ニ依リ之ヲ得ルモノトス、假令ハ生誕ノ兒子ハ出生其モ
ヲ以テ凡テ其父母ノ民籍ヲ襲キ又日本ノ男子ニ嫁スル外國ノ婦女ハ婚姻其モ
ノヲ以テ直ニ日本ノ民籍ヲ得ルカ如シ而シテ新ニ誕生届ヲ出シ又ハ外國ヨリ
其籍ヲ送付シ戸籍簿ニ之ヲ登録スルコトハ是一ノ行政手續ニシテ民籍ヲ得ル
カ爲メニ必要ナル手續ニアラサルナリ

第二、歸化ニヨリ民籍ヲ得ルコトアリ、歸化トハ外國人カ内國人タルノ資格ヲ
得ルヲ云フ而シテ如何ナル資格ヲ具備スルトキハ歸化スルヲ許ス可キヤハ一
ニ其國ノ成法ヲ按テ始メテ論スヘキモノトス我國法ニ於テハ未タ充分ナル規
定アラサレハ暫ラク之ヲ他國ノ例ニヨリ以テ説明セントス
歐洲諸國ノ法律ニヨレハ歸化セント欲スル外國人ハ一定ノ年限間國內ニ居住
スルヲ必要トシ且丁年ニ達シタルコトヲ要ス然レトモ歸化ヲ許サレタル丁年
者ノ家族ハ假令未丁年者タリト雖モ共ニ民籍ヲ得ルモノトス、又歸化セント欲

スル外國人ハ其本國ニ於テ法律上充分ナル行爲ノ自由アルコトヲ證明セサル
可カラズ假令ハ治産ノ禁ヲ受ケ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ其義務ヲ盡サ、
ルモノ又ハ罪惡ヲ犯シ社會ニ立テ獨立ノ行爲ヲナスコトヲ許サレサルモノ、
如キハ歸化スルコトヲ許サ、ルナリ、又歸化セント欲スル外國人ハ歸化セント
スル地方ニ於テ獨立ノ生計ヲ經營スルヲ得ヘキ資力アルコトヲ證明スルヲ必
要トス而シテ獨乙諸邦ニ於テハ歸化セント欲スル地方假令ハ町村又ハ市ニ於
テ其歸化ヲ拒絕セサルノ意思ヲ明言シタル場合ニ於テ始メテ歸化狀ヲ附與ス
ルヲ得ルモノトセリ

臣民グルモノハ自カラ請願シテ國民籍ヲ失フコトヲ得ヘシ然レトモ國家ニ於テ
未タ全ク其義務ヲ盡サ、ルモノ例ヘハ徵兵年齡ニ相當スルモノ又ハ未タ全ク租
税ノ義務ヲ盡シ了ラサルモノ、如キハ稅籍狀ヲ與ヘサルヲ通則トス、又臣民ノ意
思ニ反シ民籍ヲ奪却スルコトアリ例ヘハ一定ノ年限間外國ニ居住シテ歸國ノ意
ナキトキハ法律上ノ年月經過ヲ以テ民籍ヲ失フタルモノトス獨乙法律ハ之ヲ規
定シテ十ヶ年トセリ、又外國ニ居住スル臣民ニシテ内國ニ事變アルニ當リ主權者

ノ命令ヲ以テ召還セラレタル場合ニ於テ其命令ニ應セサルモノハ民籍ヲ失フモノトス

以上ノ規定ハ專ラ外國法律ヲ引用シテ其例ヲ示シタルニ過キサルナリ臣民權ト臣民タルノ資格トノ二者相異ナルコトハ既ニ述ヘタル所ニシテ臣民タルノ資格ヲ得ルカ爲メ一定ノ權利義務ヲ得ルトハ事實上稱ス可キコトニシテ法律上或ハ之ヲ分離スル場合アリ試ニ外國法律ヲ引用セシニ歸化シタル臣民ハ臣民タルニ相違ナシト雖モ一定ノ官職ニ就クコトヲ得ヌ又一定ノ義務ヲ負擔セサル等ノ特例徃々ニシテ是アリ是學術上或ハ歸化ヲ區別シテ全歸化及半歸化トナス所以ナリ

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及至其他公務ニ就クコトヲ得

文武官ニ任セラレトハ主權者ノ命令ニヨリテ政務ヲ探ルコトヲ指示ス公務トハ均シク主權者ノ命令ニ出ツルモノナレトモ法律執行ノ結果トシテ政務ニ參與シ又ハ行政ノ事務ヲ負擔スルモノナリ而シテ民法ノ規定ニヨリテ雇人ノ關係ヲ以

テ政府ノ役ヲ行フモノハ本條ノ規定スル所ニアラサルナリ

任官及公務ニ就クハ日本臣民タル資格ニ伴フテ法律ノ定ムル所ニ應シ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ所謂法律命令ノ定ムル資格トハ凡テ文武官ヲ任用シ又ハ國會若クハ自治体ノ議員或ハ職務ヲ負擔ス可キモノハ如何ナル者ヲ以テ之ニ充ツ可キヤヲ豫メ法律命令ヲ以テ之ヲ定メタルモノニシテ決シテ法律規定外ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得サルナリ

本條ノ所謂日本臣民トハ日本臣民タル資格ハ此等ノ法律命令ヲ規定スルニ當リ一ノ要件トナス可シトノ謂ヒナリ若シ夫レ一ノ法律ヲ作り日本臣民ハ文武官ニ任セラレ又ハ公務ニ就クコトヲ許サスト規定スルトキハ是憲法ノ文面ニ反シタルモノナリ又外國人ヲ以テ文武官ニ任シ又ハ他ノ公務ニ就カシムルコトハ法律命令ヲ以テ爲シ得サルコトナリ故ニ之ヲ爲サント欲セハ唯ニ主權者ノ大權ニ基カサル可カラス然ラハ法律又ハ命令ノ下ニ檢束サレタル行政官ハ此規定ヲ解釋シテ日本臣民タルノ要件トハ任官及公務ニ就クニ必要ナル要件ト認ムルヲ正當トス世上或ハ本條ヲ以テ日本臣民ハ任官ノ權ヲ有スト解スルモノアリ是素ヨ

リ政治上ノ言語ニシテ余輩カ法理上憲法ヲ注疏スルニ當リテハ殊更反駁ノ勞ヲ採ルニ足ラサルナリ然レトモ本條ハ日本臣民ニ官吏トナルノ權ヲ附與シタルモノニアラス又官吏ニ採用セラレサルヲ以テ既得ノ權ヲ害サレタルモノト謂フヘカラス又外國人ヲ以テ官吏ニ登用シタルヲ以テ臣民權ヲ毀損シタリト謂フ可カラス蓋シ臣民ノ權トハ前已ニ詳述シタルカ如ク決シテ主權者ニ對シテ存スルモノニアラサルナリ日本臣民ニシテ任官及公務ニ就クノ權利ヲ有セサルモノ其數甚多シ例ヘハ撰擧權被擧權ノ如キハ日本臣民ノ一小部分ニノミ存スルモノナリ又官吏トナル權ノ如キモ亦其要件ヲ具フルモノ極メテ僅少ナリ然ラハ則チ之ヲ以テ直ニ臣民ニ任官ノ權利ヲ與ヘタリト稱スルヲ得サルヤ明カナリ

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニヨリ兵役ノ義務ヲ有ス

本條ノ註釋ハ前條ノ註解ヲ以テ之ヲ推究スルトキハ其法理自カラ明晰ナラン抑モ兵役ノ義務ヲ有スルハ日本臣民ノ一部分ニシテ法律ノ規定ニヨリ始メテ其義務ヲ負フモノナリ純然タル服從ノ義務ハ一般臣民タルモノ、將ニ負フ可キ所ニ

シテ敢テ一ノ例外ナシト雖モ然レトモ一定ノ權利義務ハ法律ニヨリ始メテ生スルモノナリ故ニ兵役ノ義務トハ恰モ任官又ハ公務ニ就ク權利ノ如ク法律命令ノ結果ニヨリ始メテ生スルモノナレハ臣民一般ノ之ヲ有スルモノニアラサルナリ」兵役トハ凡テ國家ノ軍隊ヲ編制シ或ハ軍隊ノ用ニ供センカ爲メニ身体ヲ以テ國事ニ供スルモノナリ而シテ法律ノ結果ニヨリ此義務ヲ負擔スルヲ兵役ノ義務ト云フ彼ノ武官ニ任セラレ職ヲ海陸軍ニ奉スルモノハ素ヨリ兵役ノ義務ヲ有スルコトハ敢テ喋々ヲ俟タサル所ナリ

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニヨリ納稅ノ義務ヲ有ス

納稅ノ義務ハ是亦日本臣民一部分ノ負擔スヘキ義務ニシテ前二條ト其解釋ヲ同フシ日本臣民タルノ資格ニ伴フノ義務ニアラサルナリ即チ納稅ノ義務ノ生スルハ法律ニヨリ始メテ生スルモノニシテ日本臣民タルカ故ニ生スルモノニアラス、世間或ハ兵役ノ義務ト納稅ノ義務トヲ區別シテ前者ハ日本臣民ニノミ限リタル義務ニシテ後者ハ内外國民ニ相通シテ負擔スヘキ義務ナリト解スルモノアリ此

説タル一見甚タ明確ナルカ如シト雖モ仔細ニ之ヲ玩味スルトキハ頗ル正鵠ヲ誤ルモノト云ハサル可カラス何トナレハ彼ノ兵役ト云ヒ納税ノ義務ト云ヒ皆ナ是法律ニヨリ特ニ定メラレタル所ニヨリ日本臣民ノ將ニ負擔ス可キモノナレハナリ然ラハ則チ何チ以テ外國人ニ對シ租税ヲ徵収スル乎余ハ此疑問ニ對シテハ特ニ法律カ許スチ以テナリトノ簡單ナル答詞ヲ付セント欲スルナリ而シテ兵役ノ義務モ亦之ト同一ノ理由ヲ適用スルコトヲ得ヘシ若シ夫レ現行法律ヲ改正シ兵役ニ就クハ當ニ日本臣民タルノ義務ナルノミナラス外國人ニ於テモ尙ホ且其義務ヲ有スト規定セン乎外國人モ亦兵役ノ義務ヲ負擔セサル可カラサルナリ是ニ依テ之ヲ視レハ論者ノ説タル現行法律ヲ以テ憲法ノ箇條ヲ註疏シタルノ過チニ陥リタルモノト謂フ可シ

納税トハ主權者カ強迫力ヲ以テ人民私産ノ一部分ヲ取立テ以テ國庫ヲ富マヌモノチ云フ故ニ強迫力ニ據ラサルモノハ租税タルノ性質ヲ欠キタルモノナリ彼ノ手數料ノ如キハ法律ノ結果ニ準據セスシテ行政官ノ命令ヲ以テ之ヲ取立テ得ルモノナレハ以テ税ト稱スルヲ得サルナリ第六十二條會計篇ニ於テ租税ハ必ス法律

律ヲ以テ付加ストアルカ故ニ法律ニ據ラスシテ納税ノ義務ヲ有セサルコトハ明瞭タリ蓋憲法ハ同一ノ事柄ヲ二ヶ條ニ規定シタルモノナリ

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

居住及移轉ノ自由ハ法律ノ禁セサル場合ニ於テ各人ノ享有スル所ノモノナリ是亦日本臣民タルノ資格ニ伴ヒテ此自由ヲ有スルモノニアラス即チ日本臣民タルモノハ居住及移轉自由ヲ法律頒布以前ニ有スルモノニアラスシテ斯カル自由ノ生スルハ即チ特ニ規定シタル法律アルカ故ナリ若シ夫レ茲ニ本條ノ規定ノミアリテ他ニ自由ヲ保護スル法律アラサルトキハ此條ニヨリテ居住及移轉ノ自由ヲ有スルモノニアラサルナリ

凡ソ吾人ノ享有スル所ノ權利ニシテ或ハ法律ヲ以テ特ニ之ヲ保護スル所ノモノアリ或ハ之ヲ禁止セサル所ノモノアリ而シテ法律カ之ヲ保護スル場合ニ於テ茲ニ權利生シ法律カ之ヲ禁止セサル場合ニ於テ茲ニ自由生ス例ヘハ吾人ノ衣食スルカ如キハ人生福利ノ最大ナルモノナリ居住及移轉ノ如キ亦然リ此等衣食居住

及移轉ハ法律カ認メテ以テ自由トナセシ所ノモノナリ故ニ若シ人アリ此等自由ヲ妨害スルモノアラソ乎行政官ハ直ニ其障害ヲ除去スルニ意ラサル可シ然レトモ若シ吾人ニシテ居住ヲ占ムルノ力ナク又ハ移轉スルヲ得サルモノアラソ乎政府ハ決シテ其目的ヲ達スルニ助力セサルナル可シ若シ夫レ此等事柄ニシテ眞正ノ權利ナラソ乎政府ノ力ナカリ其享有ヲ全フスルコトヲ得ヘシ是本條ニ於テ權利ト云ハスシテ自由ト特書シタル所以ナリ

第八回

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニアラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

本條ノ主意トスル所ハ行政官ニ對シ法律ニ違背シタル所分ニヨリ臣民ノ自由ヲ障害セシメサルニ在リ然ルニ人或ハ本條ヲ解シテ主權者ハ法律ノ下ニ立テ法律ニ於テ許サレタル場合ニアラサレハ臣民ノ自由ニ干渉スルヲ得ストスルハ憲法ノ眞意ヲ知ラサルモノナリ

本章ノ終ニ於テ規定シタルカ如ク國家非常ノ境遇ニ際シテハ主權者ハ毫モ法律

ノ檢束ヲ受ケス非常ノ處置ヲ爲スヲ得ヘシ蓋シ法律ハ國家ヲ維持セシカ爲メ制定セラレタルモノニシテ法律アルカ爲メニ國家アルニアラサルナリ故ニ本條ノ精神ハ主權者カ行政官ト臣民トニ向テ命令シタル所ノモノナリ彼ノ行政官ハ何等ノ場合ニ於テモ法律ニ準據セサル手續ヲ以テ日本臣民ノ自由ニ立入ルコトヲ得ス所謂法律ニ準據ストハ法律ヲ以テ直接ニ規定ストノ意味ニアラスシテ法律ニ違背セサルトノ意ナリ故ニ主權者ハ行政官ヲシテ一個人ノ自由ヲ檢束スル所ノ命令ヲ發セシムルコトヲ得ヘシ例ヘハ行政官カ一個人ニ對シテ發スル警察命令ノ如キハ法律ニアラス然レトモ臣民ハ本條規定ニヨリテ該命令ニ服従スルコトヲ拒絕スルヲ得ス何トナレハ法律ハ行政官ニ對シ斯カル權力ヲ委託シタルカ故ナリ而シテ一個人ノ自由ヲ檢束スヘキ警察命令ヲ發スルハ管ニ高等行政官ノ爲シ得ヘキノミナラス最下級ノ行政官タル町村長ノ如キモノモ猶ホ且ツ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ唯此等警察命令ニシテ法律ニ抵觸スルトキハ裁判官ハ之ヲ無効ト判決スルコトヲ得ルノミ而シテ行政官カ一個人ニ向テ警察命令ヲ執行スル場合ニ於テ臣民ハ自己ノ見解ヲ以テ其命令ノ違法タルコトヲ判決シテ之ニ服従ス

ルヲ拒ムコトヲ得サルナリ必ス先ツ一度該命令ニ服從シ而シテ後法律ニ許サレタル手續ヲ以テ行政官ノ不法ナルコトヲ法衙ニ訴ヘ以テ其命令ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ例ヘハ警察命令ヲ以テ行政官ノ命令ニ服從セサルモノハ某罰ヲ科ストノ規定ヲナシタルトキハ其命令タル直接法律ノ作用ニアラスト雖モ尙ホ効力アルモノナリ

佛國ノ法理ニヨリ本條ヲ解セントスルトキハ彼ノ行政官ノ命令ニハ罰則ヲ付スヘカラサルノ規定アルヲ以テ頗ル狹隘ナル見解ヲ下サ、ル可カラス然レトモ其實際ヲ討尋スルトキハ其刑法ニ於テ行政官ノ命令ニ抵抗スルモノハ云々ノ罰ヲ付加ストアルヲ以テ行政命令ニ直ニ罰則ヲ付加スルト同一ノ結果ナリト謂ハサル可カラス

逮捕監禁審問處罰ト云フハ刑法上ノ語ニシテ諸君ハ已ニ刑法講義ニ於テ了解セラレナル可シ故ニ余ハ敢テ茲ニ贅セス

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

本條ノ規定ハ前條ト同一ノ法理ニ則リタルモノナリ抑モ裁判ノ事柄タル法律ヲ以テノミ規定スヘキモノニシテ行政官ノ之ニ關係スルコトヲ許ササルナリ臣民ハ法律ニヨリテノミ其權利ノ有無ヲ判斷セラルヘキモノニシテ法律以外ノ命令ヲ以テ其權利ヲ奪ハル、コトナシ例ヘハ從來ノ制度ニ於テ裁判所ヲ設ケテ以テ訴訟ノ法ヲ定メ臣民ノ享有スル權利ヲ保全スルノ道ヲ賦與セルニモ係ハラス或格段ナル場合ニ臨ミ或一個人ニ對シ政府ノ便宜ノ爲メ特別ノ裁判所ヲ設ケテ特別ノ訴訟ノ法ニヨリ或ハ全ク行政官ノ手裡ニ於テ訴訟ヲ判斷スルコトアラン乎是本條ニ違反シタルモノナリ然レトモ日本臣民ハ盡ク皆同一ノ取扱ヲ受ク可シトノ規定ニアラサレハ豫メ法律ヲ以テ或格段ナル臣民ハ格段ナル訴訟手續ヲ以テ審判セラル、モノナリト規定シタルトキハ其特定セラレタル法規ニ從フ可キハ論ヲ俟タサルナリ例ヘハ英國法律ニヨレハ大憲章ノ精神ニ基キ貴族タルモノハ貴族ノミニヨリ審判セラル可シトノ規定アリ斯カル法律アルトキハ貴族相互ノ訴訟ハ上院ニヨリ裁判セラレ普通裁判所ノ判決ノ下ニ立タサルモノトス現行法律ニ於テモ皇族ノ訴訟ハ特別裁判所ヲ設ケテ之ヲ審判セルハ本條ニ抵觸シタル

モノニアラサルナリ何トナレハ其例外タルヤ即チ法律ヲ以テ豫メ定メラレタルモノナレハナリ
 法律ヲ以テ定メタルトハ法律ヲ以テ至當ナリト認定シタル裁判所及裁判官トノ意ナリ之ヲ以テ我邦現行法ニ於テ外國人ニ對スル訴訟ハ普通ノ裁判手續ニ據ルコトヲ得サルカ如キハ即チ法律ヲ以テ之ヲ定メタルモノナレハ本條ニ抵觸スルモノニアラス、權ヲ奪フトハ法律ニ矛盾シタル命令ヲ以テ取除チナスコトヲ云フ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラレ、コトナシ

住所ノ侵ス可カラサルコトヲ貴重スルハ專ラ歐洲各國ノ法律ニ基キタルモノナリ之ヲ以テ住所ノ意味モ亦間接ニ歐洲ノ法理ニヨリ之ヲ定メサル可カラズ我邦習慣ニ於テ住所トハ畜ニ居住スル家屋ヲノミ指稱スルノミナラス家屋ヲ圍繞スル一定ノ土地ヲモ包含スルモノナリ然ラハ則チ我邦ニ於テハ歐洲ニ所謂住所ナル意味ヲ擴張シテ之カ解釋ヲ下サ、ル可カラズ蓋シ住所トハ公開ノ場所ニ對シタルモノナリ警察法ニ所謂公開ノ場所トハ何人タリトモ之ニ來往シテ妨害セラ

レサル所ノ場所ヲ云フ故ニ家屋ニシテ尙ホ公開ノ場所アリ例ヘハ芝居寄席ノ如キ或ハ博覽會、學校及飲食店ノ如キ警察法上稱シテ公開ノ場所トス故ニ官吏ニシテ之ニ立入り搜索スルコトアリト雖モ人民ハ本條ニヨリ之ヲ拒ムコトヲ得サルナリ、又家屋ニアラスト雖モ居室ノ邸内ノ如キハ假令漠然廣キ地面ナルモ主人ノ許諾ナクシテ一定ノ柵内ニ他人ノ出入シ得サルモノナル以上ハ法律上住所ト稱スルモノトス、又同一ノ家屋ニシテ或時ハ公開ノ場所トナリ或時ハ住所トナルモノアリ例ヘハ飲食店ノ如キ半夜其店ヲ閉鎖シテ來客ノ出入ヲ止メタルトキハ警察官ト雖モ濫リニ立入ルコトヲ得ス之ニ立入ラントセハ必ス其主人ノ許諾ヲ經サル可カラサルナリ何トナレハ營業時間ヲ經過スルトキハ公開ノ場所タル性質ハ忽チ變シテ一私人ノ住所トナレハナリ凡ソ以上説明シタル所ニヨリ住所ト認メタル場所ハ法律ニ定メタル場合及法律ニ定メタル手續アルニアラサレハ行政官ハ之ニ立入ルヲ得ス而シテ已ニ住所ニ立入ルコトヲ得サルモノトセハ搜索セラレサルコトハ論ヲ竣タサルナリ今法律ニ許シタル例ヲ上クレハ司法警察ノ爲メ罪人ヲ搜索シ或ハ之カ證據ヲ蒐集スルカ爲メ又ハ収稅官吏カ租稅檢査ノ爲メ若

クハ戶外ヲ巡回スル警察官カ住所内ニ於テ救助ヲ求ムルノ聲ヲ聽キ其他非常ノ
徴効アリト認タル場合等ニ於テハ法律ハ主人ノ許諾ノ有無ニ拘ハラズ住所ニ侵
入スルコトヲ許スモノトス

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外信書
ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

信書ノ秘密トハ専ラ行政官ノ遵守スヘキ權限ニ對シタル事柄ナレハ一個人各自
ノ交際間ニ於テハ假令信書ノ秘密ヲ侵サル、ト雖モ本條ニヨリテ以テ法衙ニ訴
フルコトヲ得サルナリ而シテ政府カ此秘密ヲ保護スルモノハ單ニ(一)信書ヲ剝奪
セサルコト及(二)之ヲ開封セサルコト等ニ限ルモノトス
信書ヲ郵便ニ托シタル場合ニ於テ郵便局ニ於テ信書ヲ毀損シ又ハ紛失シタルトキ
ハ別ニ行政法ノ規定ヲ竣テ其責任ヲ明ニセサル可カラズ信書ノ秘密ハ之ヲ封鎖
シタル信書ニノミ及ホス可キモノニシテ封鎖セラレサル信書ハ其秘密ヲ侵サレ
タリト云フヲ得ス蓋シ本條ハ専ラ行政官ニ對シテ規定シタルモノナレハ本條ノ
効力ヲ全フセントスルニハ必ス郵便條例ノ細則ヲ竣タサル可カラズ又法律ニ定

メタル場合ニ信書ノ秘密ヲ侵スコトヲ許スハ尙ホ前條ニ於テ法律ノ許タル場合
ニ居宅ニ侵入スルコトヲ認ムルト同一ノ法理ヲ適用スルコトヲ得ルナリ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、コトナシ
公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニヨル

本條ノ規定シタル所ハ素ヨリ所有權其モノ、性質ニ於テ業已ニ具備セルモノナ
レハ別ニ本條ノ規定アルカ爲メニ本來存在セル所有權ニ一層ノ保護ヲ増加シタ
ルニアラサルナリ今法理上ヨリ斷案ヲ下ストキハ所有權ハ法律ノ保護ニヨリ初
メテ存在スルモノナレハ公益ノ爲メニ法律ハ之ヲ保護セサルヲ以テ純然タル法
律ヲ以テ之ヲ沒收スルトキハ所有權ヲ侵サレタルモノト謂フヲ得サルナリ然レ
トモ立法者カ本條ヲ規定シタル精神ニ基キ註解ヲ下ストキハ所有權ナルモノハ
先ツ法律以外ニ人民ノ享有シ居ルモノニシテ法律ハ必要ノ場合ニ臨ミテ之ヲ制
限セントシタルモノナリ即チ民法上ノ所謂所有權ハ行政處分ヲ以テ侵サレスト
ノ謂ヒニシテ若シ已ムヲ得サル場合ニ於テハ豫メ法律ヲ以テ其場合ヲ指示スヘ
シトノ意ナリ

法律ノ定ムル所トノ意義ハ業已ニ屢々講述シタル如ク必スシモ直接ニ明文ノ法律アルヲ要セス行政官ハ法律ノ委託シタル場合ニ於テ一ノ命令ヲ發シ所有權ノ一部ヲ犧牲ニ供シ以テ公益ヲ保護スルコトヲ得ヘシ如斯行政官ノ發スル命令ハ唯法律ニ基クテ要スルノミ普通ニ本條ヲ解シテ専ラ不動産ニ關スルモノナリト云フモノアレトモ必スシモ土地ニ關スルモノニ限ラスシテ廣ク一ケ人ノ所有ニ屬スルモノヲ總稱ス又處有權ヲ解シテ處有スル所ノ物件トスルモノアレトモ是純粹ナル法律的ノ意義ニアラス即チ本條規定スル所ハ所有物ニアラスシテ所有權ナリ

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務

ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス
 信教ノ自由トハ自己ノ決斷ニ從ヒテ自ラ撰定シタル宗教ヲ信仰スルコトヲ云ヒ而シテ余カ管見スル所ハ宗教ヲ信仰セサルコトヲモ包含スルモノトス歐洲諸國ノ法律ヲ見ルニ宗教ノ自由ハ概テ之ヲ許スト雖モ通常無宗旨ヲ許サ、ルナリ例ヘハ埃太利ノ法律ノ如キハ國民タルモノハ一定ノ年齢ニ達シタルトキハ必ス一

ノ宗教ヲ信仰シテ之ヲ官ニ届出サルヘカラス故ニ戶籍簿ニ於テ無宗旨ナルコトヲ許サ、ルナリ而シテ尙ホ一步嚴酷ナル國柄ニ在リテハ宗旨ノ自由ハ耶蘇教中ノモノニ限ルヘシト規定スルモノアリ例ヘハ獨乙ノ現行法ニヨレハ耶蘇舊教ノ一派タルシユスウヰツト派ノ主義ヲ信仰スルモノハ之カ臣民籍ヲ剝奪ストノ法規アリ而ルニ尙ホ其憲法上ニ於テハ宗教ノ自由ナルコトヲ明言セリ我帝國ノ法理ハ之ヲ歐洲各國ニ比スレハ一層寬大ナル主義ニシテ極メテ宗教ニ對シ制限ヲ解キ凡テ主權者カ認メテ以テ國家ノ成立ニ反クモノト爲サ、ル以上ハ法律ヲ以テ之ヲ制限セス加之宗旨ヲ信スルト否トハ一ニ各人ノ自由ニ任スルモノナリ

第九回

第廿九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會

及結社ノ自由ヲ有ス

本條ノ意味モ他ノ條ニ推シテ理解スル時ハ別段詳細ナル註釋ヲ要セサルヘシ法律ノ範圍内ニ有スル所ノ行爲ノ自由ハ直ニ之ヲ指シテ權利ト云フ可ラズ權利トハ之ヲ保護スルノ手續具ハレルモノニシテ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘ、法廷ニ訴入テ

其享有ヲ全フスベキモノナク云フ言論ノ自由ノ如キハ總テ法律ニ觸レサルコトヲ
ナシ得ル一般ノ原則ヨリ生ズルモノニシテ別ニ茲ニ掲ケタル言論著作其他ノコ
トニノミ限リタル自由ニ非ス法律ノ範圍内トハ法律ノ禁セサルト云フ意義ニシ
テ法律ノ定ムル所トハ其意義ヲ異ニス故ニ苟モ法律ニ抵觸セサルカ又ハ法律ノ
指示スル所ニ因テ勅令又ハ行政命令ヲ以テ是等ノ自由ヲ依制スルコトヲ得ルハ
勿論ナリ

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程

ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

請願ヲ爲シ得ルコトハ權利ト稱スベキモノニ非ス即チ法律上行爲ノ自由ニ屬シ
決シテ請願ノコトニ對シテノミ適用ス得ベキ原則ニ非ス故ニ臣民ハ此條ニ由テ
請願ヲ爲スコトヲ得ルト雖トモ之ヲ受取ルノ義務アリト云フヲ得ス若シ政府ニ
シテ請願ヲ却ケタル場合ト雖トモ裁判所ニ訴ヘテ判決執行ノ手續ヲ以テ政府ニ
之ヲ受ケシムルノ義務ヲ果サシムルヲ得ス此條ニ於テ法律ニ依リト書セザル所
以ハ法律ノ禁シ得ヘカラサル事柄ナルヲ以テナリ若シ請願ヲ禁スル時ハ同一ノ

コトヲ爲スニ他ノ手續ニ由リテ之ヲ爲シ得ルナリ要スルニ請願ナルモノハ訴訟
ト異ニシテ判決ヲ求ムルヲ得サル以上ハ手紙ヲ往復スルト其効相同シ故ニ之ヲ
一般ニ許シタルナリ

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合

ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

天皇大權ノ執行トハ國會ノ協賛ヲ經ス又ハ行政機關ニ委託セヌシテ天皇直接ノ
特權ニ屬スルモノナク云フ而シテ此條ニ掲ケタル場合ハ法律ヲ以テ制定スベキ場
合ニシテ即チ國會ノ職權ニ屬スルモノナリ平時ニ在テハ勅令ヲ以テ之ヲ犯スコ
トヲ得ス此條ハ唯非常ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ變更シ得ルコトヲ規定シ
タルナリ例ヘハ戒嚴令ヲ布キタルトキノ如キ事變ノ危急ナル場合ニ際シテハ法
律ノ規定ニ由ラス非常ノ處分ヲ爲シ得ルカ如キ是ナリ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ規律ニ

抵觸セザルモノニ限リ軍人ニ準行ス

海陸軍ハ天皇ノ大權ノ下ニ立テ普通ノ法律ヲ以テ直接ニ適用セザルモノナリ即

軍人ニハ軍人特別ノ規定アリ若シ軍令ト一般ノ法律ト抵觸シタル場合ハ此條ニ由リテ軍令ヲ以テ有効ナルモノトス憲法ニ由リテ軍令ニ背クコトヲ得ス
 軍人ニ對シテ特ニ此條ヲ掲ケタルニモ拘ラス此事ハ必スシモ軍人ノミニ限ルニ非ス政府ニ於テ行政部内ノ訓令ヲ發シ官吏ニ對シ法律以外ノ制限ヲ命シタル時ハ官吏ハ此章ニ因テ其命令ノ効力ノ有無ヲ爭フコトヲ得ス何トナレハ憲法ハ臣民一般ニ對シテ布告シタルモノニシテ軍人トナリ官吏トナリ又ハ國會議員トナルハ臣民タル資格ノ外ニ主權者ニ對シテ一種ノ服從義務ノ關係ヲ負フモノナレハナリ故ニ法律ニ明文ナキ場合ト雖トモ國會議員ハ國會ノ懲戒令ニ從ハサルヲ得ス此章ノ規定ニ由リテ議員ハ國會内部ノ懲戒令ノ處分ヲ拒ムヲ得ス行政官ハ服務規律ノ適用ヲ拒ムヲ得ス是等ハ憲法上ニ明言セスト雖トモ本條ノ法理ヨリ推論シ得ヘキナリ

帝國會議

第三章 帝國議會

帝國議會ノ性質ヲ說明セント欲セハ勢ヒ其沿革ヲ畧述セサル可ラス而シテ其沿革ハ歐洲ノ歴史ニ徵スルニ非レハ之ヲ明カニスルヲ得ス扱歐洲ニ於テ議會ノ發

達ヲ釋スルニ獨乙建國ノ始メニ於テ業ニ已ニ此制アリタリ當時ハ神ヲ祭ルコトモ軍ヲ起スコトモ政治即チ國內ノ秩序ヲ保ツコトモ皆同一ノ機關ニ由リ執行シタリ是ヲ以テ國民集會シテ神ヲ祭リ兼テ春秋二期ニ兵士ノ訓練ヲ爲セリ而シテ此場合ニ於テ相互ノ訴訟ヲ判斷シテ共同ノ事ヲ談セリ故ニ古昔ノ議會ハ專ラ軍人ノ集會ナリシ降テ中古ニ至ルニ及ヒ制度益々錯雜スルヲ以テ神ヲ祭ルコトハ宗教家ノ專ラニスル所ト爲リ軍事ハ土地ノ所有權ト相合シ土地所有者ハ即チ軍人ト爲レリ是ヲ以テ中古ノ集會ハ全ク土地所有者ノ會合ナリシカ今チ距ル百五十年前ニハ國會ノ成立稍其趣ヲ變シ人民ノ階級ヲ表スルニ至レリ即チ土地所有者ニ限ラス國王カ貴族ト認ムル豪族商業又ハ工業ノ組合体ノ代表者又ハ僧侶等ヨリ成立セリ然ルニ佛國革命ノ前後ニ於テ國會ハ國民一般ノ之ニ參與シ得ル目的ヲ以テ組立ツルコトヲ原則トシ遂ニ舊來ノ國民代表會ヲ破壞シテ國民總休ノ代表會ト爲セリ然ラハ即チ現今ノ國會ハ如何ナル法理上ノ性質ヲ有スルヤト云フニ之ヲ決スルコト甚ク困難ナリ而シテ逐一各種ノ學說ヲ舉クルハ繁雜ノ恐下ルヲ以テ茲ニハ余ノ持論ノミヲ述フヘシ

扱現今歐洲立憲制度ノ國ニ行ハル、ノ國會ノ性質ヲ一概ニ論セントスルハ抑誤
 レリト謂フ可シ國會ハ何處ニ在リテモ國會タルニハ相違ナシト雖トモ法理上ノ
 性質ハ國々ニ由テ異ナレリ而シテ我憲法上ノ國會ハ極メテ淡泊ナル性質ヲ有セ
 リ抑モ主權者カ政權ヲ執行スル爲メニハ種々ノ官府ヲ必要トス即チ行政官吏ヲ
 以テ之ヲ組立ツルアリ人民ノ撰擧ヲ以テ組立ツルアリ又人民ノ撰擧ヲ以テ組立テ
 タル機關ニシテ行政事務ヲ執ラシムルモノアリ即チ市町村ノ如キ是ナリ而シテ
 帝國議會ハ撰擧ヲ以テ組立ツル所ノ一ノ官府ニシテ其權限ハ憲法及ヒ議院法ニ
 於テ明文ヲ以テ定メラレタルモノニ限ル又各議員ハ法律ニ由テ國家ノ政治ニ參
 與スルモノニシテ恰モ官吏ノ行政事務ヲ取ルト同一ナリ故ニ近世ノ國法學者カ
 官吏ナル語ヲ擴張シテ人民ノ撰擧ニ出テタル者ニモ及ホサント企ツルハ強チ理
 ナキニ非ルナリ議會ハ固ヨリ法人ニ非ルヲ以テ權利義務ヲ有スルコトヲ得ス故
 ニ國會權ト稱スルモノハ職權ノ謂ニシテ權利ノ謂ヒニ非ルナリ又議員ノ立法事
 務ニ參與スルハ畢竟公務ヲ執行スルモノナルヲ以テ自ラ此權ヲ放棄スルヲ得ス
 勿論議員タルト否トハ各人ノ自由ニ在リト雖トモ一ツヒ議員トナリタル以上ハ

自カラ此權ヲ放棄シテ國政ニ參與セサルコトヲ得ス議員ニシテ若シ理由ナク欠
 席スルトキハ相當ノ處罰ヲ蒙ルモノトス

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

帝國議會ハ二局部ヨリ成立ス然レトモ二局各其權限ニ差異アルニ非スシテ二院
 共ニ同等ノ權ヲ有スルモノトス而シテ政府ニ對スルノ關係ハ總テ國會ノ名ニ於
 テ有スルモノニテ各院各別ニ其權利ヲ有スルモノニ非ス是ヲ以テ一局部ノ議決
 スル所ハ政府ヨリ見ルトキハ未タ効力ナキ決議ナリ但シ茲ニ一ノ例外ト稱スル
 キハ貴族院令ヲ改正スル議案又ハ華族ノ特權ニ關スル議案ハ貴族院ノ議決ノミ
 ナリテ衆議院ノ議決ヲ經サルモ其効力ヲ有スルコト是ナリ然レトモ其他ノ事項ハ
 皆二院共通シテ可否スルノ權アルモノニシテ單一院ノミノ議決ハ無効ナリト
 ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及

勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

貴族院ノ組織ハ貴族院令ニ明文アルヲ以テ茲ニ解釋ヲ施サス但シ皇族華族及勅

任議員ノ三種ヨリ成立スルコトハ憲法ノ明文ナルカ故ニ貴族院令ヲ改正シテ此
條項ヲ變更スルヲ得ス貴族院ノ權限ハ衆議院ノ權限ト同一ニシテ別ニ特權ト稱
スヘキモノ無シ但シ外國ノ貴族院ハ往々裁判權ヲ有シ又ハ國王ノ罰ヲ授ケント
欲スルニ於テハ貴族院ノ協贊ヲ經ルヲ必要トスルノ個條ヲ設ケタルモノアレト
モ我邦ニテハ此類ノコトヲ認メス

第三十五條 衆議院ハ撰擧法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタ
ル議員ヲ以テ組織ス

衆議院ノ組織法ハ全ク公撰ノ手續ニ由リ勅任議員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ス
但シ憲法ノ規定ニ於テハ廣ク公撰トアルヲ以テ撰擧方法ハ如何様ナリトモ法律
ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得但シ現行撰擧法ニ於テ衆議院ハ直接撰擧ニ由リ而シテ
財産及ヒ其他ノ資格ヲ有スルモノニ制限シ撰擧被撰擧權ヲ與ヘタリ撰擧手續詳
細ハ衆議院撰擧法ニ明カナリ
撰擧トハ法律ノ執行ニシテ決シテ撰擧權ヲ執行スルコトニ非ス普通ノ見解ヲ以
テ往々法理ヲ誤ルコトアルヲ以テ特ニ茲ニ一言ニ彼ノ撰擧人カ投票ヲ爲スハ法

律命令ヲ執行スルモノニシテ私權ヲ執行スルモノニ非ス故ニ法律ハ投票及ヒ撰
擧ノコトニ關シテハ特別ノ保護ヲ與ヘリ之ヲ解シテ法律ハ撰擧權ヲ保護スルモ
ノト爲スハ誤レリ若シ投票ニシテ一個人ノ私權ヲ執行スルコト即チ賣買契約ヲ
爲シ又ハ自己ノ所有物ヲ使用スルカ如キモノナリトセハ法律ハ一般ノ手續ニ由
リテ之ヲ保護スルニ止マリ特別保護ヲ爲サ、ルモノトス唯此場合ニ於テハ私權
執行ニ非スシテ政府ノ爲メニ政府ノ命スル所ヲ行フモノナルヲ以テ政府ハ特別
ノ方法ヲ以テ之ヲ保護スルナリ

第十回

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス、

本條ノ規定スル所ハ二局議院ノ主義ヲシテ完全ナラシムル爲メ議員ヲシテ重複
ノ議決ノ數ニ入ラシメサルニ在リ議會ノ決議ハ二局各別ニ議決ヲ取り兩院相合
シテ初メテ法律案ニ協贊スルコトヲ得ルモノナリ若シ同一ノ人ニシテ兩議院ノ
議員タルヲ得ルモノト爲サンカ其人ノ意見ハ爲メニ他人ニ倍スルノ價值ヲ有ス
ルコト、ナルヘシ尙ホ一ノ理由ヲ述ヘンニ議會ハ國民全体ノ現狀ニ就キ其階級

ノ區別ヲ反對セシメ暗ニ國民代表ノ實ヲ得セシメンガ爲メナリ是故ニ上院ハ一
種ノ種族ヨリ成リ下院ハ又國民中他部分ノ元素ヨリ成立セルヲ以テ既ニ議員撰
舉法ニ於テモ貴族院ノ議員トナリ得ル者ハ華族ノ當主ハ躬自カラ貴族院ノ地位
ニ列セスト雖モ尙ホ衆議院ノ撰舉人及被撰舉人タルコトヲ得ストセルカ如キハ
皆本條ノ主義ニ據リタルモノナリ

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

本條ニ於テ註解ヲ加フヘキノ要點ハ第一法律ノ意義第二協賛ノ定義是ナリ而
テ此ノ條ヲ按スルニ暗ニ帝國議會ノ職權ヲ定メ其決議ノ効力ハ果シテ如何ノ點
ニマテ波及スヘキ乎ヲ規定シタルニ外ナラサルナリ
第一法律ヲ註解セントスルモノハ二様ノ點ニ於テスルヲ必要トス即チ一ハ法律
ノ性質ニ就テ見解ヲ下シ二ハ法律ノ成立ニ就テ見解ヲ下スナリ先ツ普通ノ解釋
ヲ舉クレハ法律トハ主權者ノ命令ニシテ制裁ヲ以テ之ヲ強行スルモノナリトセ
リ此定義ハ專ハラ行ハル、モノナレトモ是即チ法律ノ成立ヨリ見解ヲ下セタル
モノニシテ未タ以テ學術上ノ完全ナル定義ト爲ヌヲ得サルナリ何トナレハ主權

者ノ命令ハ獨リ法律ニ止マラスシテ勅令以下ノ各種命令ト雖モ亦主權者ノ命令
ナレハナリ又縱令ヒ法律ナル文字ヲ汎博ニ解釋シ總テ法令規則ヲ指示スルノ語
トスルモ行政上ノ處分モ亦主權者ヨリノ命令ニシテ制裁ヲ以テ強行スルモノナ
リ然ラハ則チ此ノ定義ハ實ニ廣漠ニ失セルモノト謂ハサルヲ得ヌ之ニ反シ法律
トハ人類行爲ノ規則ニシテ主權者ノ命令ヲ以テ之ヲ遵守セシムルモノナリトノ
注解ハ專ハラ法律ノ性質ヲ説明セント試ミタルノ定義ナリ然ルニ人類行爲ノ規
則ハ法律ヲ以テノミ規定セラレタルモノニ非ラスシテ各種ノ命令及ヒ習慣ニヨ
リ之ニ據ル可キノ義務ヲ生スルモノナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ此ノ定義モ亦憲法
上ニ適用シテ以テ本條ヲ解スルニ足ラサルナリ
凡リ法文ヲ解釋スルニハ事實ノ如何ヲ二段ニ措キ先ツ其法文ノ字句ノ用方ニヨ
リ定義ヲ下スヘキナリ此點ヨリシテ我ガ憲法上ノ法律ナル定義ヲ與フルトキハ
帝國議會ノ協賛ヲ經テ裁可サレタル所ノ法規ヲ指スト云フヲ尤モ適當ナリトス
故ニ法規ト雖モ協賛ヲ經サルモノ及ヒ協賛ヲ經ルト雖モ法規ニアラサルモノハ
共ニ之ヲ法律ト云フヲ得ヌ例令ハ勅令以下ノ命令ヲ以テ規則ヲ發布シ人民ハ之

ヲ遵守スルノ義務ヲ生スルモ是レ必スシモ法律ニノミ依ルニアラス又行政處分ニ向テ國會ノ協賛ヲ經ルモ之ヲ法律ト稱セス例令ハ豫算表ノ如キ其他財政處分ノ如キ協賛ヲ經ルモ法律トナラサルモノナリ

參照ノ爲メ外國ノ例ヲ陳ヘンニ佛獨兩國ノ憲法ニ於テハ法律ト稱スルモノハ大ニ我カ邦ニ異ナレリ我カ憲法ヲ解釋シテ世上各種ノ誤説ヲ爲ス所以ノモノハ畢竟此ノ意義ノ區別ヲ忘却スルノ罪ノミ即チ彼ニアリテハ協賛ト立法トハ同一ノ事柄ヲ云フモノニシテ總テ國會ノ協賛ヲ經タルモノヲ法律ト稱ス故ニ法律トハ協賛ヲ經タルモノト云フノ意義ナリ斯ノ如ク協賛ト立法トハ其區域ノ廣袤チ一ニスレトモ我カ憲法ニ於テハ協賛ノ區域ハ立法ノ區域ヨリ廣クシテ協賛トハ恰モ法理上他ノ會議体官府ノ議決ト其性質チ異ニセサルナリ

協賛ヲ以テ契約又ハ合意ノ性質チ包含スルトノ説ハ誤謬ナリト謂ハサルヘカラス若シ議會ニシテ法人体ノ資格チ有シ以テ權利義務ノ主体ヲラシメ或ハ契約合意チ爲スチ得ヘキナリ然レトモ議會ハ政務ノ機關ニシテ自治体ニ非ス又縱令ヒ之ヲ以テ自治体ト爲スモ自己ノ權利義務ヲ執行スル場合ニ於テ初メテ他人ト契

約又ハ合意ノ行爲ヲ爲シ得ルノミ政府ノ法律ニ從テ其命令ヲ執行スル場合ニ在テハ自己ノ權利ヲ使用スルモノニ非ラサルカ故ニ國家ノ機關タル資格ニ於テ事ヲ執リ得ヘキモ國家ト契約スルカ如キハ決シテ爲シ得ヘカラサルナリ抑モ議會ノ法律案ヲ議スルハ憲法ノ命スル所ニ從ヒ國家ノ機關タル資格チ以テ其命令ヲ執行スルモノナリサレハ協賛ハ自己ノ權利ヲ執行スル爲メノ合意ニ非ルコト自カラ明ナルヘシ

帝國憲法ノ明文ニハ協賛ト承諾トチ區別セリ之ニ反シ獨逸等ノ憲法ニ於テハ協賛ニマレ承諾ニマレ其歸スル所同一ノ價值ヲ法律上ニ有セリ何トナレハ其事柄ノ法律規則タリ行政處分タルチ間ハス苟モ議會ノ議決ヲ經タルトキハ皆之ヲ法律ト稱ス可ケレハナリ我カ憲法上ノ承諾トハ共ニ行政官府ニ於テ効力アル命令又ハ處分チ爲シタル後ニ至リ其命令又ハ處分ノ効力チ増サンカ爲メニ議會ノ議決ヲ經ル場合ニノミ專用セラル、モノナリ例令ハ第八條ノ緊急命令ハ議會ニ於テ之ヲ承諾スルモ直ニ法律ト爲ラスシテ法律ト同一ノ効力チ有スル勅令ト爲ルモノナルカ如シ

各國憲法ヲ案スルニ立法權ノ材料ヲ明文上ニ列記シタルモノアリ例令ハ填國憲法ノ如キ其一例ナリ然レトモ我カ憲法ハ此原則ニ則ラスシテ其如何ナル事柄カ果シテ法律案ト爲シ議會ニ附ス可キヤハ一ニ政府又ハ議院ノ意見ニ任シ豫メ憲法ノ明文ニ規定セス故ニ立法權ノ範圍内ニ屬スルハ何等ノ事項ニアル乎ハ法律ヲ以テ判斷シ得ヘカラサルナリ今ヤ此明文ヲ離レ一般法理上ノ原則ニ訴ヘ註解ヲ下ストキハ一個人ノ權利義務ヲ規定スルノ法ハ國會ノ協贊ヲ經テ法律トシ發布スヘシト云フヲ以テ通論トス但シ行政官ノ處分ニ於テ一個人ノ權利義務ヲ規定スル場合頗ル多キカ故ニ此ノ原則ハ未タ以テ實際上立法ノ材料ヲ定ムルノ標準トナリ得サルモノトス

第三十八條 兩議院政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及ヒ各法律案ヲ提出スルコトヲ得

律案ヲ提出スルコトヲ得

本條ノ規定ハ議院ニ法律案提出ノ權アルヲ指示スルモノトス而シテ法律案トハ議院ニ附スル處ノ法律ノ草稿ヲ指スニ非スシテ議院ニ於テ之ヲ法律案トシ議決ヲ採ルヘシト決議シタル場合ニ於テ初メテ法律案ト爲ルモノトス一言以テ之ヲ

蔽ヘハ法律案ヲ起草スルハ此條ノ規定スル處ニアラス其之ヲ起草スルカ如キハ一個人モ尙ホ爲シ得ルモノナリ只法律案ヲ提出スルコトニ至テハ議院又ハ政府ノ特權ナリトス凡ソ立法ノ手續キハ三種ノ階級ヲ經テ裁可セラル、ニ至ル即チ第一ニハ茲ニ一ノ草案アリテ議院ニ提出シ之ヲ以テ法律案ト爲スヤ否ヤノ議決ヲ取リ次ニ一度法律案トナリタル後始テ正當ノ會議ニ着手スルモノナリ是ヲ以テ俗ニ所謂法律案ナルモ之ヲ議院法ノ眼ヨリ見ルトキハ未タ法律案トナルヲ得スシテ廢棄ニ屬スルモノ少カラス法律案ヲ提出スルハ貴族院又ハ衆議院ノ中其何レニ於テスルモ素ヨリ自由ナリトス但シ同一ノ法律案ヲ同時ニ兩院ニ提出シテ議決ヲ許スヤ否ヤニ至テハ憲法規定ノ及ハサル處ナリ故ニ或ル學者ハ說ヲ爲シテ曰ク凡テ法律ノ禁セサル處ハ之ヲ爲スモ固ヨリ妨ケナキモノナレハ兩議院ヲシテ同議案ヲ同時ニ議セシムヲ得ト唱導スルモノアリサレトモ議院法ノ暗ニ規定スル處ハ之ヲ禁スルノ精神ナリ只明文ナキカ故ニ其精神ヲ明ニスルヲ得サルノミ

第十一回

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中

ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

本條ノ原則ハ專ハラ便宜ニ出ツルノミナラス議院カ法律案ヲ協賛スルハ兩議院ニ於テ合同一致シタル場合ニ依リ之ヲ協賛ト稱スルノ精神ニ基クモノトス凡ソ法律案ノ廢棄セラル、場合ハ兩議院ノ一ニ於テ否決セラルカ又ハ裁可ヲ得サルノ時ニアリ而シテ其同會期中ニ再ヒ提出シ得スト規定シタルハ苟モ會期ヲ更改セハ再提出ヲ許スノ精神ニシテ又其會期ハ敢テ常會臨時會ノ區別ヲ問ハサルナリ且ツ又其果シテ同法律案タルヤ否ヤノ疑問ハ素ヨリ議會ノ衆議ニ依リテ決定セラル可キモノナリ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付キ各其意見ヲ政

府ニ建議スルコトヲ得但シ其採納ヲ得サルモノハ同會期中

ニ再ヒ建議スルヲ得ス

本條ノ規定ハ前條ト同一原則ニ依據セルモノナリ抑モ建議トハ意見ノ所在ヲ陳

フルニ止マリシ政府ノ裁可ヲ要スルモノニアラス故ニ建議ニ付テ之ヲ採納スルト否トハ素ヨリ政府ノ意内ニアルノミナラス又別ニ通知スルノ義務ヲモ有セサルナリ

建議ヲ爲スハ如何ナル事柄ト雖モ豫メ憲法又ハ法律ニ制限ヲ爲ササレトモ實例ヲ照考スレハ議會自身カ法律案ヲ起草スルノ代リニ政府ニ向テ法律案ノ提出ヲ假スノ場合最モ許多ナリトス尙ホ又一般ノ行政及ヒ司法ノ事務ニ立チ入り建議ヲ爲スハ勿論議會ニ於テ充分ノ自由ヲ有スルモノナリ只政府ニ於テ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ再ヒ提出スルヲ得サルノミ

第四十一條 帝國議會ハ每年之ヲ召集ス

茲ニ毎年ト言フハ固トヨリ常會ヲ指スノ語ナリトス非常ノ場合ニアリテ非常ノ召集ヲ爲スハ勿論本條ノ規定スル處ニアラサルナリ或者ハ此條ヲ解シテ曰ク如何ナル場合ト雖モ常會ハ每歲少クトモ一回之ヲ召集セサルヘカラスト是蓋シ法律ノ精神ヲ誤マルモノナリ何トナレハ國家非常ノ場合ニ在テ國會ヲ召集スル能サルトキハ之ヲ召集セサルハ天皇ノ大權ニ屬スル所ナレハナリ然ルニ歐洲ノ學

者カ毎歲召集ヲ以テ憲法ノ必要條件ト認メタル理由ハ豫算表ノ規定ニアリ即チ豫算表ハ毎年國會ノ議決ヲ得ルヲ必要トシ若シ此ノ表ニシテ成立セサルトキハ政府ハ金錢ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス故ニ政府ハ毎年國會ヲ開クノ必要ヲ見ルト云フニアリサレトモ我帝國憲法ニ於テハ少シク法理ヲ異ニス即チ豫算ハ毎年之ヲ議決スルヲ以テ憲法上ノ通則ト爲スト雖モ憲法ハ亦非常ノ場合ヲ規定シ若シモ豫算ノ成立セサル時ハ政府ハ前年度ノ豫算ニ依テ財産ヲ整理スト是ヲ以テ我國ニ於テハタトヒ國會ヲ召集セラレサルコトアルモ政府ハ決シテ金錢ノ出納ヲ爲シ得ストノ理由ヲ生スルコトナシ

第四拾二條 帝國議會ハ三ヶ月ヲ以テ會期トス必要アル場合

ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルベシ
會期ハ三ヶ月ヲ以テ法律上ノ期限トス而シテ之ヲ延長スルハ專ハラ勅命ニ依ルトハ是本條ノ規定ナリサレトモ外國ノ憲法ニ於テハ法律ニ依リ始メテ會期ヲ延長短縮スルヲ得普魯士ノ憲法ノ如キハ則チ其實例ナリ然ルニ我憲法ハ單ニ勅命ヲ以テストアリテ別ニ條件ヲ説明セス故ニ國會ノ意ニ反スルモ尙ホ能ク勅命ヲ

以テ會期ヲ延長シ得ヘシ又其會期ヲ短縮スルニ就キ外國憲法ハ法律ヲ以テ之ヲ爲シ得可キモ我憲法ハ絶對的ニ三ヶ月ト規定スルヲ以テタトヒ政府及ヒ議院ハ不必要ナリト認ムルモ尙ホ三ヶ月ノ會期ヲ縮メテ解散スルヲ得サルナリ
國會ノ會期ハ一會期ヲ以テ事務ヲ終結スルヲ原則トス故ニ次ノ會期ハ決シテ前會ノ事務ヲ追フテ之ヲ引續クモノニアラサルナリ是即チ國會ト行政官廳ト其規定ヲ異ニスルノ要點ニシテ行政官廳ハ永續ノ性質ヲ有シ國會ハ一旦其會期ニ於テ提議スルモ未ダ議決セサルノ事柄ハ會期ノ終結ト共ニ斷絶シテ其次會ニ其効力ヲ及ホスモノニアラサルナリ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テハ常會ノ外臨時

會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

國家ノ集會ニ臨時會ト常會トノ區別アリ歐洲各國ノ憲法ヲ按スルニ常會トハ每年何月ニ開クト云フノ明文ヲ記載セリサレトモ我憲法ハ單ニ常會ト言ヒテ別ニ其定義ヲ下サス故ニ年内兩度ノ國會ヲ開ク時ハ其何レヲ以テ常會ト名ク可キヤ

ハ憲法ノ明文ヲ見ス或ハ豫算表議決ノ國會ヲ以テ常會ト名ツクヘシトノ見解アリト雖モ是一ニ實例ニ依リシ推測論ニシテ法理上必シモ之ヲ常會ト呼フノ必要ヲ見ス故ニ本條ハ未タ以テ常會ト臨時會トノ區別ヲ知ル能ハス只國會ヲ召集スルノ勅命ニ於テ常會ヲ召集スルトノ命令アリテ始メテ常會タルヲ得ヘキノミ臨時會ノ會期ハ勅命ニ依リテ定ムルハ蓋シ臨時ノ必要如何ニ依テ之ヲ伸縮スルノ便宜ニ出ツルナリ但シ前條ニ於テ一般ニ例會ハ三ヶ月ヲ以テ會期トスト規定シ次條ニ至リ臨時會ニ取除キ爲スカ如キハ文面上甚タ註解ニ苦ム所ナリ蓋シ前條ニ國會ト指シタルハ立法者ノ意中ニ在テハ國會ノ常會ヲ意味スルモノナリ

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フベシ

衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ貴族院ハ同時ニ停會セラル

ヘシ

開會トハ召集ヲ待テ始メテ國會ノ成立シタル時期ヲ指スモノナリ國會ヲ開クト云ヘハ既ニ備ハリタル國會ヲ呼ビ起スガ如ク奇異ノ感覺ヲ與フト雖モ法律上ノ

期限ハ開會ヲ以テ始メテ國會ノ成立ヲ認ムルモノナリ

閉會トハ開會ノ反對ニシテ國會ノ消滅スル時期ヲ指スモノトス閉會ヨリ次回ノ開會マテハ管ニ各議員カ其職務ヲ行ハサルノミナラス國會ハ全然成立セサルナリ是レ行政官廳ト國會ノ法律上資格ノ異點ナリ即チ國會ハ斷絶主義ノモノニシテ職務ヲ行ハサル時ニ於テ其成立ヲ見サルナリ

停會ハ國會ノ存立シナカラ一時職務ヲ停止スルノ場合ヲ云フ之ニ反シ行政官府ニアリテハ其事ヲ執行スルト否トチ問ハス苟モ法令ヲ以テ之ヲ廢止セサル限リハ其成立ヲ完クシ其職權ノ主權タル性質ヲ失ハサルナリ

解散トハ議員ノ資格ヲ解クヲ云フナリ普通ノ言語ヲ以テ國會ヲ解散スト云フハ法理上ノ見解ニアラスシテ國會議員ヲ解散スルノ謂ナリ即チ解散ハ各議員各箇ニ對スルノ處分ナリ之ニ反シテ開會閉會及ヒ停會ハ國會ニ對スルノ處分ナリ然リ而シテ貴族院ハ撰舉ニヨリ成立タサルモノナルヲ以テ議員ノ資格ヲ解ガズ只停會スルニ止マルノミ何トナレハ國會ハ二局併立シテ相集合スル場合ノ外ハ一局獨立シテ何等ノ職務ヲ有セサルモノナルカ故ナリ

第四拾五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ撰出セシメ解散ノ日ヨリ五ヶ月以内ニ之ヲ召集スヘシ

衆議院ヲ解散シタルトキハ新ニ議員ヲ撰ヒテ衆議院ノミチ召集スルカ如ク聞ユルモ素ヨリ國會ヲ召集スルノ意味タルハ事實上判然ナリトス已ニ述フル如ク議員ノ資格ヲ解クヲ解散ト稱スルノミニシテ其再撰擧ノ如キハ則チ解散ノ結果ナリトス而シテ其解散ノ目的タル議院ニ於テ政府ノ議案ヲ否決シ又ハ憲法ノ規定ニ違反セルノ場合ニ於ケル國家臨時ノ處分ナリト謂フヘシ
抑モ議員ノ任期ハ法律上一定セルニ拘ハラズ其任期ノ終結セサル以前ニ於テ之ヲ解散スルカ如キハ則チ議員ノ資格ヲ剝奪スルモノナリ勅命ヲ以テ法律ノ規定ヲ左右スルモノナリ故ニ事ノ最モ重大ナル場合ニ非ラスノハ適用セラレサルハ勿論ナリトス

第十二回

第四十六條 各議院各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非

サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

總議員三分ノ一トハ撰擧法上ニ規定セル議員ノ總數ヲ指シタルモノナリ故ニ總議員三分ノ一以上出席セサルトキハ決シテ其職權ヲ執行スルヲ得ス即チ議院ノ成立ヲ認めサルナリ既ニ議院ノ成立ナク議事ヲ開キ得サル以上ハ議決ヲ爲シ得サルハ亦勿論ノコト、謂ハサルヲ得ス是ヲ以テ本條別ニ議決ノ如何ヲ明言スルヲ要セスシテ其理自カラ明カナリ即チ單ニ議員三分ノ一以上出席セサレハ議院ハ成立セストノ原則ヲ以テ法律ノ解釋ニ充分ナリトス
議事ヲ開クコトヲ得ストハ議院ノ効力アル議事ヲ開キ得サルノ意義ニシテ議院内部ノ協議ヲ爲ス如キハ必スシモ此制限ニ拘束スルヲ要セス畢竟議事ヲ開クコトヲ得ストスルハ議院ノ職權ヲ行フヲ得サルノ意義ニ外ナラサルナリ

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議休ノ議決ハ過半数ノ意見ヲ以テ其議事ヲ決定スルハ國會及ヒ其他ノ會議休ニ共通セル規則ナリ而シテ其過半数ト云ヘルハ總議員ノ過半数ニアラスシテ出

席議員ノ過半数ナリ何トナレハ議事ハ既ニ總議員三分ノ一ヲ以テ開キ得ヘキハ前條ノ明言スル所ナレハナリ
可否同數ナルトキハ可決ト見做ストハ往々歐洲各國ニ行ハル、ノ原則ナリトスサレトモ我カ憲法ハ此原則ヲ採用セスシテ若シ可否同數ナルニ於テハ特ニ議長ノ意見ニ重キヲ置キタルモノナリ然リ而シテ茲ニ疑問ノ生スルハ議長カ議事ニ對シテ意見ヲ述ヘ以テ議決ノ數ニ加入スルハ只可否同數ノ場合ニ限り其他ノ場合ニアリテハ議場ノ整理ヲ爲スノミニ止マリ別ニ議決ノ數ニ加入セスト解スルモノアルコト是ナリ是蓋シ我邦從來會議体ノ習慣上ヨリ見解ヲ下シタルニ外ナラス然リト雖モ憲法及ヒ議院法ニ於テハ議長ノ議決ニ加入スルヲ禁セサルノミナラス議長ト雖モ亦議員タルノ資格ヲ喪失セスシテ議長ノ職權ヲ兼ヌル場合アルニ至リテハ素ヨリ可否ノ數ニ加入ス可キモノナリ但シ議長ノ未タ撰定セラレサル場合ナルカ或ハ書記官長カ議長ノ職務ヲ執行スルノ場合ニ在テハ議長ハ即チ議院外ノ人ナルヲ以テ其表決ノ數ニ入ラサル取テ論ヲ俟タサルナリ夫レ然リ然リト雖モ本條ノ規定ハ專ハラ尋常ノ法律案ヲ議スルノ場合ニ適用セラル、モ

ノニシテ特ニ法律ヲ以テ取除ヲ爲スコト無キニアラス例ヘハ某議案ニ對シテハ三分ノ二以上ノ可決ヲ以テ議院ノ議決ト見做シ或ハ委員會ノ議決ニ於テハ亦他ノ方法ヲ設クルカ如キ即チ是ナリ

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

會議ヲ公開スルハ法律上其事ニ關シテ職權ヲ有セサル者モ亦之ヲ傍聽シ且ツ其議事ヲ職掌以外ノ人ニ報告スルヲ禁遏セサルノ謂ヒニシテ裁判ノ公開ト恰モ其理由ヲ同フルモノナリ而シテ其公開スト云フハ禁遏セサルノ意義ニシテ議事ハ公開スルノ原則アレハトテ國會ハ何人ヲ問ハス傍聽ヲ請フモノニ對シ之ヲ許可ス可キノ義務ヲ有セサルモノナリトス玆ニ極端ノ例ヲ舉クレハ傍聽人ヲ非常ノ少數ニ制限シ又ハ傍聽ヲ許スノ手續ヲ極メテ鄭重ニシ又ハ傍聽人ニ各種ノ制限ヲ附加スルコトノ如キハダトヒ法律ノ神髓ニ伴ハスト雖モ敢テ明文ニ抵觸スルモノニアラス世間說ヲ爲シテ曰ク憲法ハ既ニ議事ヲ公開スト明言スル以上ハ各人ハ隨意ニ議院ニ入り傍聽シ得ルモノト解スルハ明文ノ指示スル所ニアラサル

ナリ
 秘密會トハ職務上之ニ關係ナ有スルモノニ限り其以外ハモノハ出席ヲ禁スルナ
 云フモノニシテ單ニ國會議員ノミ議事ヲ開クノ意義ニアラサルナリ故ニ秘密會
 ト雖モ國務大臣及ヒ其代理者ハ職務上ニ於テ之ニ出席スルコトヲ得ヘシ若シ之
 ナ拒絶スルトキハ法文ノ所謂秘密會ト認ムルモノニアラスシテ法律外ノ制限ヲ
 設クルモノナリ然リ而シテ其秘密會ハ政府ノ要求ニ出テタル場合ニ於テハ議會
 ハ敢テ之ヲ拒絶スルヲ得ス之ニ反シテ議會ニ於テ秘密會ト爲スヘシト議決シタ
 ルニ於テハ政府ハ亦之ヲ公開セシムル能ハス是故ニ相方共ニ發議ノ權ノミアリ
 テ之ヲ可否スルノ權利ヲ有セサルモノナリ

第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得

本條上奏ノコトヲ稱シテ議院權利ノ一種ト見做スノ說ナキニアラス然レトモ上
 奏ノ事柄ハ政治上甚々重大ナル事柄タルニ拘ハラス法理上ヨリ之ヲ論スレハ特
 ニ明條ヲ待タズシテ爲シ得ヘキモノナリ且ツ此ノ條ノ存在スルカ爲ニ決シテ議
 會ノ權力ヲ増加シタルモノニアラス若シ論者ノ如ク之ヲ議會ノ權利ト見做スニ

至テハ天皇ハ之カ爲メニ上奏ヲ開クノ義務アリト論決セサルヲ得サルニ至ルヘ
 シ是故ニ上奏ハ決シテ議會ノ權利ニアラスシテ上奏ヲ受クルト否トハ素ヨリ天
 皇ノ自由ニシテ毫モ本條ノ爲メニ拘束セラル、モノニアラサルナリ是ニ於テ之
 ナ觀レハ上奏ノ權利ト稱スルノ說ハ實ニ法理ニ適セサルヲ知ルヘキナリ

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ提出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

議會ノ職權ハ專ハラ法律案ヲ議スルニ止マリ直接ニ臣民ニ對シテ權利義務ノ關
 係ヲ有シ得サルヲ以テ原則トナス只請願書ヲ受クルニ就テハ特ニ此ノ明文ヲ揭
 ケテ例外ヲ示シタルモノナリ故ニ臣民ヲシテ直接ニ議院ニ關係ヲ有セシムルハ
 單ニ請願ノ一事アルノミ抑モ請願トハ法律上極メテ効力ノ薄弱ナルモノニシテ
 此ノ條文ハ亦以テ臣民ニ特別ノ權利ヲ附與セリト見做スヲ得ス法理上ノ見解ヲ
 以テスレハ請願書ヲ呈スルカ如キハ何人ニモ爲シ得ヘシシテ之ヲ受クルモ亦行
 政官ト司法官トナ問ハサルナリ之ヲ要スルニ請願書ハ恰モ普通ノ信書ニ異ナラ
 スシテ今日既ニ信書ヲ往復スルノ自由アル以上ハ特更法律ヲ以テ規定セスト雖

モ請願ノ自由アルト言ハサルヲ得サルナリ
 請願ト訴願トハ宜シク混同スヘカラス彼ノ市町村制ニ訴願ト云ヒ又從來ノ請願
 規則ニ請願ト稱シタルモノハ一個人ノ權利ニ關係スル事柄ニ就テ行政官ノ裁決
 ヲ請求シタルモノナリ苟モ行政官ニシテ之ヲ受理シタル以上ハ必ズ裁決ヲ與フ
 ルノ義務ヲ有スルナリ然レトモ本條ニ所謂請願書ナルモノハ裁決ヲ與フルノ義
 務ナキモノトス故ニ法律上無効ナルモノニシテ從來建白ト稱スルモノト其名ヲ
 異ニシテ其實ヲ同ラスルモノナリ

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及ヒ議院法ニ掲クルモノ、外

内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

此ノ條文ヲ設ケタルノ理由ハ外國ニ專ハラ行ハル、議會体ハ自ラ内部ヲ整理ス
 ルノ權利ヲ有ストノ原則ニ基クモノナリ抑モ憲法及ヒ議院法ハ其本体ヲ規定シ
 タルモノニシテ其他内部ノ規則ハ議院各自カラ之ヲ設定シ得ルモノナリ故ニ貴
 族院ト衆議院トニ於テ其規則ノ相牴牾スルコトアリトモ之ヲ妨ケス且ツ外部ニ
 對シテ其効力未ダ有セサルモノナリ

例令ハ法律案ノ議決ヲ爲スニ當リ議院法ニ背反スル手續ニ依テ議決セラレタル
 場合ニ在テハ之ヲ違法ノ議決ト見做シテ議院外部ヨリ其議決ノ効力ヲ論争シ得
 ヘキナリ何トナレハ議院法ハ單ニ議員ノ申合規則ニアラスシテ内外共ニ遵奉ス
 ヘキノ法律ナレハナリ之ニ反シテ議院規則ニ反シテ議決シタルニ於テハ議院内
 部ニ在テハ其議決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ尙ホ外部ヨリモ之ヲ
 標準トシテ議決ノ効力ヲ争フコトヲ得サルモノトス

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ

表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議院自カラ其ノ
 言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタル時ハ
 一般ノ法律ニ依リ處分セララルヘシ

此ノ條ノ基ク所ハ蓋シ主トシテ議員言論ノ自由ヲラシムコトヲ保維センカ爲ナリ
 カレトモ其目的ハ專ハラ政治上ノ便宜ニ屬シテ法律上ノ解釋ハ少シモ之ヲ問フ
 所ニアラサルナリ今法理上ヨリ論下セント欲セハ須ラツ議院ノ職權ト裁判所ノ
 職權トノ關係ヲ明別スルヲ以テ必要トセサルヲ得ズ先ツ之ヲ歐洲ノ實例ニ照考

スルニ議院内部ニ於テ刑法又ハ警察法ヲ犯スノ言論ヲ發シタル時ニ於テハ議院自身ニ警察權ヲ握有シテ決シテ之ニ裁判所ノ干涉ヲ許容セサルナリ即チ我カ憲法ノ規定モ亦此ノ主義ニ依リタルモノトス然レトモ或ル場合ニ於テ議院ハ裁判所ニ告發シ以テ其刑ノ適用ヲ請求スルコトアリ唯我カ議院法ハ此ノ取除ヲ爲サ、ルカ故ニ刑罰ノ宣告モ亦皆議院内部ノ事柄ニ屬スルノ結果ヲ來タスモノナリ又我カ憲法ノ規定ニ從フ時ハ議院内ニ於テ故障ナキノ言論ト雖モ議員自カラ院外ニ發表セハ普通刑法ヲ以テ其罪ニ問ハルヘシ之ニ反シ外國ノ法律ニ於テハタトヒ之ヲ外部ニ波及スルモ其議員ノ發表シタル言論ニシテ尙モ議會ニ於テ吐露シタル言論ト同一ナルトキハ尙ホ其責任ナキモノトセリ茲ニ注意スヘキハ我カ憲法ニ於ケルモノ委員自カラ公布スルノ一條件アルヲ以テ他人ノ所爲ニ係ルトキハ議員其責ナキコト是ナリ

議員ノ言論ヲ制限スルノ規定ハ内部ノ規則ニ依ルモノトス而シテ其懲戒ノ權利モ亦議院ノ決議ニ依リ議長之ヲ執行スルモノナリ

第十三回

第五十四條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪

ヲ除ク外會期中其院ノ許諾ヲクシテ逮捕セラル、コトナシ

本條ハ專ラ議員ノ獨立ヲ保タンカ爲メニ設ケタルモノナリ此規定ハ歐洲各國殆ント普通ニ認メラレタルモノニシテ其來歴ヲ正ストキハ寧ロ歐羅巴ノ立憲政體國ノ國會ノ性質ニ伴ヒタルナリ而シテ我邦ニ此條ヲ採用シタル所以ハ專ラ便宜上ヨリ來リタルモノニシテ外國ノ憲法ニ此條アルトハ少シク其趣ヲ異ニス歐洲ノ共和國又ハ立憲政體國ニ於テハ三權ノ分立ヲ原則トシテ國家ノ組織ヲ成セリ故ニ立法權ハ司法權ニ分立サレ互ニ同等ノ地位ニ在ルカ故ニ司法權ノ爲メニ立法權ヲ犯サレサルコトヲ必要トス故ニ旋テ其立法權ノ作用ヲ司トル國會議員ニモ及ホシ國會議員ハ立法ノ職ニ在ルカ故ニ司法權ノ爲メニ直接ニ逮捕セラル、コトアルヘカラストノ原則ヲ用ヒタリ我國體ニ於テハ三權分立ヲ認メスシテ主權ハ主權者ノ手ニ統一セリ故ニ司法權ヲ以テ立法權ヲ犯スコトヲ得ストノ原則ハ此場合ニ適用シ得ヘカラサルモノナリ何トナレハ立法權ト云フモ司法權ト云フモ共ニ唯一ノ主權者ノ左右ノ手ニシテ憲法ニ此條ヲ設ケタルモノハ全ク便宜

上ノ問題ヨリ爲シタルモノニテ法理ニ於テ司法權ト立法權トノ分離シテ獨立シタルコトヲ認メタルモノニ非ス。議院ハ主權者ノ委託ヲ以テ立法ノコトヲ司トル役所ナリ而シテ國會議員ノ監督ハ其議長ノ懲戒ノ職權内ニ在リ故ニ若シ國會議員ニシテ刑法ニ觸ル、ノ行爲アルニ於テハ議長ノ手ヲ經テ即チ國會ノ許諾ヲ經テ之ヲ逮捕スルノ手續ヲ必要トス直接ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得ス其理由ハ立法者ノ神聖ナル故ニ非スシテ主權ノ職務ヲ行フ身分ナルカ故ナリ是レ必スシモ國會議員ニ特別ノコトニ非スシテ行政官ニ對シテモ實際上或ハ法律ノ明文上ニ於テ之ト同一ノ規定アルコト勘カラサルナリ例ヘハ裁判所ノ判事ヲ拘引セントスルトキハ其裁判所長ノ許諾ヲ得サルヘカラサルカ如キ又ハ職務ヲ執レル行政官ヲ逮捕スルトキハ其所屬長官ノ許諾ヲ得サル可テサルカ如キ又ハ現ニ我邦ニ行ハル、如ク華族ヲ拘引セントスルトキハ宮内省ノ伺ヲ經ルコトヲ要スルカ如キ各便宜ニヨリテ此規定ヲ設ケタルモノニシテ必スシモ之ヲ以テ三權分立ノ結果ト見做スコトヲ得ス。本條ノ規定スル所ハ國會議員ノ刑法ノ制裁ヲ受ケサル特權ヲ有スト云フニ非ス。

シテ唯逮捕ノ手續ニ於テ平人ノ取扱ト異ナルコトヲ定メタルニ止マルモノトス故ニ逮捕セラレタル後ニ於テ刑法ノ制裁ヲ受クルコトハ總テ他ノ者ト異ナルコトナシ現行犯及ヒ内乱外患ニ係ル罪ニ對シテハ此手續ヲ履ムコトヲ必要ト爲サスシテ直接ニ拘引シ得ルナリ而シテ以上ノ規定ハ國會開會ノ場合ニ止マルヲ以テ見ルモ議員ノ資格ト伴フノ特權ニ非スシテ議事ノ保護ノ爲ニ設ケラレタルコト明ナリ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

本條ハ國務大臣及政府委員ハ國會ノ議事ニ參與スルノ自由アルコトヲ認メタルモノナリ外國ノ憲法ニ於テハ多ク國會ニ出席スルコトヲ以テ國務大臣ノ義務ト認メ國會ノ請求アルトキハ必ス出席シ辨明スルノ責ニ任スト書シタルモノ往々ニシテ之アリ我憲法ニ於テハ同一ノ事項ヲ政府ノ方側ヨリ規定シ大臣及委員ハ政府ノ命ニ因テ出席シ及發言シ得ルコトノ自由ヲ與フ外國ニ在テハ國會ノ權利ナリ我國ニ在テハ政府ノ自由ナリ故ニ此條ニ由リ國會ハ大臣及委員ノ出席ヲ

請フコトヲ得ルモ之ヲ命スルコトヲ得ス若シ出席ヲ拒ミタルニ於テハ國會ハ之ヲ強スルノ權ヲ有セズ之ニ反シ大臣及委員ノ出席發言ヲ請求シタルトキニ在テハ國會ハ之ヲ拒ムヲ得ス

國務大臣及樞密顧問

第四章 國務大臣及樞密顧問

國務大臣ノ職掌ハ憲法上ノ職掌ト行政上ノ職掌トハ二様ニ分ルレトモ樞密顧問ノ職掌ハ專ハラ憲法上ノコトニ止マレリ而シテ茲ニ規定スル所ハ大臣ノ憲法上ノ職掌ニ止マリ行政法上ノ職掌ニ及ハス故ニ此章ヲ以テ大臣ノ責任及職掌ヲ論スルハ全ク之ヲ盡サ、ルモノナリ

憲法上ノ職掌トハ天皇ノ大權ノ作用ニ參與スルノ職掌ヲ云フ行政法上ノ職掌トハ法律勅令ノ執行ヲ掌リ其範圍内ニ於テ臣民ニ對シテ處分スルノ職掌ヲ云フ

第五十五條 國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス凡テ法律勅令其他ノ國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

國務大臣ノ憲法上ノ職掌ハ此一條ニ定ムル所ニ止マリ天皇ノ大權ハ天皇全然ノ權力ヲ以テ其効力ヲ生セシムルモノニシテ大臣ノ之ニ參與スルハ外部ニ對シテ

効力アルノ要件ニ非ス故ニ天皇ヲ輔弼シト書シテ天皇ト共ニト云フ意味ニ書セサル所以ナリ而シテ其責ニ任スルモノハ輔弼ノ責ニ任スルモノニシテ天皇ヲ命スル輔弼ノ職ニ對シテ其委託者タル天皇ニ對シテ其責ニ任スルモノナリ
法律勅令及國事ニ關スル所ノ命令ハ大臣ノ副署ヲ必要トス大臣ノ副署ハ一人ノ大臣之ヲ爲スモ總テノ大臣之ヲ爲スモ其法律上ノ効力ハ皆同一ナリ
副署トハ法律命令ノ憲法ノ範圍内ニ於テ之レニ抵觸スルコトナクシテ遵奉スヘキモノタルコトヲ證明スル所ノ手續キニシテ決シテ法律命令ノ政署ニ對シテ之レカ可否ヲ爲スヘキ所ノ手續ニ非ス責任及副署ノコトニ關シテハ猶一言ノ説明ヲ要スルモノアリ
責任トハ權利義務ノ關係アリテ而シテ其義務ヲ果スヘキコトヲ云フ或學者ハ責任ヲ第二次ノ義務ト稱セリ蓋シ此意ニ外ナラザルナリ然ルトキハ責任ナル關係ハ權利義務ノ主体タルモノ即チ一個人又ハ法人ノ之ヲ有シ得ルモノナリ法人體ノ組織ニ由ラサル數人ノ聯合カ其義務ノ主体タルコトハ法理上説明シ能ハサル事柄ナリ然ルニ世上ニハ容易ニ内閣ノ連帶責任ナルコトヲ述フル者アリ元來連

帶責任トハ專ハラ民法上ニ用ヰル語ニシテ其適切ノ例ハ各個人相互ノ債權ノ場
 合ニ用ヒラル、モノナリ然レトモ本條ニ於テ規定スル所ノ責任ハ各大臣各別ニ
 其責ニ任スヘキコトヲ明ニシタルモノニシテ別ニ内閣ナル一ノ組合体ノ權利義
 務ノ主体ト爲ルコトヲ明言セサルナリ然ラハ内閣ハ責任ノ主体ニ非スシテ其責
 任者ハ即チ各大臣ナリ而シテ各大臣ノ責任ハ各人各別ニ有スルモノトハ
 副署ハ法律命令ノ法ニ適フタルコトヲ證明スルモノナリ所謂證明スルトハ主權
 者ノ諮詢ニ對シテ之ニ署名スルモノニシテ副署ノ有無ハ必スシモ法律命令ノ効
 力ヲ左右スルモノニ非ス副署ノ必要ナルハ手續キ一要件ニシテ法律命令ノ効
 力ノ生スルハ副署以前裁可ノ時ニ於テ全備ス一個人ニ對シテハ其副署ノ有無ヲ
 以テ命令ノ効力如何ヲ問フヘキモノニ非ス外國ノ憲法ニ依リ明文ヲ以テ副署ヲ
 要セサル天皇ノ命令ヲ認メタルモノアリ例ヘハ獨逸諸國ノ憲法ニ依ルニ天皇ノ
 海陸軍ヲ指揮シ又ハ臣民ニ榮典ヲ附與スルハ大臣ノ副署ヲ要セスシテ直接ニ之
 ヲ行フト規定シタルカ如シ我邦ノ憲法ハ此例外ヲ置カサルカ故ニ本條ノ文面ニ
 ヨルトキハ天皇ノ大權ノ作用ハ悉ク皆大臣ノ副署ヲ必要トスルナリ

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ

諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

樞密顧問ノ職掌ハ專ラ天皇大權ノ作用ニ付キ下問ニ應シ意見ヲ奉ツルニ止マル
 而シテ諮詢ナル事柄ハ政治上極メテ大切ナル事ナルニモ拘ハラス法理論ニ於テ
 ハ其効力極メテ薄キヲ以テ別ニ詳細ノ注解ヲ要セサルモノト信スルナリ
 憲法又ハ法律ニ於テ某ノ事柄ハ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ天皇之ヲ裁可スト云フカ
 如キ規定アリトスルモ樞密顧問ノ決議ニ於テ之ヲ可否シタル結果ハ果シテ如何
 ナル効力ヲ有スルヤト云フニ全ク何等ノ効力ナキモノトス樞密顧問ノ否決シタ
 ル事柄ニ對シテハ天皇ハ之ヲ裁可シ又ハ裁可セサルコトアリ一言以テ之ヲ蔽ヘ
 ハ諮詢ハ其決議ヲ以テ法律上ノ効力ヲ與フル一ノ要件タルコトヲ得サルモノナ
 リ
 樞密院ノ職掌ハ別ニ官制ヲ以テ定ムヘキモノニシテ憲法論ノ立入ルヘキ所ニ非
 ス憲法ニ於テ本條ノ規定アル所以ハ必竟樞密顧問ノ職掌ヲ法律ノ議案トシテ容
 易ニ變更セシメサルカ爲メニシテ憲法上ノ職掌アリテ茲ニ掲クル必要ヲ見タル

カ故ニ非ス唯憲法ノ明文ヲ以テ斯ル規定ヲ設ケタルカ故ニ樞密顧問ノ爲ス事柄
ハ我憲法ニテハ憲法上ノ職掌トナルナリ

第十四回

司法

第五章 司法

司法權トハ法律ノ解釋ニ依テ一定ノ事件ニ向テ効力アル判決ヲ下ス事柄ヲ云フ
司法權ニ重キヲ置キ故ラニ本章ヲ設ケタルモノハ專ハラ實際ノ必要ニ出タルモ
ノニシテ法理上ノ性質ニ於テハ行政官カ法律ノ範圍内ニ於テ處分スルコトモ裁
判官カ法律ノ適用ヲ掌ルコトモ其種類ニ於テ同一ナリ而シテ我邦ノ制度ニ於テ
司法權ヲ行政權ヨリ分離シテ法律直接ノ下ニ立タシメテ獨立ノ地位ヲ與ヘタル
コトハ全ク此憲法ヨリ始マレリ
歐洲ノ歴史ヲ考フルニ古昔ハ裁判ナルコト、神ニ事フルコト、ハ全ク同一ノ職
分ニシテ神明ニ問フテ判斷ヲ下シタルモノナリ降テ國民ノ集會ノ起リタル時代
ニ至リ裁判ノコトハ國王カ其集會ニ臨ミ自カラ之ヲ決スルヲ以テ原則ト爲スニ
至レリ故ニ行政ノ事柄ハ之ヲ他人ニ委託スルニモ拘ラス司法權ニ至テハ君主直

接ニ之ヲ掌ルモノトス此習慣ヨリシテ英國ニ於テハ今猶ホ裁判ハ君主ヨリ出ル
モノ、形跡ヲ守レリ然ルニ百年以來歐洲大陸ニ於テ君主專制ノ弊ヲ改メタル爲
メニ司法權獨立ノコトヲ唱道スルニ至レリ是レ實ニ古代ノ佛國ノ制度ニ依據シ
タルモノナリ即チ佛國ノ古キ制度ニ於テハ法廷ハ一ノ法人体ヲ爲シ法律適用ノ
コトハ法律家組合ノ專賣ノ如キ有様ニシテ「パアナメント」ト稱スルモノハ實ニ此
組合体ナリシ而シテ此權力ヲ維持セントスルノ考案ト君主專制ノ政ニ反對スル
考案ト相合シテ歷史上司法權ノ分立ナルコトヲ換起スルニ至リタルナリ
裁判公平ノ爲メニ司法權ノ獨立ヲ要ストハ後世ニ附會シタル理由ニシテ此佛國
ノ精神ハ近來大ニ歐洲各國ニ行ハレ學者ノ所説モ亦之ニ依テ擴張セラレ遂ニ司
法ナルモノヲ國家ノ政務中ニ於テ特ニ神聖ニシテ特ニ重要ナルモノト爲スニ至
レリ

然レトモ其歴史ヲ離レテ帝國憲法ヲ講スルトキハ司法權ノ獨立ナルコトハ全ク
論題外ニ置キテ本章ヲ解釋スルコトヲ必要トス何トナレハ我國ノ司法權ノ成立
ハ全ク歐洲ノ沿革ヲ襲フタルモノニアラスシテ裁判ノ正確ニシテ公平ナルコト

ヲ保持セシカ爲メニ行政官トノ規定ノ異ナル一點ヲ設ケタルニ過キサレハナリ

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ

行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

本條ノ原則トスル所ハ第一司法權ハ君主ヨリ出ツルモノナルコトヲ明ニシ第二ニ裁判所ハ法律ニ依リシテ其以外ノ勢力ノ爲メニ左右セラレサルコトヲ明ニシ第三ニ裁判所ノ組織ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ明ニシタルモノナリ

第一 司法權ハ其性質ニ於テ統治權ノ一ノ分派ナリ或人ノ解釋ノ如ク統治權ト司法權ヲ別種ト認メテ司法權ハ天皇ノ大權以外ニ在ルカ如ク見做スハ實ニ憲法ノ精神ニ戾ルノミナラス抑モ本條ノ明文ニ反對セルモノニテ要スルニ統治權ノ一部ノ作用ヲ名ケテ司法ト稱スルニ過キス天皇ノ名ニ於テ之ヲ行フトハ天皇ノ委托ヲ受ケテ裁判官之ヲ掌ルヲ云フトノ意義ニシテ天皇以外ノ權力ヲ天皇ノ名ヲ籍リテ之ヲ行フノ意味ニ非ス

司法權ハ法律ニ因テ生ス而シテ法律ハ天皇ノ命令ナリ然ラハ則チ此原則ノ精神

タル多辨ヲ要セスシテ明カナリ何カ故ニ憲法ニ於テ司法權ノミ天皇ノ名ニ於テ裁判所之ヲ行フコトヲ規定シタルヤト云フニ此規定ノ精神ハ明文ノ裏面ニ在リ統治權ノ他ノ部分ハ天皇ノ直接ノ命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得司法權ハ憲法上ノ要件トシテ裁判所ニ委托シテ行ハシムルコトヲ必要トシ天皇自カラ直接ニ之ヲ行フモノニ非ス本條ハ實ニ此主義ヲ明ニセンカ爲メニ設ケタル個條ナリ

第二 裁判所ハ法律ニ由テ同法權ヲ行フモノナリ法律ナル語ハ國會ノ協賛ヲ經タル主權者ノ命令ナル意義ニ外ナラス然ラハ法律外ノ命令ニ由テ裁判所ト下スノ義務ヲ負ハスシテ法律ト他ノ命令ト矛盾シ一方ニ適用スルトキハ他方ニ抵觸スルカ如キ場合ニハ裁判所ハ命令ヲ措キ法律ヲ適用スルモノトス

茲ニ誤解ヲ防クヘキ一點ハ「法律ニ依リ」ノ一句ノ解釋ニ在リ若シ之ヲ解シテ法律ノ明文ノミ適用スルモノト爲ストキハ誤レルノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス彼ノ一個人ノ權利義務ヲ定メ又ハ身体ノ自由ヲ束縛シ或ハ加罰等ノコトハ法律以外ノ諸命令ヲ以テ之ヲ爲ス場合多シ若シ其命令ニシテ法律ノ委托ニ出テ法律ノ發セシメタルモノナルトキハ裁判所ニ向テハ法律同一ノ効力ヲ有ス故ニ勅令及

省令等ハ裁判官之ヲ適用スルノ義務ナシトスルハ抑モ誤リタルノ見解ナリ
 裁判所トハ効力アル判決ヲ言渡シ得ル一定ノ官府ヲ指ス或ハ一個人ニシテ其職
 權ノ主体トナルコトアリ或ハ數人合シテ合議体ヲ爲シ其職權ノ主体トナルコト
 アリ而シテ玆ニ裁判所ト指スハ此二者ヲ併セ含ムモノナリ裁判所ト裁判官トヲ
 區別スルハ官制上事實上ノ區別ニシテ公法上ノ法理ニ於テハ裁判官ノ外ニ裁判
 所ヲ認メス故ニ裁判所トアルハ即チ裁判官ノコトナリトス
 第三 裁判所ノ構成ハ即チ裁判ノ職權ヲ定ムルモノナリ茲ニ裁判所ト指スハ專
 ラ民事刑事ノ裁判所ヲ云フモノニシテ他ノ特別裁判所ハ行政官府ノ構成ト等シ
 ヲ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得
 裁判所構成ヲ法理上ヨリ分析スルトキハ二様ノ事柄ヨリ成立スルモノニシテ即
 チ法律規則上一定ノ處分ノ二者ヨリ成立スルモノナリ裁判所ノ權限ヲ定ムルハ
 法規ナリ裁判官ヲ命シテ其職權ノ主体ヲラシムルハ統治權ニ基クノ處分ニ屬ス
 然レトモ本條ノ意味ハ裁判所構成ヲ狭キ意味ニ解シ職制ノコトノミニ限リタル
 ナリ故ニ裁判官ヲ任免スルハ裁判所構成ノ一手段トナラサルヲ以テ法律ヲ以テ

セスシテ勅令ヲ以テ爲シ得ルナリ精密ニ學術上ノ議論ヲ爲ストキハ構成ノ文字
 ニ付頗ル論議ノ生シ得ヘキモノトス

**第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ
 之ニ任ス**

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免
 セラル、コトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ裁判官ノ取扱ヲ指示シタル手續ニ過キス外國ノ公法ニ依ルトキハ此條項
 ハ必スシモ裁判官ニ限ラスシテ一定ノ文武官ニ適用スルモノナリ然ラハ則チ此
 事柄ヲ裁判官ニノミ限リタルモノト見做スハ其當ヲ得サルノ見解ニシテ法律又
 ハ勅令ヲ以テ之ト同様ナル規定ヲ一般ノ行政官ニ適用スルコトヲ得
 第一 裁判官ハ一定ノ要件ヲ具フルモノヲ任用シ其任用ノ要件ヲ定ムルハ法律
 ニ依ル但シ之ヲ任免スルハ法律ノ力ニ非スシテ主權直接ノ作用ニ依ル
 法律ヲ以テ裁判官ヲ任命スルノ例ハ外國ニ於テ往々其例アリテ歷史上ニ散見セ

リ法律ヲ以テトハ國會ノ協賛ヲ經テ其人ヲ任用スルノ意ナリ然ルニ我憲法ノ規定スル所ハ裁判官任命ノ事ハ全ク文武官任命ト同一ノ法理ニ基キタルモノニシテ公法上ノ契約ト名クルモノナリ

裁判官ノ其職ヲ免セラル、ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒處分ニ由ル懲戒ノ處分ハ裁判所ノ判決ヲ以テ之ヲ行フ故ニ一言ニテ云ハハ裁判官ハ法律ノ適用外ニ於テ其職ヲ免セラル、コトナシト解釋ス懲戒ト刑法ノ宣告トノ區別ハ全ク立法手續ニ於テ生スル所ノ差異ニシテ外面ニ對シテノ効力ハ二者共ニ同一ナリ而シテ懲戒處分ハ刑法ノ宣告ト同シク一個人ノ自由ヲ束ス

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ

風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議

ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

裁判ノ公開ハ憲法上ノ要件ニシテ之ヲ公開セザルトキハ特別ノ手續ヲ必要トス故ニ法律ニ於テハ公開スヘキ場合ヲ指定セシテ公開スルコトヲ得サル場合ヲ規定スルニ止マルナリ

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキト云ヘルハ全ク立法官ニ對シテノ訓令ニ過キスシテ憲法ハ本條ヲ以テ直ニ公開ヲ禁スル場合ヲ指示シタルニ非ス公開ヲ禁スヘキ場合ハ法律ノ明文ニ依リ然ラサレハ裁判官ノ決議ヲ以テ之ヲ爲スヲ得然レトモ判決ノ申渡ハ之ヲ公ニスルモノニテ公開ヲ禁スルトハ唯審判ノ手續ヲ公開セザルニ止マルノミ

公開ヲ禁スルトハ其事柄ニ關係スルモノ、ミチ參預セシメテ關係ナキモノヲ公廷ニ入レサルコトヲ意味スルモノナリ故ニ公開ヲ止ムル場合ト雖モ總テ審判ニ必要ナル人ヲ之ニ參預セシムルコトハ毫モ妨ケサル所ナリ

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以

テ之ヲ定ム

特別裁判所トハ司法裁判所ニ對シ他ノ裁判所ヲ指スモノナリ何カ故ニ特別裁判所ノ稱呼アリヤト云ヘハ從來ノ學說ニ於テ司法裁判所ノコトノミチ以テ裁判ト名ケタルノ跡ヲ襲フカ故ナリ然ラハ特別裁判所トハ裁判所構成法ニ指示セザル裁判所ナル意義ヲ有スルモノナリ即チ民事刑事ノ審判ヲ司タル裁判所ノ外ニ於

テ各種ノ裁判ヲ設クルコトヲ云フ而シテ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ必要トスルハ特別ノ名アリト雖モ等シク主權者ノ名ニ於テ法律適用ノコトヲ司トルモノナルカ故ニ民事刑事ノ裁判所ト同一ノ規定ヲ設ケタルモノナリ

本條ハ法律ヲ以テ裁判所ヲ設置スルト云フニ非スシテ特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件即チ司法裁判所ノ權限ヨリ拔キ去リテ之ヲ他ノ者ニ移スコトハ法律ヲ以テ之ヲ爲ストノ精神ナリ故ニ特別裁判所ノ性質ニ於テ行政官署ノ一部ナルトキハ法律ヲ以テセスシテ勅令ヲ以テ之ヲ構成スルヲ得ルナリ

第十五回

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

本條ハ普通裁判所ノ權限ヲ定メ暗ニ行政裁判ノ事柄ニ立入りタルモノニシテ本條ヲ以テ直ニ行政裁判所ヲ設ケ又ハ行政裁判所ノ權限ヲ定メタルモノト爲スハ

抑モ誤謬ノ解釋タルヲ免レヌ

普通裁判所ハ總テ法律ニ由テ其權限ニ屬スルコトヲ裁判ス然ラハ何故ニ行政官廳ヲ訴フルノ訴訟ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬セシメサルコトヲ茲ニ明言スルノ必要アリヤ曰ク是レ必竟裁判所ノ權限ヲ定ムル立法ノ手續ヲ指示シタルモノナリ例ハ民法ヲ以テ民事裁判ノ區域ヲ定ムルモノト見做スモ憲法ニ於テ本條ノ規定アルカ故ニ如何ニ民法ヲ改正スルトモ行政裁判ノ區域ニ屬スルモノハ之ヲ司法裁判ノ管轄ニ歸セシムルヲ得ス此取除ヲ確メンカ爲メニ故ラニ本條ヲ設ケタルナレ

行政裁判トハ行政權ノ作用ニ對シテ權利ノ毀損ヲ訴フルモノナリ行政裁判ノ必要ナル要件ハ行政處分ニ由テ權利ヲ毀損セラレタリトノ事實ノ確定セルニ在リ此事實ヲ確メル后茲ニ始メテ出訴權ノ發生スルモノナリ

行政官廳トハ總テ政府ヲ組織スル諸官府ヲ指スニ非スシテ法律及勅令ノ下ニ在テ一個人ニ對シテ處分スル官ヲ指スナリ故ニ立法ノ手續又ハ政府事項ト稱スル天皇ノ大權ニ依ルノ事柄ハ行政官廳ノ處分ニ非スシテ行政裁判ノ區域外ナリ

行政官ハ國務大臣ヲ以テ始マリ各段階ヲ經テ町村ノ吏員ニ至ルモノニシテ一定ノ權限ヲ以テ主權ヲ代表シ一個人ニ命令スルノ能力アルモノナリ然レトモ行政事務ニ立障ル者ハ必スシモ皆行政官ナルニ非ス處分權ヲ有スルモノニシテ始メテ行政官ト稱スルコトヲ得ルナリ

處分トハ法律規則ニ對スル言辭ニシテ一定ノ事實ヲ喚起ス行爲ナリ法規ハ未來ノ事柄ヲ豫想シテ行爲ノ標準ヲ定ムルモノナリ處分ハ其標準ニ由テ現在ニ一ノ現象ヲ作ルモノナリ故ニ行政官ノ處分トハ法令ヲ適用スル行政官ノ行爲ヲ指ス言辭ニシテ法令其物ヲ指スニ非ス是ヲ以テ行政官ノ發シタル命令又ハ規則ニ對シテハ出訴ノ權ヲ生セスシテ之ニ由テ處分シタル場合ニ於テ始メテ訴權ヲ生スルモノナリ

裁判官ノ判決ヲ下ス場合ニ於テモ一般ノ命令又ハ規則ニ對シテ判決セスシテ一定ノ人ニ對シ一定ノ事柄ヲ處分スル行爲ニ對シテノミ判決ヲ下スモノナリ故ニ裁判所ハ行政處分ヲ判決スルノ權力アリテ行政規則ヲ破毀スルノ權力ナキナリ

違法ノ處分トハ當ニ法律ニ矛盾スルモノノミナラス總テノ法規ニ違フタルモノヲ指スナリ而シテ行政官ナルモノハ法律ニ由テ箝策セラル、ノミナラス又凡テノ行政命令ニ箝策セラル、モノナリ故ニ行政裁判所ノ適用スル法理ハ法律ノ明文ニノミ止マラス凡テノ行政規則ニモ及ホスナリ何トナレハ行政官ハ主權ノ委託ヲ受ケ行政處分ヲ爲スモノナリ而シテ其委託ハ直接ニ法律ヲ以テセラル、コトアリ又政府ノ命令ヲ以テセラル、コトアリテ二様ノ區別アルナリ一個人ニ對シテハ法律ハ重クシテ政府ノ諸命令ハ其効力薄キモノナレトモ行政官ニ對シテハ二者ノ間其効力ニ輕重アルコトナシ即チ一個人ノ法律ニ對スルト行政官ノ法律ニ對スルノ地位ハ互ニ相異リタルモノナリ

權利ヲ傷害セラレタリトハ勿論自己ノ權利ニ關係スルコトヲ云フ我邦從來ノ制度ニ於テ凡テ行政官ノ越權ノ處分ニ對シテ訴訟ヲ許シタルモノハ蓋シ本條ノ主意ト撞着セルモノナリ行政官違法ノ行爲ヲ爲シタリト雖トモ權力ヲ越ヘタルコトアリト雖トモ一個人ハ自己ノ權利ニ關係ナキ以上ハ之ヲ訴フルヲ得ス若シ其出訴ヲ許ストキハ行政官ヲ監督スルノ權ハ一個人ニ在リテ政府ハ其監督權ノ一

部分ヲ割キテ之ヲ其臣民ニ附與スルニ均シ而シテ本條ノ規定ニ依レハ權利ノ毀損ヲ證明スルニ非レハ訴ヲ起スヲ得サルモ權利トハ法律ヲ以テ一個人ニ附與シタルモノヲ指示ス或ハ解釋ヲ誤リ權利ト自由トヲ混シ法律ノ禁セサル所ヲ以テ一個人ノ權利ト見做スノ說ハ固ヨリ余ノ採ラサル所ナリ詳言スレハ權利トハ法律カ其人ノ利益ノ爲メニ一定ノ保護ヲ與フル場合ニ於テ始メテ成立スルモノナリ違法ノ處分ニ由リテ自由ヲ妨ケタリト云ヒ又ハ利益幸福ノ妨害ヲ爲サレタリトテ悉ク皆出訴ノ權ヲ生スルモノニ非ス之ヲ名ケテ一個人ハ既得ノ權利アルコトヲ證明スルヲ要ストノ說アリ而シテ權利ハ總テ既得ノモノナル以上ハ故ラニ既得權ナル區別ヲ設クルノ必要ナシト雖トモ其見解ノ精神ニ於テハ正當ノモノナリ

行政裁判所ノ構成ハ我邦ニ於テ未タ其法律ノ制定ナキカ故ニ茲ニ之ヲ説明スルヲ得ス而シテ現今ノ手續ハ控訴院ヲシテ行政訴訟ヲ審判セシム外國ノ例ニ由ルニ行政裁判所ヲ行政部内ノ一ノ官府ト爲スモノ即チ佛國ノ如キ制度ト之ヲ獨立シテ司法裁判所及ヒ行政官ト並ヒ立テルモノト爲スノ制度即チ獨逸、壤地利ノ制

會計

度トノ區別アリ我憲法ノ規定ノ其何レニ在ルヤハ後來ノ法律ヲ待テ定マルモノトス

終リニ臨ミ一言附加スヘキハ市町村制ニ依ルノ行政裁判ナリ市町村制ノ裁判ハ必ス本條ニ依ラスシテ自己ノ權利ニ關係セス又行政官ノ處分ニ非ルコトニ對シテモ猶出訴ヲ許ス場合アリ然レトモ是等ハ法律ノ明文ヲ以テ指定シタル場合ニ止マリ法律ノ明文以外ニ於テ原則ヲ指示スルトキハ以上ノ説明ヲ以テ當然ノモノト認ムルナリ

第六章 會計

會計トハ國家ノ歲出入ヲ掌ル行爲ヲ云ヒ財政トハ國庫即チ國ノ財産ヲ處分スルノ行爲ヲ云フ會計ハ金錢出納ヲ指示スルヲ得或ハ財政ト會計ノ區別ヲ誤ルモノアルカ故ニ茲ニ聊カ説明スルモノナリ

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其他ノ收納金ハ前項ノ

限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

本條ノ規定ハ專ハラ財政上ノ事柄ニ立入りタルモノニシテ會計外ノ事ナリ但シ會計法ニ連續シ及ヒ帝國議會ノ權限ニ立入ルモノナルカ故ニ茲ニ特別ノ條ヲ設ケテ説明スル必要アルナリ

租税ヲ課シ又ハ税率ヲ變更スルニ法律ヲ以テスルコトヲ命シタルモノハ國會ノ協賛ヲ經ヘシトノ意味ニ外ナラサルナリ租税ハ一個人ニ對シテ強迫力ヲ用井テ其資産ノ一部ヲ國庫ニ納メシムルモノナリ租税ハ必ス一定ノ人ニ對シテ取立ツルモノトス義務者ノ確定セサル租税ハ財政學上ハ之ヲ租税ト名クヘキモ憲法上ノ租税ニ非ス故ニ租税ト云ヘハ直接税ニ限ルナリ尤モ間接税ヲ法律ヲ以テ規定スルハ本條ノ精神ナリト雖トモ租税ハ必ス法律ヲ以テスヘシトハ當然直接税ヲ指示シタルモノトス

租税ニ直接間接ノ區別アレトモ財政學上ノ見解ト公法上ノ見解トハ二者相異ナ

レリ即チ公法上ニ於テハ豫メ負擔者ノ姓名ヲ帳簿ニ記入シ確定シタル人ニ就テ取立ツルモノヲ直接税ト名ツシ又間接税トハ負擔者ノ不確定ナルモノニシテ公法上之ヲ租税ト認メサルモノナリ財政學上ニ於テハ直接税トハ負擔者ニ對シテ取立ツル租税ヲ云ヒ間接税ハ租税ヲ拂フモノト租税ヲ負擔スルモノトノ區別アル租税ヲ指スナリ

税率ヲ變更スルハ即チ新ニ租税ヲ課スルモノニシテ既ニ租税ハ法律ヲ以テ課スルコトヲ明言スル以上ハ注釋ヲ待タスシテ明ナルコトナリ

報償ニ屬スル行政上ノ手数料トハ總テ納税ノ性質ニアラスシテ賠償ノ性質ヲ以テ取立ツル所ノ金錢ヲ指スナリ財政學上總テ之ヲ税ト云フ例ヘハ郵便税ト云ヒ電信料ト云フカ如シ茲ニ手数料ト云ヒテ税ト云ハサルハ一方ニ於テハ賠償ノ性質アリ一方ニ於テハ行政官カ公益ノ爲メニ設ケタル造營物ヲ使用スルコトニ由テ取立ツルモノナルカ故ナリ

茲ニ其他ノ収納金ト指スハ租税及ヒ手数料ノ外ニ於テ各種ノ収納金ヲ云フナリ例ヘハ官有物ヲ拂下ケテ其代金ヲ収納シ或ハ政府カ一種ノ營業ヲ爲シテ金錢ヲ

收納スルカ如キハ總テ此目ニ入ルモノトス
 國債^債ヲ起スコトハ總テ議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ必要トス國債ニ二様ノ區別アリ
 行政上ノ國債會計上ノ國債即チ是ナリ行政上ノ國債トハ行政官カ常務ヲ行フニ
 當テ一個人ニ對シテ常ニ惹起ス所ノ貸借ノ關係ヲ云フモノニシテ固ヨリ國會ノ
 議決ヲ待タズシテ爲シ得ルモノナリ會計上ノ國債ハ國家ノ歲出入ヲ整理スル爲
 メニ起ス所ノ公債ニシテ必ズ議會ノ協賛ヲ經ヘキモノナリ茲ニ國債ヲ起スト書
 シ別ニ取除ヲ爲サ、ルハ國債トハ暗ニ會計整理ノ公債ナルコトヲ意味スレハナ
 リ
 行政官カ契約ヲ爲スハ行政上ノ處分ニ基クモノニテ國會ノ協賛ヲ得ルコトヲ必
 要トセス但シ豫算ニ定メタル事柄ノ外ニ於テ國庫ヲシテ義務ヲ負ハシムル契約
 ヲ結フトキハ國會ノ協賛ヲ要ス
 要スルニ本條ノ精神ハ總テ國家ノ歲出入ヲ豫算ニ依ルカ又ハ法律ヲ以テスルカ
 ノ二者其一ニ居ラシメ以テ必ズ國會ノ議決ニ附スルノ一點ニ在ルナリ又租稅ヲ
 課スルコトハ法律ヲ以テスヘシト命シ國債及契約ヲ締結スルコトハ協賛ヲ經ヘ

シト書シ法律ヲ以テスヘシト定メサルモノハ法律ニ矛盾シタル國債及契約ハ帝
 國議會ノ協賛ヲ經ルト雖トモ成立セサルモノナルコトヲ明ニシタルモノナリ何
 トナレハ議會ノ協賛ハ法律ニ因テ之ヲ爲スヘキモノニシテ法律ニ抵觸スルコト
 ヲ得サルモノナルカ故ナリ

第十六回

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ
 舊ニ依リ之ヲ徵收ス

本條ノ規定ハ憲法實施ノ場合ニ當テ從來發布シタル所ノ租稅ヲ徵收スル各種ノ
 命令ハ總テ其効力ヲ繼續スルコトヲ明ニシタルモノナリ法理上嚴格ニ之ヲ解釋
 スルトキハ憲法ニ於テ本條ヲ明定セスト雖トモ既ニ憲法其物ノ性質ニ於テ此法
 理ヲ含メルモノナリ何トナレハ憲法ハ從來ノ法律ノ統系ヲ繼續シ而シテ將來ニ
 向テ其効力ヲ有セシメント欲スルモノナリ加之補則第七十三條ニ於テ猶從來ノ
 法律規則及ヒ諸命令ハ將來ニ向テ効力アルコトヲ明言スレハナリ外國ノ憲法ニ
 此明文ヲ載セタル所以ノモノハ多クハ憲法發布ノ事實我邦ノ有様ト異ナリテ國

体ヲ一新スルモノナルヲ以テ故ラニ之ヲ掲クルノ必要アリシカ故ナリ
 本條ノ明文ニ由テ間接ニ生スル結果ヲ述ヘンニ總テ從來勅令及其他ノ命令ヲ以
 テ取立ツル所ノ人民負擔ノ租稅ト認ラルヘキ性質アルモノハ之ヲ課スル所ノ舊
 來ノ法令ヲ直ニ法律ト見做シ之ヲ改正スルニハ立法ノ手續ニ由ルモノナレハ勅
 令ヲ以テ賦課シタル租稅ハ後來ハ勅令ヲ以テ之ヲ免除スルヲ得サルナリ但シ茲
 ニ注意ヲ加フヘキハ法律ヲ執行スルノ權力ハ君主ニ在ルト同一ノ理由ニ依リ君
 主ハ國會ノ協贊ヲ經スシテ其法力ヲ停止スル場合アリ故ニ勅令ヲ以テ從來ノ課
 稅ヲ廢スルコトヲ得スト雖トモ非常ノ事柄ノ起リタル場合ニハ租稅ノ徵收ヲ延
 期シ又ハ減免スルコトハ勅令ヲ以テ之ヲ爲シ得ルナリ

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ每年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協

贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキ

ハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

本條ハ直接ニ豫算表ノ性質ヲ論シ間接ニ帝國議會ノ權限ヲ定メタルモノナリ國

家ノ歲出入ハ總テ法律命令ニ由テ成立ツモノトス然ラハ租稅ヲ課スル法律アリ
 經費ヲ支拂フヘキ命令アルトキハ別ニ豫算成立ヲ待タスシテ政府ハ會計ヲ爲シ
 得ルナリ然ルニ近來ノ會計法ニ於テハ獨リ日本ノミナラス外國ニテモ豫算ニ重
 キヲ置ケリ而シテ國會モ亦豫算ヲ議決スルノ權ヲ最モ大切ナルモノト認ムル所
 以ハ歐洲ニ在テハ歷史上ノ習慣ニ基キ我邦ニ在テハ實際ハ便宜及ヒ歐洲ノ跡ヲ
 襲陷シタルニ出ツルナリ歐洲ニ於テ豫算ヲ國會ノ決議ニ附スル必要ハ從來ノ國
 體ニ於テ政府ノ歲入ハ專ハラ政府ノ財產ヨリ之ヲ得而シテ其不足ノ金額ハ之ヲ
 國會ニ請求シテ人民ヨリ募ルノ制度ナリ人民ヨリ徵收スルニハ國會ノ前ニ審ニ國
 家會計ノ現狀ヲ示シ而シテ其事實ヲ認定シテ租稅ヲ拂フコトノ必要ニ同意セシ
 コトヲ求メタルモノナリ然ルニ近來ノ制度ニ於テハ租稅ハ政府カ法律ノ効力ニ
 由テ之ヲ取立ツモノニシテ國會及人民ノ承諾ヲ經テ取立ツルモノニ非ス故ニ豫
 算表ヲ國會ノ議決ニ附スルコトハ其必要ヲ失ヒタルモノナリ然ルニ從來ハ專ハ
 テ國家歲入ノ爲メニ國會ニ提出シタル豫算案ハ近來ハ國會ニ於テ之ヲ利用シテ
 政府ノ歲出ヲ監督スル一ノ便法トセリ是ヲ以テ近來豫算ノ必要ハ政府ノ國庫ノ

金ヲ支拂フ金額及目的ニ向テ國會ノ協賛ヲ經ルカ如キ實際ノ有様ヲ提出シ本來ノ目的タル租稅ヲ課スルコトヲ認可スルカ爲メニ提出スルノ性質ヲ失フタルナリ

以上ハ沿革ノ大畧ナリ而シテ現行法上ニ於テ豫算ノ性質ヲ論スル學說ヲ大別シテ二派トス第一派ノ主張スル所ハ豫算ハ國會ノ協賛ヲ經裁可ヲ以テ成立ツ者ナルカ故ニ豫算ノ効力ハ法律ト同一ノモノニシテ豫算ヲ以テ從來ノ法律ヲ變更スルコトヲ得ト云フニ在リ例ヘハ租稅ヲ課スル法律アリト雖トモ國會カ豫算ヲ議決スルニ當テ之ヲ否決シタルトキハ從來ノ租稅法ハ廢セラル、モノナリ或ハ又法律ヲ執行スルニ必要ナル歲出額ハ國會ノ豫算議決ヲ得サルトキニ於テハ政府ハ之ヲ支拂フコトヲ得スト認ムル見解ニシテ約言スレハ豫算ヲ以テ法律ト爲スノ論ナリ佛蘭西白耳義ノ憲法及ヒ其統系ヲ襲フ羅馬法諸國ノ憲法ハ皆此主義ヲ採用セリ

第二派ノ學說ハ豫算ハ法律及命令ニ由テ行政官カ會計ヲ掌ル所ノ行政命令ノ性質ニシテ之ニ由テ政府及一個人間ニ權利義務ノ規定ヲ設クルノ性質ニ非ス故ニ彼佛蘭西革命ノ時代ニ在テ國會カ豫算表ヲ議決セサルカ爲メニ政府ト人民トノ債權上ノ關係ハ行政官之ヲ消滅シタルモノト見做スト爲セシカ如キ原則ハ豫算ノ性質ヲ誤リタルモノナリト且曰ク豫算ハ國會ノ協賛ヲ經ルト雖モ是只國會カ行政命令ニ向テ協賛スルニ過キスシテ新ニ法律ヲ作り從來ノ法ヲ變更スルノ目的ヲ以テ協賛スルモノニ非スト要スルニ此學派ノ主張スル所ハ豫算ハ法律ニ非スシテ行政命令ナリト云フニ在リ而シテ英國々會及獨逸諸國ノ多數ハ皆此原則ニ從ヒテ豫算ノ性質ヲ説明セリ我邦ノ憲法上ニ於テハ憲法ハ豫算ニ法律ノ効力ヲ與フルト否トヲ明言セスト雖モ第六十七條ノ規定アルニ由テ考フレハ豫算ハ法律ニ非スシテ行政處分ノ一種ナルコトヲ認メタルモノナリ故ニ豫算成立セスト雖モ政府ハ租稅ヲ徵收シ及ヒ歲出ヲ支拂フノ權力ヲ有ス

豫算ヲ議決スル目的ハ嘗ニ總歲出入ニ向テ一纏メニ議決スルニ非スシテ一定ノ金額ヲ一定ノ事柄ニ向テ議決スルモノナリ故ニ其議決ノ額ト及其目的ニ違フタルトキニ於テハ政府ハ國會ニ對シテ後日之ヲ提出シテ其承諾ヲ求ムルコトヲ必要トス

承諾ハ單ニ國會ノ認定ヲ請フニ過キスシテ承諾ヲ拒ミタル場合ニ在リテハ其効力ハ專ハラ將來ニ及ホスノミニテ既往ニ溯リテ其處分ヲ破毀スルコトヲ得ス豫算ハ毎年國會ニ提出スルヲ原則トス毎年ナル文字ニ就テ會テ獨逸ノ憲法實施ノ際ニ二様ノ見解起リ大ニ國會ノ紛議ヲ招キタルコトアリ毎年トハ固ヨリ會計年度ノコトヲ云フナリ或ハ之ヲ曆年ノ一年ト見ルモ我國ノ法律上ニテハ何等ノ差支ナシ唯豫算ヲ國會ニ提出スルコトハ毎年之ヲ爲スコトヲ規定シタルニ過キスシテ其提出スル豫算ハ一年以上ノ日月ニ涉ル豫算タルヲ妨ケス然レトモ實際ノ習慣ハ毎年一年ノ豫算ヲ國會ニ提出スルヲ以テ常トセリ

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

豫算ヲ衆議院ニ提出シテ而シテ貴族院ハ豫算ニ向テ之ヲ可否スルノ權アリテ修正スルノ權ナシト主張スルモノハ蓋シ本條ヲ誤解シタルモノナリ我邦ノ憲法ハ上下兩院共ニ豫算ヲ自由ニ修正スルノ權力ヲ有ス而シテ何カ故ニ豫算ヲ先ツ衆議院ニ提出スヘク前ニ貴族院ニ提出スルコトヲ許サザルヤノ理由ヲ求ムルニ歐羅巴ノ憲法ニ於ケル理由ハ之ヲ我邦ニ適用ス可カラサルヲ以テ恐ラクハ歐羅巴

ノ事實ヲ誤解シタルモノナラン即チ歐羅巴ニ在テハ上院ニ豫算議決ノ權ヲ與ヘサルモノアルカ故ニ先ツ衆議院ニ於テ之ヲ修正シ之ヲ議決シタル后ニ非サレハ上院ニ於テ之ニ對シテ議論スルコトヲ得サルナリ然ルニ我邦ノ憲法ノ如ク貴族院ニ此權力ヲ認メタル場合ニ在テハ別ニ之ヲ先ツ衆議院ニ提出スルノ止ムヲ得サル理由アルヲ見出スコト能ハス唯法律上ノ制限トシテ之ヲ註釋スルノ外ナシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

皇室經費ハ現在ノ定額即チ憲法効力ヲ有スルノトキニ定メラレタル定額ヲ支出シテ之ヲ減スルコトヲ得セシメサルモノナリ他日増額ノ場合ニ在テハ他ノ歳出ノ額ト等シク國會ノ協賛ヲ經ルコトヲ必要トス

皇室ノ經費トハ國庫ヨリ支拂フノ定額ヲ指シタルモノニシテ皇室ノ費用全斑ヲ指シタルモノニ非ス例ハ宮内省ノ定額ヲ豫算表ニ載セテ之ヲ議決スルノ意味ニ解スルカ如キハ誤謬ノ太甚シキモノナリ皇室經費トハ豫算表上ノ一ノ用語ヲ爲

シ國庫ヨリ宮内省ニ支出スル金額ヲ云フ皇室全体ノ經費ニ關シテハ固ヨリ國家會計ノ検査監督ヲ受クルノ理由モナク又法律モナキナリ

第十七回

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結

果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意

ヲ得テシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ズ

本條ノ規定ハ國會カ豫算表ヲ議定スルニ當テ決議權ノ程度ヲ指示シタルモノニ

シテ豫算ヲ認メテ法律ノ一種ト爲サ、ル以上ハ本條ノ茲ニ設ケタルノ必要ヲ

見ス既ニ豫算ヲ以テ法律ト同様ノ効力アルモノト爲シ從來ノ法律規則ニ拘ハラ

スシテ國會ハ自由ニ豫算ヲ議決スルノ權力アリト認ムルトキハ本條ヲ設ケテ其

議決權ヲ牽束スルコトヲ得ス然レトモ我憲法ニ在テハ豫算ハ法律ノ範圍内ニ於

テ法律ヲ執行スルカ爲メニ取行フ所ノ行政命令ノ性質ナリ此見做セルカ故ニ行

政命令ノ性質ニ伴フ法理ヲ以テ之ヲ解釋スルコトヲ必要トス

總テ行政命令ハ法律ノ目的ヲ達スル爲メニ設ケルモノニシテ法律ヲ變更スルコ

トヲ得ス是ヲ以テ豫算ヲ議定スルニ臨テハ現行ノ法律及勅令ニ由リテ成立セル

所ノ國家ノ政務ヲ維持スルコトヲ目的トス豫算表ノ議決ニ由テ政治ヲ左右スル

ハ政治上間接ニ行ハル、結果ニシテ法理上ニ於テ豫算ノ性質ヲ論スルトキハ國

家ノ政治ヲ監督スルノ機械トナルヲ得ス然レトモ豫算表中ニ法律勅令ニ基クモ

ノト然ラサルモノトノ二種アリ法律及勅令ニ基クモノハ之ヲ一定ノ豫算ト認メ

政府及國會ハ自由ニ之ヲ左右スルコトヲ得サルモノト爲シ直接ニ法律及勅令ニ

基カサル豫算ハ國會及政府ニ於テ自由ニ之ヲ議決スルノ餘地アラシムルモノナ

リ

本條ノ規定ハ不動ノ豫算額ノ規定ニシテ暗ニ英國ノ豫算案ニ於テ固定資本ト名

ケ歐洲大陸ノ豫算等ニ於テ既定ノ歳出ト稱スルモノニ相當ス

憲法上ノ大權ニ基クトハ此憲法ニ於テ天皇ノ大權ニ在リト明言シ國會ノ干涉ヲ

許サ、ル所ノ主權直接ノ作用ヲ指ス之ヲ解シテ統治權ノ作用ハ悉ク皆憲法上ノ

大權ナリト爲スハ誤謬ノ見解ナリトス何トハレハ若シ主權ノ作用ハ悉ク憲法上

ノ大權ナリト云フトキハ本條ノ末項ニ於テ法律上ノ作用ハ區別ヲ立テ憲法上ノ

大權ト並ヘ稱スル精神ニ違フ可クレハナリ故ニ憲法上ハ大權トハ狹キ意味ニ於テ用ヰラレタルモノニシテ我憲法ノ第一章天皇編ニ於テ故ヲ明文明文ヲ掲ケタル所ノ大權ヲ指示スルモノナリ

既定ノ歳出トハ其目的及ヒ其金額共ニ規定セラレタルモノヲ指示ス

總テ豫算案ヲ議スルニ當テハ第一ニ經費ヲ支出スル目的ニ對シ第二ニ其目的ヲ達スル爲メニ必要ナル金額ヲ議決ス

憲法上ノ大權ハ國會ノ嘴ヲ容ル、ノ外ニ於テ既ニ其目的ノ定マレルモノナリ豫算表ニ於テ之ヲ議スルノ必要ハ金額ニ在リ其金額モ常ニ從前ノ豫算表ニ於テ定マリタル所ノモノハ帝國議會ニ於テ之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

既定ナル文字ノ解釋ニ二様アリテ前ノ豫算案ニ規定セラレタルコトヲ指スモノトセル論者ト前ノ豫算案ニ載セラレタルト否トヲ問ハス總テ豫算議決ノ時ニ當テ既ニ定メタル金額ヲ指スモノト爲スノ三說ニ分レリ第一說ハ歐洲大陸ノ憲法々々理ヲ參照スルトキハ或ハ我憲法ヲ註釋スルニ於テ至當ナル見解ナルヘシト考ヘラル即チ既定ノ歳出トハ昨年ノ豫算案ニ於テ國會ハ之ヲ議決シ天皇之ヲ裁可

シタル經費ノ項目ヲ指スナリ昨年ノ豫算案ニ載セラレサル經費ハ國會ハ之ニ對シテ議決ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二ニ法律ノ結果ニ由ル歳出トハ法律ノ明文ニ基キテ其目的及金額共ニ定マリタルモノヲ指ス例ヘハ法律ヲ制定シ裁判所ヲ構成シ而シテ裁判所ニ必要ナル費用ハ法律自然ノ結果ニ由テ動カス可カラサルモノナリ例ヘハ裁判官ノ俸給ハ法律ヲ以テ定メレリ然ラハ裁判所構成法ヲ構成スルニ當テ必要ナル裁判官ニ任スルコト對スル費用ハ國會ハ之ニ對シテ廢除又ハ削減ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第三ニ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出トハ政府カ法律上ノ權利義務ノ主体即チ法人トシテ法律ノ結果ニ由リ其法人即チ國庫ノ義務ニ屬スル歳出ハ帝國議會ハ之ヲ左右スルコトヲ得ス例ヘハ公債及國債ヨリ起ル所ノ經費ノ如キハ帝國議會ハ之ヲ動カスヲ得サルカ如シ

本條ヲ説明スルニ當リテ注意ヲ要スルハ政府ノ同意ナクシテトノ個條ニ在リ憲法上ニ政府ナル言ヲ使用シタル場合ハ專ハテ内閣ト云フカ如ク主權者其人ヲ直ニ指シタルニ非スシテ主權ノ委託ヲ受ケテ政令ヲ發スルハ官府ヲ指スナリ約言

スレハ内閣ト議會トノ間ニ於テ協議ノ調フタル場合ニハ豫算案ニ於テ以上ノ金額ヲ増減スルコトヲ得然レトモ其決議ハ天皇ノ裁可ヲ待テ始メテ効力ヲ有スルモノナルカ故ニ實際ニ於テハ兎モ角モ法律上ニ於テ國會ハ之ヲ左右スルノ職權ナキモノトス

第十八回

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費
トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

國家ノ歳出ハ毎年之ヲ議定シ曆ノ一年即チ十二月ヲ以テ其出納ノ平衡ヲ完フスルヲ以テ原則トナスカ故ニ一年以上ニ渉ル經費ハ毎年新ニ國會ニ提出シテ之レカ議決ヲ爲サシメサルヘカラス然レトモ此原則ハ如何ナル場合ニ於テモ全然適用スルコトヲ得スシテ或ハ例外法ノ行ハルコトヲキニ非ラス即チ本條ノ規定ハ其例外ヲ指定セルモノナリ
一年以上ニ渉ル經費ヲ豫メ議決シ其豫算項目ヲ次回ノ國會ニ於テ更ニ討議セシメサルモノ是ヲ名テ繼續費ト云フ繼續費ハ議決効力ノ一年以上ニ渉リテ法律上

尙ホ其効力ヲ有スルモノナク云フト雖トモ其効力ヤ永久繼續スルモノニアラスシテ必スヤ有期ノモノヲラサルヘカラス故ニ本條ニ特ニ其年限ヲ確定スルノ注意ヲ促シタルナリ
繼續費トナスヘキモノハ特別ノ使用ニ由ル事項ニ限ルヲ以テ尋常ノ經費ヲ繼續費トナスヲ許サ、ルナリ特別ノ使用トハ豫メ法律ヲ以テ其場合ヲ指示スルモノニアラサルカ故ニ特別ナルト否トヲ甄別スルハニ政府ニアリ何トナレハ凡テ財政ニ關スル議案就中豫算案ハ國會ノ發議ヲ許サスシテ政府ヨリ國會ノ議決ニ付スルモノナルカ故ニ發議者タル政府カ認メテ以テ特別ノ使用ナリトナス者ニ對シテ國會ハ唯其額ヲ議スルノ自由アルヲミニシテ發議ニ對シテ之ヲ左右スルノ權ナク又自ラ發議シテ政府ヲ要求セサル項目ヲ繼續費トシテ議スルコトヲ得サルナリ
繼續費ハ事實上數年ニ渉ルニアラサレハ其目的ヲ完フスル能ハサル事項ニ付キ其必要ヲ見ルモノニシテ例ハ國家永久ノ利害ニ關スル土木ヲ起スノ必要アルトキハ單ニ一年ノ費目ヲ議決シタリト雖トモ後來ニ於テ之ヲ繼續スルノ見込

ナクハ當事者ハ其事業ニ着手スルコトヲ得サル場合ノ如シ其他外國ニ於テハ海陸軍ニ要スル費用ハ三年或ハ七年ノ年限ヲ定メ一定ノ歳出ヲ議決スルコトアリ近來獨逸帝國ノ繼續費目中ニ於テ之ヲ見ル蓋シ獨逸ハ平常隣敵ヲ前後ニ受クルカ故ニ海陸軍ノ鞏固ナルト否トハ國家安危ノ岐カル、所ナレハ繼續費ヲ議決シテ外國ノ窺察ヲ絶ツノ必要アレハナリ然レトモ此等ハ唯政界上ヨリ生ズルモノニシテ法律上ノ解釋ハ特別ノ使用ヲ以テ之ヲ概括スルニ止ムヘキナリ

第六十九條 避クヘカラル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

本條ノ規定ヲ要スル所以ノモノニ付一言スヘシ抑モ我邦ノ憲法ハ豫算ヲ以テ法律ニアラス法律ヲ執行スル爲ノ手續ヲ規定スルモノナリトナスカ故ニ國家成立ノ原則タル法律ノ効用ヲ全フセシカ爲メニ豫算外ニ涉ル財政ヲ處分トナスノ必要ヲ見ルヲ以テ豫算外ノ歳出入ハ政府ノ當然ナシ得ヘキ事項ナリ以是豫算表中ニ臨時要スル費目ヲ掲ケ共ニ議決セシムルモノトス

次條即チ第七十條ニ於テハ豫算外ニ涉ル財政ノ處分ニツキ精密ナル規定ヲ爲ス

カ故ニ本條ニ於テ豫備費目ノ規定ヲナスハ或ハ重複ノ嫌ナキヤノ疑ナシト雖モ法律上ニ於テ豫備費ト豫算外ノ法律ノ規定トハ區別アルヘキモノニシテ政府ノ國會ニ對スル責任上ニ差異アリトス抑モ豫備費ハ己ニ豫算ノ當時ニ議決セルモノナルカ故ニ之ヲ支拂フタル後ニ於ケル會計上ノ責任ハ全ク其事柄ノ避クヘカラサル必要アリシコトヲ證明スルニ止マリ敢テ追認ヲ受クルヲ要セス換言スレハ豫メ責任解除ノ議決ヲナスモノナリ之ニ反シテ次條ノ規定ハ既ニ處分トナシタル後ニ至リ責任解除ヲ政府ヨリ國會ニ請求セサルヘカラサルモノナリ以是財政學上ヨリ論スレハ重複ノ規定ナリト雖トモ法律上ヨリ説明スルトキハ二者判然タル區別ヲ爲スノ必要ヲ見ルナリ

豫備費ハ國家全体ノ不時ノ事柄ニ充用スルヨリモ寧ロ行政各部内ニ於ケル豫算ノ見込違ヲ救正スルノ目的ニ出テタルモノト云フヘシ例之ハ一年前ニ豫見セサル物價ノ變動ニヨリ既ニ議定セラレタル費額ヲ以テ事務ヲ處辨スルコトヲ得ル場合ノ如シ之レニ反シテ臨時處分トハ豫算ニ於テ全然其事柄ヲ豫見セサル新事項ニ付キ費用ヲ要スルモノナリ是レ亦二者區別ノ存スル一點ナリトス

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ要用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ由リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス

本條ノ大體ハ已ニ前條ヲ説明スル際ニ於テ説述シタルカ如ク國家ノ存立ハ豫メ豫算表ニ於テ其活動ヲ束縛スルコトヲ得サルモノナリ若シ果シテ豫算ヲ動かスヘカラサルモノトセハ政府ハ法律ノ何タルヲ問ハス豫算ヲ以テ最高ノ標準トシテ國家ノ政治ヲ左右スルコトヲ本職トナスヘキナリ然ルニ或ル憲法ニ於テハ豫算ハ參考ノ爲ニ供スルモノトナスカ故ニ臨時ノ事柄發生スルトキハ政府ハ豫算ニ於テ之ニ應スルノ金額ヲ附與セサレハ臨時ノ處分ニ對シテ責任ナシト云フヲ得ス又法律ニ對シテモ所謂緊急命令ナルモノアリテ國家非常ノ場合ニハ一勅令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ許スト同シク國家非常ノ場合ニハ政府ノ獨斷ヲ以テ豫算表ヲ變更スルコトヲ得セシムルモノナリ本條ニ規定スル事柄ハタトヒ明

文ナシト雖トモ實際上ノ必要ヨリ之カ處分ヲナスコト歴史上往々見ル所ナリトス

第八條ヲ説明スルニ方リ緊急命令ノコトヲ述ヘタリ其緊急命令ト臨時處分トノ區別ハ緊急命令ニアリテハ政府國會ヲ臨時ニ召集スルノ必要ヲ見サルモ財政ノ臨時處分ニ於テハ事情ノ許ス限リハ臨時ニ國會ヲ召集スルコトヲ命令セルニアリ約言セハ臨時處分ハ緊急命令ヨリモ其手續ヲ重ンセルニアリ

本條ノ規定ハ前條ノ説明ニ於テ述ヘタルカ如ク行政各部計算ノ相違ヲ救正スルニアラヌシテ豫算ニ記載セサル新事項ヲ云フモノナリ換言スレハ既ニ豫算上一定ノ金額ヲ定メラレタル事柄ニ對シテノ違算ニハアラヌシテ目的其物ノ非常ナルヲ指示セルモノナリ例之ハ戰爭ノ場合ノ如シ如斯處分ニ對シテハ次回ノ國會ニ於テ承諾ヲ經ルヲ必要トス而シテ其承諾ハ結果ニ付テハ既ニ第八條ノ解釋ニ詳述セルカ如ク將來ニ其効力ヲ有スルモノニシテ既任ニ溯リテ其處分ヲ無効トスルモノニアラサルコト明カナリ以是既ニ政府ノ臨時處分ニヨリ支拂フタル金額ハ承諾ヲ經ルト否トニ拘ラス完全効力ヲ有シ唯承諾ヲ拒絕セラレタルトキハ

其時ヨリ以後同目的ヲ以テ金額ヲ支出スコトヲ得サルモノナリ

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

本條ハ外國憲法ニハ稀ニ見ル所ニシテ日本憲法ノ最モ得意トシテ規定シタル所ノモノナリ故ニ佛蘭西獨逸白耳義ノ憲法ニハ此規定ナキヲ以テ實際ノ混雜ヲ惹起シタルコトナキニアラス

豫算ハ行政官ニ對シテハ國家ノ會計ヲ取扱フ權力ヲ委托スルノ性質ヲ有スルモノニシテ苟モ豫算ナクシテ政府ノ會計ヲ掌トルヲ許サ、ルナリ故ニ國家ニ於テ若シ豫算ヲ否決シ又ハ豫算ヲ議定セサルカ或ハ國家臨時ノコトアツテ國會ヲ召集スル能ハサルトキハ政府ハ租稅ヲ取立テ及ヒ行政ニ必要ナル歲出ヲモ支拂フコトヲ得サルヤノ疑問ヲ生スルコトアリ此場合ニ歐州法理ノ見解ハ二様ニ岐カル、モノ、如シ其第一說ニヨルトキハ豫算ハ法律ノ効力ヲ有スルカ故ニ豫算ナクシテハ國家會計ノ法律ナキモノナリ而シテ豫算ハ一年間ノ法律ニシテ一年ヲ經過セハ其効力ハ自然ニ消滅スルカ故ニ國會ニ於テ更ニ豫算ヲ議決セサルトキニ

當リ政府ニシテ會計ヲ掌トルコトアラハ遂ニ憲法ヲ破滅スルニ至ルヘシト此說ヤ白耳義憲法ニ於テ明カニ認メラレタリ然レトモ國家實際ノ必要上ヨリ此主義ヲ貫徹スルコト能ハサルカ故ニ第二論者ハ說ヲナシテ曰ク豫算ハ法律ノ効力アリト雖トモ法律ハ國家ノ爲ニ設ケタルモノナレハ國家ノ危急存亡ニ臨ミ徒ニ憲法ヲ墨守シテ國家ヲ滅亡セシムルハ道理ノ許サ、ル所ナリ故ニ政府ハ豫算ヲ要セスシテ財政ヲ處理スルヲ得ヘシトノ說ヲ主張セリ是レ獨逸學者ノ多ク左袒スル所ナリト雖トモ此論ヤ政治論トシテハ千金ノ價值ヲ有スヘシサレトモ彼等ハ憲法ヲ以テ不完全ナル法律タルコトヲ自白セルモノナリ故ニ法理上ヨリ論スレハ一片ノ價ナキモノトス而シテ若シ國會ニシテ豫算ヲ否決セルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ實行スルコトヲ得ルヲ可トストノ議論近來專ラ行ハル、ニ至レリ而シテ瑞典西班牙ノ如キ及ヒ我憲法ノ如キモ此說ヲ採用セリ西班牙ノ憲法ニ於テハ二年迄ハ國會ノ否決ニ拘ラス政府ハ財政スルコトヲ得ルモ二年以上ニ涉ルトキハ從前ノ豫算ニ據ルコトヲ得ストセルモ我憲法ニ於テハ此制限ヲ明言セサルカ故ニ三年若クハ四年ニテモ前年度ノ豫算ヲ繼續スルコトヲ許スモノト解釋

第十九回

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

前條ニ述ヘタル所ハ專ラ會計ノ豫算ニ關スル事柄ニシテ會計ノ端緒ヲ指示スルニ過キスシテ年度中ニ豫算ニ由テ會計ヲ掌リ年度ノ終ニ於テ會計ノ決算ヲ爲シ之ヲ検査院ニ報告シ検査院ハ法律勅令ニ由テ之ヲ審査シ而シテ帝國議會ニ提出シ責任解除ノ議決ヲ經ルコトヲ爲ス是レ會計豫算ヨリ決算ニ至ルノ順序ナリ
會計検査院ハ政府部内ノ一ノ官府ナリト雖モ直接ニ法律及勅令ノ下ニ立テ行政官ノ監督ニ依ラスシテ自己ノ職權ヲ執リ行フモノナリ故ニ本條ニ於テ政府ハ會計ヲ検査シテ國會ニ報告スヘシト云フニ止メスシテ會計検査院之ヲ検査シトノ條目ヲ設ケタル所以ナリ
會計検査院ハ法律ノ下ニ立テ豫算表ノ規定ニ由テ國家ノ歲出入ノ決算ヲ審査ス

而シテ審査ノ結果ハ行政官ノ會計上ノ責任ヲ解除スルモノナリ
行政官カ豫算ニ由テ金錢ヲ收納シ又ハ支出シタル場合ニ在テ豫算表ハ單ニ政府全体ノ責任ニ對シ責任ヲ解除スルノ標準タルニ過キスシテ行政官ノ責任ハ豫算表以内ニ於ケル支出ト雖モ猶ホ検査院ニ對シテ其責ニ任スルモノトス故ニ年度ノ終ニ於テ検査院ハ之ヲ検査シテ解責狀ヲ與フ是ニ於テ行政官一個ノ責任ハ國庫ニ對シテ解ケタルモノナリ然レトモ政府全体カ國會ニ對シテ豫算表ニ指示シタル事柄ニ對シ其會計ヲ證明スルノ責ハ猶存在スルヲ以テ會計検査ノ第二次ノ手續トシテ國會ノ審査ニ附スルナリ故ニ國會ハ高等ノ會計検査院ノ職務ヲ掌ルモノナリ佛蘭西ノ國法ニ於テハ會計検査院ヲ一ノ行政裁判所ト看做セリ何トナレハ法律勅令ノ會計ニ關スルコトニ對シテハ検査院ハ獨立ノ職權ヲ以テ法律ヲ解釋シ法律ヲ適用スルモノナリ例ヘハ茲ニ一ノ法律アリテ行政官ハ其法律ヲ解釋シテ一定ノ處分ヲ爲シタリ然ルニ會計検査院ハ行政官ト法律ノ解釋ヲ異ニシ行政官ノ處分ヲ非難スルニ當テハ検査院ハ法律ヲ解釋スルニ付キ獨立ノ職權ヲ有スス如ク獨立ノ職權ヲ有スルカ故ニ其組織及ヒ職權ハ法律ヲ以テ之ヲ規

定シ勅令ヲ以テセサル所以ナリ
 會計検査ノ及フ範圍ハ專ハラ計算上ノ點ニ在リ金錢出納ノ目的ニ對シテ審査ス
 ルノ職權ナシ但シ特別ニ法律ヲ以テ此權ヲ與ヘタルトキハ例外トス然レトモ原
 則トシテハ検査院ノ職權ハ計算ニ止マリ處分ノ如何ニ及フコトヲ得ス但シ法律
 命令ニ反キタル行政官ノ會計ヲ見出シタルトキハ之ヲ違法ナリト判決スルノ職
 權ヲ有ス其判決ノ効力ハ行政部内ノミニ止マリ一般ニ及ハス故ニ若シ裁判所ノ
 判決ト検査院ノ判決ト抵觸シタルトキハ民法上ノ事柄ニ對シテハ會計検査院ノ
 判決ハ其効力ヲ有セス故ニ行政官ハ検査院ノ解責狀ヲ得タルヲ口實トシテ裁判
 所ニテ審判セラル、ノ責ヲ免ル、ヲ得ス

補則

第七章 補則

補則ノ章ニ於テハ憲法ノ形式上ノ効力ヲ規定シ其範圍ヲ定ムルニ止マリ別ニ新
 ナル權利義務ノ規定ヲ設ケテ前條ノ憲法ノ規定ヲ左右スルコトヲ爲サス
 補則ハ其規定ノ効力ニ於テ總テノ本則ト異ルコトナシ是ヲ以テ補則ニ規定スル
 所ハ無論憲法ノ一部分タルコトハ論ヲ俟タサルナリ然ルニ學者或ハ補則ハ憲法

ノ部類ニ非スト説ク者アリ是等ノ迷夢ヲ攪破スルカ爲メニ茲ニ一言スルコト爾

第七十三條 將來此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ

勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ附スヘシ此場合ニ於テ兩
 議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事
 ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非
 サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ憲法ノ法力如何ヲ規定シタルモノナリ成文憲法ヲ有スル國ト憲法ヲキ國
 トノ差別ハ實ニ憲法ト名ケタル法典ノ有無ニ拘ハラスシテ實ニ憲法ハ法律ヨリ
 一層高キ効力ヲ有スルノ點ニ在リ故ニ憲法ハ立法ノ手續ヲ以テ之ヲ規定セス又
 立法ノ手續ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ス即チ特別ノ法力ヲ有スル法典ト認ム
 ルナリ
 本條ノ規定スル所ハ將來ニ於テ此憲法ヲ變更セシトスルトキハ第一發議ノ權ハ
 君主ニ在テ兩議院ニ在ラズ第二兩議院ノ法律上定メタル議員ノ三分ノ二以上出

席スルニ非サレバ議事ヲ開クコトヲ許サス又出席シタル議員ノ三分ノ二以上ノ
 多數ヲ得ルニ非サレバ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス而シテ改正ノ議決ハ勅命ニ
 奉答スルノ性質ニ止マリ議決ヲ以テ直ニ改正ノ効力ヲ有セシメサルモノナリ
 尋常法律ノ制定手續ニハ此鄭重ナル手續ヲ要セスシテ出席議員ノ多數決ヲ以テ
 直ニ議決スルコトヲ許スモノナルニ憲法ニ於テハ三分ノ二ノ多數ヲ必要トス故
 ニ或學者ハ説明シテ曰ク法律ニシテ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ議決セラレタル
 モノハ憲法ヲ變更スルノ効力アリト然レトモ本條ノ意味ハ一口ニ言ヘハ法律ヲ
 以テ憲法ヲ變更スルヲ得スト云フニ歸スルナリ然ラハ則チ法律案ヲ議スルニ當
 テ偶然本條ノ期スル要件ヲ充タシタリ決シテ憲法ヲ變更シ又ハ之ヲ抵觸スル
 ナリ得サルナリ唯憲法改革ノ主意ヲ以テ勅命ヲ以テ此意ヲ公ニシタル場合ニノミ
 憲法ヲ改正スルノ決議ヲ爲シ得ルナリ
 或ハ本條ヲ以テ憲法ハ約束ノ性質ヨリ成立スルモノト認ムルモノアリ憲法ハ君
 主ノ意ヲ以テ變更スルヲ得スシテ國會ノ承諾ヲ經テ之ヲ改正スルト見做ス者アリ
 然ルニ此見解ハ議決ナルコトノ性質ヲ辨明セサルニ基ク誤ニシテ議決ハ命令

ニ非ストノ原則ヲ記憶スルトキハ憲法ハ議決ニ由テ成立セスシテ主權者ノ命令
 即チ裁可ニ由テ成立スルコトハ疑ヲ容レサル所ナリ故ニ極端ノ例ヲ指示スレハ
 議決ヲ經タル改正案ヲ裁可セサルコトヲ得然ルトキハ國會ノ議決アリト雖モ憲
 法ハ法律上改正セラレサルナリ此場合ニ在テ國會ハ憲法ヲ改正スルハ我職權ニ
 在リトノコトヲ主張スルヲ得サルハ甚ク明瞭ナリトス
 外國ノ例ヲ比較スルニプロイセンノ國法ニ於テハ我憲法ト同一ノ例ヲ設クルニ
 拘ハラス其實際ノ歴史ヲ見ルトキハ往々法律ヲ以テ憲法ヲ變更セリ故ニ或學者
 ハ法律ト憲法トハ同一ノ價值ノモノニシテ法律ハ憲法ヲ變更スルコトヲ得ト論
 決スルモノアリ然レトモ外國ニ於テ此惡例アルカ爲メニ我邦ノ新憲法ヲ注釋ス
 ルニ當テ之ヲ引證シテ本條規定ノ効力ヲ奪ハントスルハ不道理ノ太甚シキモノ
 ナリ
 佛國ノ憲法ニ在テハ憲法ト法律トノ區別甚ク明白ナルモノニシテ之ヲ制定スル
 機關全ク異レリ即チ憲法ヲ改正スルニハ尋常ノ國會ニ非スシテ特ニ憲法會議ヲ
 ルモノヲ開キ其議決ニ由テ之ヲ改正ス而シテ尋常ノ國會及ビ大統領ニハ憲法ヲ制

定ノカナクシテ只立法ノ權ニシテアリ故ニ法律ト憲法トヲ區別スルヲミナラズ又立法權ト憲法權トヲ區別セリ是ヲ以テ二者ノ關係甚タ分明ナリ
 瑞西ノ憲法ニ於テハ主權ハ國民ニ在リトシ主義ニ則ルガ故ニ憲法ヲ改正スルハ主權者唯一人ノ權力ナリト認メ憲法ノ改正案ハ代議制ニ依ラスシテ人民一般ノ直接投票ヲ以テ之ヲ決ス此事タル極端ニ涉リタル規定ニシテ外國ノ容易ニ摸範ト爲スヲ得サルモノナレトモ憲法ノ改正ハ主權者唯一人ノ掌中ニ握リ他人ナシテ容喙セシメサルノ法理ニ至テハ甚タ整然トシテ能ク理論ニ適合セリ唯獨乙諸國ノ所謂立憲政体ハ主權ノ所在ヲ曖昧ニシ或ハ君主ニ在ルカ如ク或ハ人民ニ在ルカ如クニスルカ故ニ憲法改革ノ時ニ當テ常ニ紛議ヲ生シ法理又一定セサルナリ
 我憲法ヲ講スルニ當リテハ既ニ主權ハ全ク天皇ニ在リト爲ス以上ハ憲法改正ノ權ハ全ク主權者ニ在テ國會ノ諮詢ヲ經ルヲ要セサルコトヲ明ニスルヲ要スルナリ
 英國ニ於テ此類ノ規定ナキハ全ク憲法ト法律トノ區別ナキニ由ルモノニシテ英

國ノ例ヲ以テ本條ヲ説明スルヲ得サルハ論ヲ俟タス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

我國法ニ在テハ皇室典範ヲ憲法ノ一部ト認メヌ又法律ノ効力ヲモ有セシメヌシテ別種ノ規定ト認メタリ然レトモ外國ノ例ニ由ルトキハ皇室典範ハ憲法ノ一部分ヲ爲シ憲法ヲ變更スルノ手續ヲ皇室典範ヲ改正スルノ手續ニ流用スルモノナリ此誤解ヲ防カンカ爲メニ我憲法ハ茲ニ明言シ皇室典範ハ憲法以外ニ在ルコトヲ示シタルナリ

皇室典範ノ變更ハ皇室典範ノ規定ニ於テ明ナリ然レトモ皇室典範ト憲法トノ法力ノ權衡ニ至テハ皇室典範ノ規定ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ許サ、ルナリ左ニ一言皇室典範ノ性質ヲ附加スヘシ
 皇室典範ハ皇室ノ家法ニ屬ス而シテ其憲法ノ一部ニ加ヘサル所以ハ皇室ノコトハ人民ニ容喙セシメストノ政治上ノ主義ニ出タルニ非スシテ憲法々理上ノ必要ヨリ起リタルモノナリ憲法講義ノ當初ニ於テ述ヘタルカ如ク憲法上ニ於テ天皇

ナルモノハ法人ナリ法人ハ永久不死ノモノナリ故ニ憲法ハ天皇ノ相續法ヲ認メ
サルナリ先帝死シテ皇太子位ニ即シ場合ハ皇室典範上ニテハ相續ナリ憲法上ニ
テハ矢張り同一ノ天皇ニシテ法人体タルカ故ニ其終始ヲ認メス主權ノ本体ト爲
ル君主ハ民事上ノ相續法及ヒ親族法ヲ以テ支配セラル、モノニ非スシテ全ク公
法上ノ法人ノ資格ヲ有ス是レ皇室典範ヲ憲法ノ一部ト爲サスシテ之ヲ憲法以外
ニ置ク所以ニシテ君主ハ法人体ノ主權ノ本体ナリトノコトヲ認メタルモノナ
リ

第二十回

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スル

コトヲ得ズ

本條ノ主意トスル所ハ皇室典範及憲法ハ攝政ノ意見ヲ以テ之カ變更ヲ試ミラル
、コトヲ防クニ在リ政治上ノ目的ハ憲法及皇室典範ハ容易ニ動カヌ可カラサル
モノニシテ青年ノ天子カ自己獨立ノ意思ニ由テ之ヲ改正セラル、ノ決意アル場
合ノ外ハ之カ變更ヲ許サスト爲スニ在リ

法律上ヨリ本條ヲ解スルトキハ憲法ノ形式上ノ効力ヲ定メタルモノナリ第七十
三條ニ於テ憲法改正發議ノ權ハ天皇ニ在ルコトヲ明ニシ之ヲ改正スルノ議決ハ
議員三分ノ二以上ノ多數決ヲ要スルコトヲ規定シ猶其他ノ形式上ノ要件トシテ
本條ニ於テ天皇ノ發議權ハ丁年ニ達セラレタル天皇ノ發議權ナルコトヲ附加シ
タルナリ
尋常ノ法律又ハ一般ノ政務ニ對シテハ攝政ハ即チ天皇ノ名ニ於テ天皇ノ大權ヲ
行フニモ拘ハラス憲法ノ法力ハ尋常法律ノ上ニ在テ皇室典範ト共ニ天皇ノ名ニ
於テ代理者トシテ發議權ヲ取ルコトヲ許サ、ルナリ
憲法ヲ變更スルコトハ從來ノ規定ヲ増減シ又ハ修正スルニ止マラスシテ憲法ト
同一ノ効力アル命令ヲ發スルコトヲモ含メリ故ニ此憲法ヲ其儘ニ存シ置キ間接
ニ之ト匹敵スル法律又ハ命令ヲ發スルコトアルトキハ憲法ヲ變更スル者ト認ム
歐洲ノ或學者例ヘハロンネ、コンラト等ノ說ニヨレハ憲法ヲ注釋スル者ハ憲法
ヲ變更ストノ原則ヲ唱道セリ即チ法律ヲ作りテ憲法ノ不備ヲ補フ場合ニ憲法ノ
意味ヲ説明シ一定ノ解釋ヲ附スルトキハ其結果トシテ間接ニ憲法ノ規定ヲ左右

スルコトト爲ルヲ以テ憲法ヲ注釋スルノ法律及命令ハ即チ憲法ヲ變更スルモノナリト論セリ此議論ハ憲法ノ大切ナルコトヲ立證スル爲メニ主張スル所ニシテ其主意ハ嘉ミスヘシト雖モ必スシモ憲法ノ注釋ヲ禁スルノ原則ヲ我憲法ニ推及シテ論スルヲ得ヘキニ非サルナリ何トナレハ憲法ノ明文ニ於テ憲法ハ自カラ自己ヲ解釋シテ他人ノ之ヲ解釋スルヲ許サストノ箇條ヲ明定セサレハナリ加之ナラス別ニ解釋ヲ禁スルノ明文モナケレハ憲法ノ主意ヲ敷衍スル立法ハ固ヨリ立法權即チ天皇カ國會ノ協賛ヲ經テ行フ所ノ立法權ニ存スルナリ

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用井タルニ拘ラ

ス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有

ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十

七條ノ例ニ依ル

本條ノ規定モ亦憲法ノ形式上ノ効力ヲ定メタルモノニシテ新ニ政權ノ作用ヲ規定シタルモノニ非ス從來憲法ト名ケラル、法力ノ尋常法律ヨリモ一層高キ法典

ノ備ハラサル國ニ在テハ新ニ憲法ヲ制定スルトキハ其憲法ト從來ニ發布シタル法律規則トノ關係ハ如何ナルモノナリヤノ問題ニ對シ本條ノ規定ヲ必要トスルナリ

憲法ノ明文ニ依ルトキハ主權者ノ命令ヲ其性質ニ由テ區別スルノミナラス又其形式ニ由テ區別セリ即チ法律ト命令トハ自カラ別種ノ効力アルモノニシテ之ヲ制定スルノ機關ヲ異ニシ且ツ二者相抵觸スル場合ニハ法律ハ命令ノ上ニ在リ故ニ命令ト云ヒ法律ト稱スル名目ハ憲法ヲ執行スルニ當テハ法規ノ價ヲ決スルニ最モ必要ナル標準ナリ從來ノ命令ハ法律規則又ハ其他各種ノ名稱ヲ附シタルニ拘ハラズ總テ同一ノ効力アリシモノナリ故ニ其名稱ノ異ナルハ立法部内ノ便宜ニ出テタル事柄ニ過キスシテ法律ト命令ト抵觸シタリシ場合ニ命令ヲ捨テ、法律ニ從フコトヲ許サ、リシナリ

以上ノ場合ニ在テ新ニ憲法ヲ布クトキハ從來ノ法令ハ總テ其効力ヲ有セシムルカ又ハ全ク之ヲ無効力ノモノト爲スカ二者其何レカニ解釋セサル可カラス我憲法ハ法律ノ繼受ヲ原則トシ憲法ハ新ナル法律世界ヲ作ルモノニ非スシテ從來ノ

法ノ上ニ一種ノ成文律ヲ増加シタルモノナリトノ見解ヲ採レルヲ以テ從來ノ命令ニシテ憲法ノ規定ト抵觸セサルモノハ猶遵奉ノ効力ヲ有セシム
 法律規則命令ノ憲法ト抵觸スルニ二様ノ別アリ一ハ命令ノ性質ニ於テ矛盾シ他ハ命令ノ形式ニ於テ矛盾スルナリ形式上ノ矛盾トハ從來行政命令ヲ以テ發シタル事柄ニシテ憲法實施ノ上ハ法律ノ形式ヲ必要トスルニ至リタルモノヲ云フ形式上ノ矛盾セルハ憲法ノ實施ニ際シ之ヲ不問ニ附シ必スシモ其効力ヲ失ハシメサルナリ例ヘハ人民ノ自由ヲ制限スルコトハ法律ニ由ラサレハ之ヲ爲シ得サルヲ以テ憲法ノ原則トセリ然ルニ從來府縣ノ命令ヲ以テ人身ノ自由ニ立入レルモノニ就テハ憲法ニ之ヲ認ムル以上ハ憲法實施後モ猶其効力ヲ存スレトモ之ニ反シテ憲法ノ明ニ許サ、ル所ノモノハ其効力ヲ失フモノナリ
 本條第二項ニ歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ六十七條ノ例ニ依ルコトヲ規定セリ政府ノ義務ニ係ル契約トハ專ラ法律上ノ義務ニ係ルモノヲ云フ故ニ法律ノ認メテ政府ノ義務ニ在リト爲サ、ルモノハ固ヨリ之ニ依テ其効力ヲ失却スルノ限ニ非ス詳言スレハ專ハラ國庫ニ對スルノ義務ヲ云ヒ政府カ

行政上ノ一個人ニ對スル權利義務ノ關係ヲ指スニ非ス
 命令トハ從來ノ慣行ニ於ケル行政上ノ契約ヲ指スモノニシテ學問上ニテハ之ヲ公約ト稱セリ例ヘハ政府カ郵船會社若クハ鐵道會社ニ向ヒテ一定ノ命令書ヲ與ヘ會社ノ之ニ對シテ請書ヲ出スコトアリ本章ニ所謂命令トハ此事ヲ指示スルモノナリ而シテ其性質ハ寧ロ契約ニ屬シ人民一般ノ服從義務ニ由テ命令ヲ下シタルモノニ非ス若シ此命令ナル文字ヲ行政公約ノ外ニ於ケル廣キ意味ニ解スルトキハ從來ノ政府ノ會計上ノ命令ハ悉ク皆後來ニ向テ其効力ヲ有スルノ解釋ト爲リ憲法ノ精神ニ背戾スルニ至ルヘシ

帝國憲法大尾

